

令和4年度第1回

新宿区

区政モニターアンケート報告書

- テーマ1 震災に備えて
- テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて
- テーマ3 がん検診について
- テーマ4 男女共同参画に関する意識について



新宿区総合政策部区政情報課広聴係

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の概要	1
3 集計・分析結果を読む際の注意点	1
4 回答者の属性	2
II 調査の結果	5
テーマ1 震災に備えて	5
(1) 家屋の建築年・建築構造	5
(2) 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況	6
(3) 耐震診断の意向	8
(4) 耐震診断を受けない理由	10
(5) 耐震補強工事の意向	12
(6) 耐震補強工事を行っていない理由	14
(7) 家具転倒防止器具の取り付けの意向	17
(8) 家具転倒防止器具を取り付けていない理由	19
(9) 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況	20
テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて	22
(1) 実際に行っている3R活動	22
(2) 食品ロスを減らすために、行っていること	25
(3) プラスチックごみ削減のために、行っていること	35
(4) ごみ・資源の出し方	42
(5) 資源(古紙)の日又は地域の集団回収に出している雑がみ	48
テーマ3 がん検診について	49
(1) 区のがん検診の認知	49
(2) 知っている区のがん検診	51
(3) がん検診の機会	53
(4) 区のがん検診受診の有無	55
(5) 受診しなかった理由	57
テーマ4 男女共同参画に関する意識について	58
(1) さまざまな分野での男女平等意識について	58
(2) 男女共同参画に関する言葉について	72
(3) 仕事と生活のバランスの満足度	73
(4) 男女とも働きやすい環境づくりについて	74
(5) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について	75

(6) DVだと思ふ行為について	78
(7) DVについての相談機関の窓口について	81
(8) 男女共同参画を推進するために必要なことについて	84
III 資料（調査票）	86

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、今日的な区政課題への迅速な対応の検討や的確な事業執行を進める上での基礎資料とするため、区政モニターの方を対象にアンケート調査を実施し、今後の区政運営の参考とするものである。

2 調査の概要

《第1回》	調査対象	区政モニター 1,000名
	調査内容	テーマ1 震災に備えて
		テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて
		テーマ3 がん検診について
		テーマ4 男女共同参画に関する意識について
	調査期間	令和4年7月26日～令和4年8月9日
	調査方法	郵送配布・郵送回収
回答数	906票（回収率 90.6%）	

3 集計・分析結果を読む際の注意点

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表している。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 「MT」は、「Multiple Total」の略で、複数回答の合計数を示している。
- 回答はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。
- 複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがある。
- 複数の選択肢をあわせた項目の構成比（%）は、その選択肢の選択者数を基数で除して算出している。そのため、各選択肢の構成比を足し上げた数値と差が生じることがある。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表す。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。よって「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。

統計の数値を考察するにあたり、本報告書では次の表現を用いる。

（例）	⇒	（表現）
80.1～80.9%	⇒	約8割
81.0～82.9%	⇒	8割強
83.0～84.9%	⇒	8割台半ば近く
85.0～85.9%	⇒	8割台半ば
86.0～87.9%	⇒	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	⇒	9割近く
89.0～89.9%	⇒	9割弱

I 調査の概要

○ライフステージの名称及び内容は、以下のとおりである。

独身期：40歳未満の独身者

家族形成期：子どものいない40歳未満の夫婦、または一番上の子どもが入学前の人

家族成長前期：一番上の子どもが小・中学生の人

家族成長後期：一番上の子どもが高校・大学生の人

家族成熟期：64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人

(生計を別にした子どもがいる人を含む)

高齢期：65歳以上の人(生計を別にした子どもがいる人を含む)

その他：40歳から64歳の独身者、子どものいない40歳から64歳の夫婦など

4 回答者の属性

(1) 居住地域

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 四谷	121	13.4	6 戸塚	106	11.7
2 簗笥町	118	13.0	7 落合第一	91	10.0
3 榎町	90	9.9	8 落合第二	70	7.7
4 若松町	101	11.1	9 柏木	71	7.8
5 大久保	92	10.2	10 角筈・区役所	46	5.1
			計	906	100.0%

(2) 性別

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 男性	376	41.5	3 自由回答	2	0.2
2 女性	509	56.2	無回答	19	2.1
			計	906	100.0%

(3) 年齢

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 18~19歳	5	0.6	9 55~59歳	84	9.3
2 20~24歳	23	2.5	10 60~64歳	80	8.8
3 25~29歳	32	3.5	11 65~69歳	50	5.5
4 30~34歳	50	5.5	12 70~74歳	74	8.2
5 35~39歳	79	8.7	13 75~79歳	51	5.6
6 40~44歳	92	10.2	14 80歳以上	67	7.4
7 45~49歳	125	13.8	無回答	5	0.6
8 50~54歳	89	9.8	計	906	100.0%

(4) 職業

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 会社員・団体職員	376	41.5	5 学生	21	2.3
2 会社役員・団体役員	51	5.6	6 専業主婦・主夫	93	10.3
3 パート・アルバイト、 非常勤、嘱託、派遣など	136	15.0	7 無職	122	13.5
4 自営業、自由業	95	10.5	8 その他	7	0.8
			無回答	5	0.6
			計	906	100.0%

(5) 職場や学校の所在地

選択肢	回答数	割合 (%)
1 新宿区内	250	36.8
2 新宿区外	425	62.6
無回答	4	0.6
計	679	100.0%

(6) 同居している家族等

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 子	340	37.5	6 兄弟姉妹	41	4.5
2 妻または夫	543	59.9	7 その他	31	3.4
3 親	110	12.1	8 ひとり暮らし	193	21.3
4 祖父母	3	0.3	無回答	9	1.0
5 孫	12	1.3	回答総計	1,282	141.5%
			計	906	100.0%

(7) 同居者数

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 1人	335	47.6	4 4人	41	5.8
2 2人	191	27.1	5 5人以上	19	2.7
3 3人	117	16.6	無回答	1	0.1
			計	704	100.0%

(8) 同居している子

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 一番上の子が小学校入学前	70	20.6	4 一番上の子が学校を卒業	98	28.8
2 一番上の子が小・中学生	89	26.2	無回答	16	4.7
3 一番上の子が高・大学生	67	19.7	計	340	100.0%

I 調査の概要

(9) 新宿区での居住年数

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 1年未満	1	0.1	5 10年以上20年未満	192	21.2
2 1年以上3年未満	56	6.2	6 20年以上30年未満	144	15.9
3 3年以上5年未満	86	9.5	7 30年以上	267	29.5
4 5年以上10年未満	144	15.9	無回答	16	1.8
			計	906	100.0%

(10) 住居形態

選択肢		回答数	割合 (%)
一戸建て	1 持ち家の一戸建て	229	25.3
	2 賃貸の一戸建て	19	2.1
	3 社宅・公務員官舎の一戸建て	4	0.4
	4 その他	11	1.2
集合住宅	5 分譲マンション・アパート	311	34.3
	6 賃貸マンション・アパート	256	28.3
	7 賃貸のUR都市機構（旧公団）・公社のマンション・アパート	5	0.6
	8 賃貸の都営・区営住宅	34	3.8
	9 社宅・公務員官舎	19	2.1
	10 その他	9	1.0
無回答		9	1.0
計		906	100.0%

(11) ライフステージ

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 独身期	96	10.6	5 家族成熟期	55	6.1
2 家族形成期	103	11.4	6 高齢期	242	26.7
3 家族成長前期	87	9.6	7 その他	254	28.0
4 家族成長後期	64	7.1	無回答	5	0.6
			計	906	100.0%

Ⅱ 調査の結果

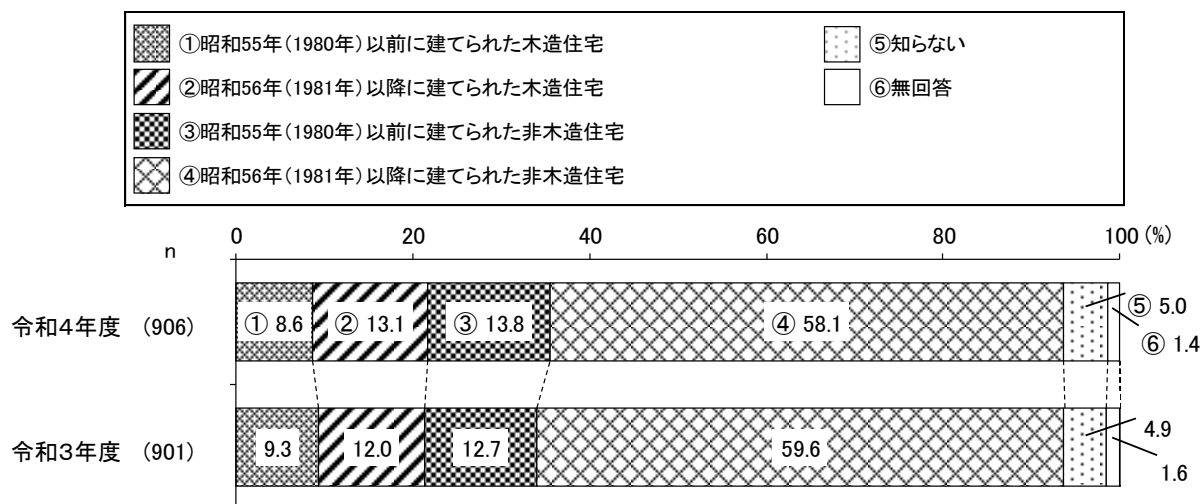
テーマ1 震災に備えて

(1) 家屋の建築年・建築構造

◎ 《昭和56年(1981年)以降に建てられた住宅》が7割強

問1 あなたがお住まいの建物について、教えてください。(〇は1つ)		(n=906)
1	昭和55年(1980年)以前に建てられた木造住宅	8.6%
2	昭和56年(1981年)以降に建てられた木造住宅	13.1
3	昭和55年(1980年)以前に建てられた非木造住宅	13.8
4	昭和56年(1981年)以降に建てられた非木造住宅	58.1
5	知らない	5.0
	無回答	1.4

図1-1 家屋の建築年・建築構造
(経年推移)



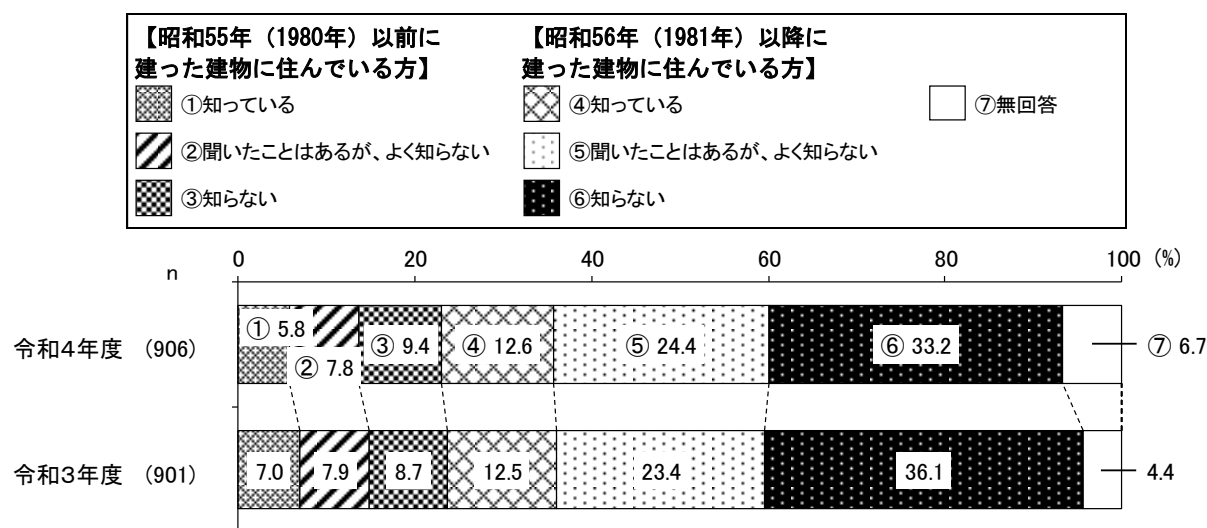
家屋の建築年・建築構造について、「昭和56年(1981年)以降に建てられた非木造住宅」(58.1%)が6割近くとなっている。一方、「昭和56年(1981年)以降に建てられた木造住宅」(13.1%)が1割台半ば近くとなっている。また、「昭和56年(1981年)以降に建てられた住宅」(「昭和56年(1981年)以降に建てられた木造住宅」+「昭和56年(1981年)以降に建てられた非木造住宅」)(71.2%)が7割強となっている。(図1-1)

（2）「建築物等耐震化支援事業」の認知状況

◎支援事業の認知状況は《知っている》が2割近く

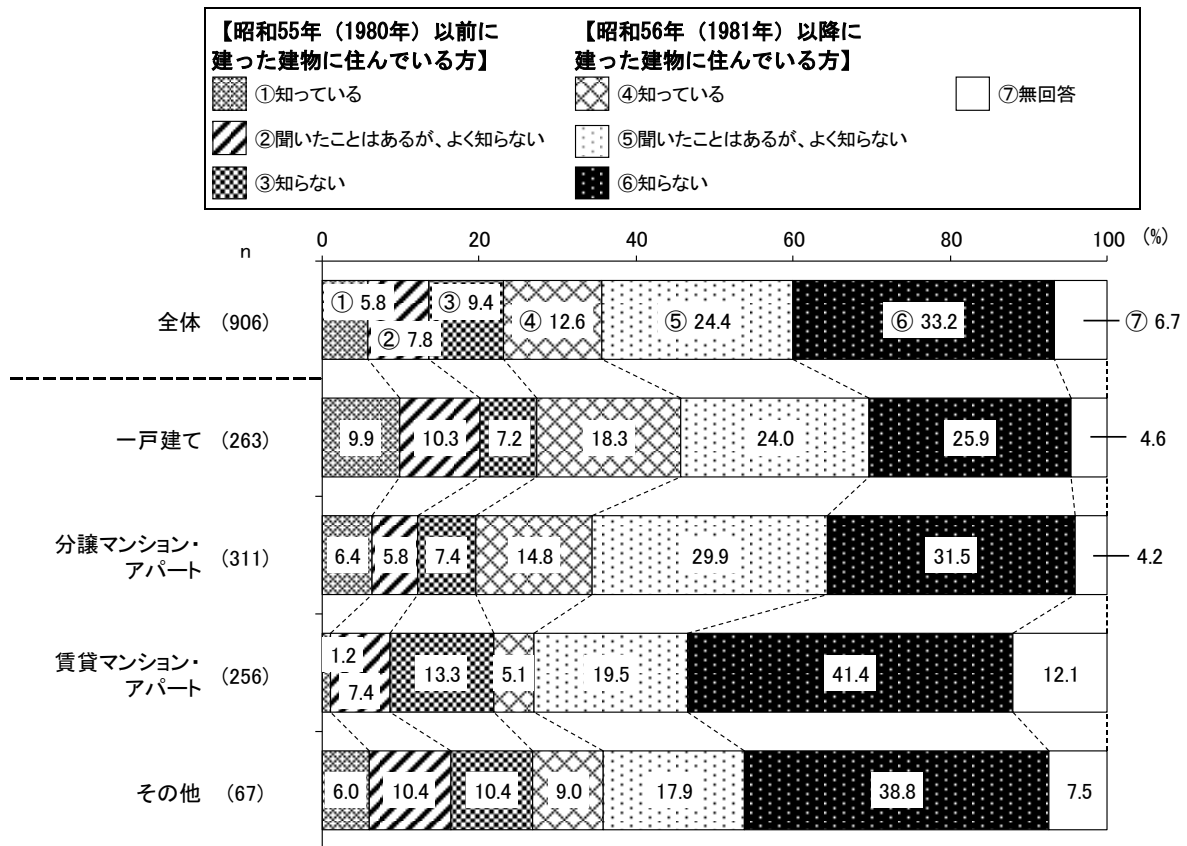
問2	区では、「建築物等耐震化支援事業」を行っています。 あなたはこの事業を知っていますか。（○は1つ）	(n=906)
【昭和55年（1980年）以前に建った建物に住んでいる方】		
1	知っている	5.8%
2	聞いたことはあるが、よく知らない	7.8
3	知らない	9.4
【昭和56年（1981年）以降に建った建物に住んでいる方】		
4	知っている	12.6
5	聞いたことはあるが、よく知らない	24.4
6	知らない	33.2
	無回答	6.7

図1-2-1 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況
（経年推移）



「建築物等耐震化支援事業」の認知状況について、建物の建築年で比べると、支援事業を「知っている」は【昭和56年（1981年）以降に建った建物に住んでいる方】（12.6%）が1割強、【昭和55年（1980年）以前に建った建物に住んでいる方】（5.8%）が1割未満となっている。また、《知っている》（【昭和55年（1980年）以前に建った建物に住んでいる方】＋【昭和56年（1981年）以降に建った建物に住んでいる方】）（18.4%）が2割近くとなっている。（図1-2-1）

図1-2-2 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況
(住居形態別4区分)



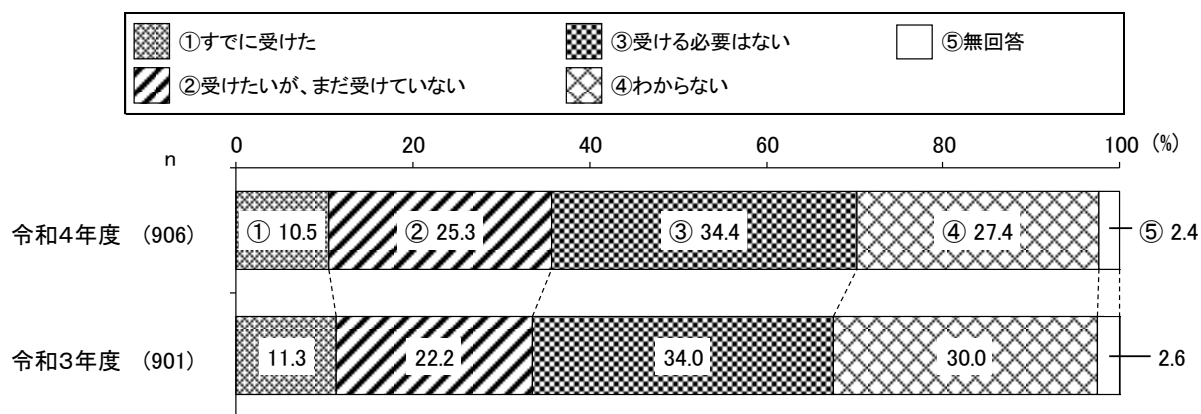
住居形態別4区分で見ると、「知っている」は、一戸建て(28.2%)が3割近くと、全体(18.4%)を9.8ポイント上回っている。(図1-2-2)

（3）耐震診断の意向

◎耐震診断を「受ける必要はない」が3割台半ば近く

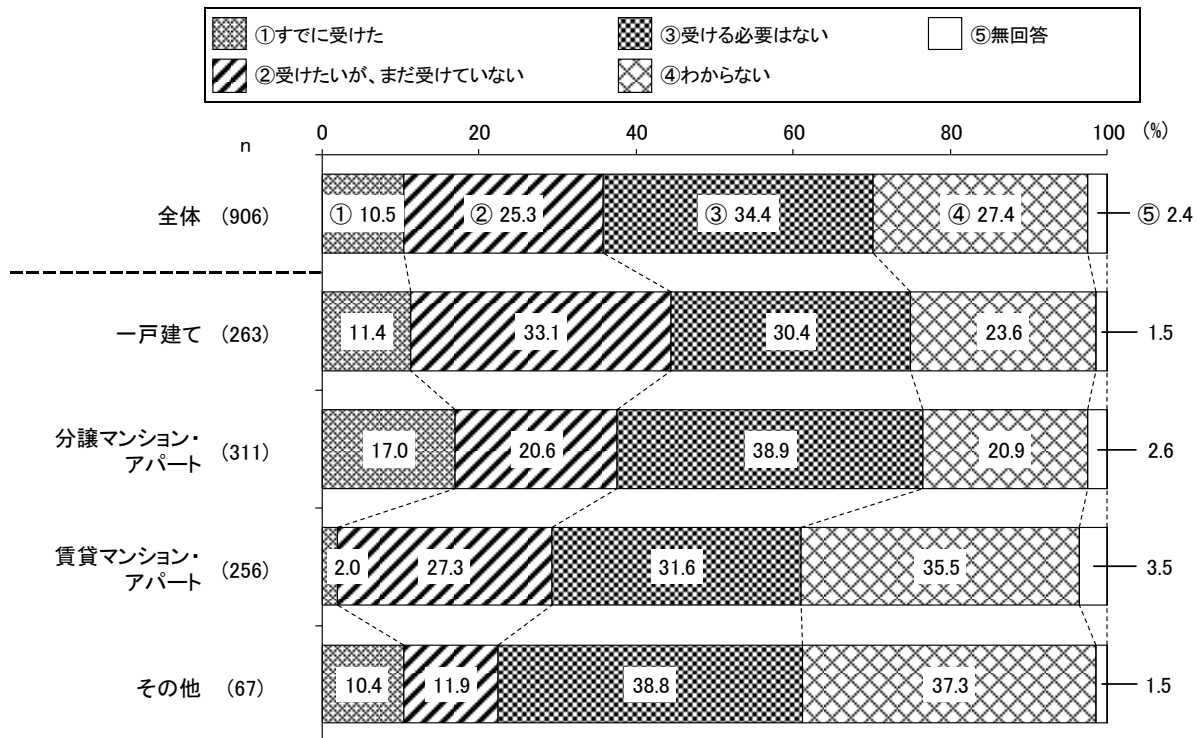
問3 あなたは、お住まいの建物について、耐震診断を受けたいと思いますか。（○は1つ）		(n=906)
1	すでに受けた	10.5%
2	受けたいが、まだ受けていない	25.3
3	受ける必要はない	34.4
4	わからない	27.4
	無回答	2.4

図1-3-1 耐震診断の意向
(経年推移)



耐震診断の意向について、「すでに受けた」(10.5%)が約1割、「受けたいが、まだ受けていない」(25.3%)が2割台半ばとなっている。一方、「受ける必要はない」(34.4%)が3割台半ば近くとなっている。(図1-3-1)

図1-3-2 耐震診断の意向
(住居形態別4区分)



住居形態別4区分で見ると、「受けたいが、まだ受けていない」は、一戸建て（33.1%）が3割台半ば近くと、全体（25.3%）を7.8ポイント上回っている。

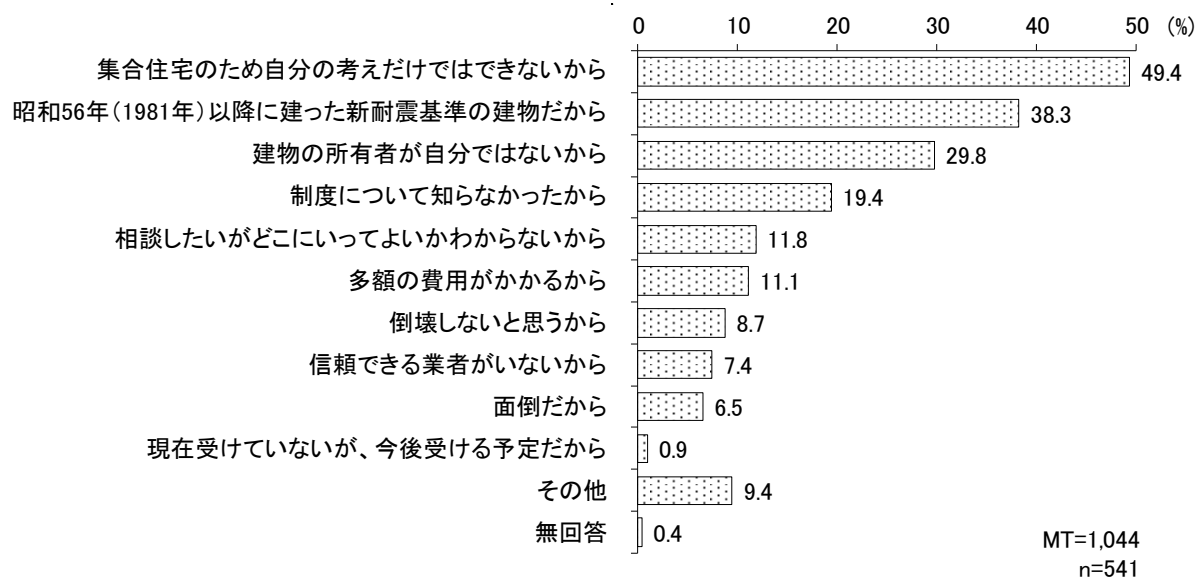
「すでに受けた」は、分譲マンション・アパート（17.0%）が1割台半ばを超え、全体（10.5%）を6.5ポイント上回っている。（図1-3-2）

（４）耐震診断を受けない理由

◎「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」が5割弱

問3-1 問3で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。 耐震診断を受けていない理由は何ですか。 (あてはまるものにいくつでも○をつけてください)		(n=541)
1	現在受けていないが、今後受ける予定だから	0.9%
2	制度について知らなかったから	19.4
3	集合住宅のため自分の考えだけではできないから	49.4
4	建物の所有者が自分ではないから	29.8
5	昭和56年(1981年)以降に建った新耐震基準の建物だから	38.3
6	多額の費用がかかるから	11.1
7	倒壊しないと思うから	8.7
8	信頼できる業者がないから	7.4
9	相談したいがどこにいったらよいかわからないから	11.8
10	面倒だから	6.5
11	その他	9.4
	無回答	0.4

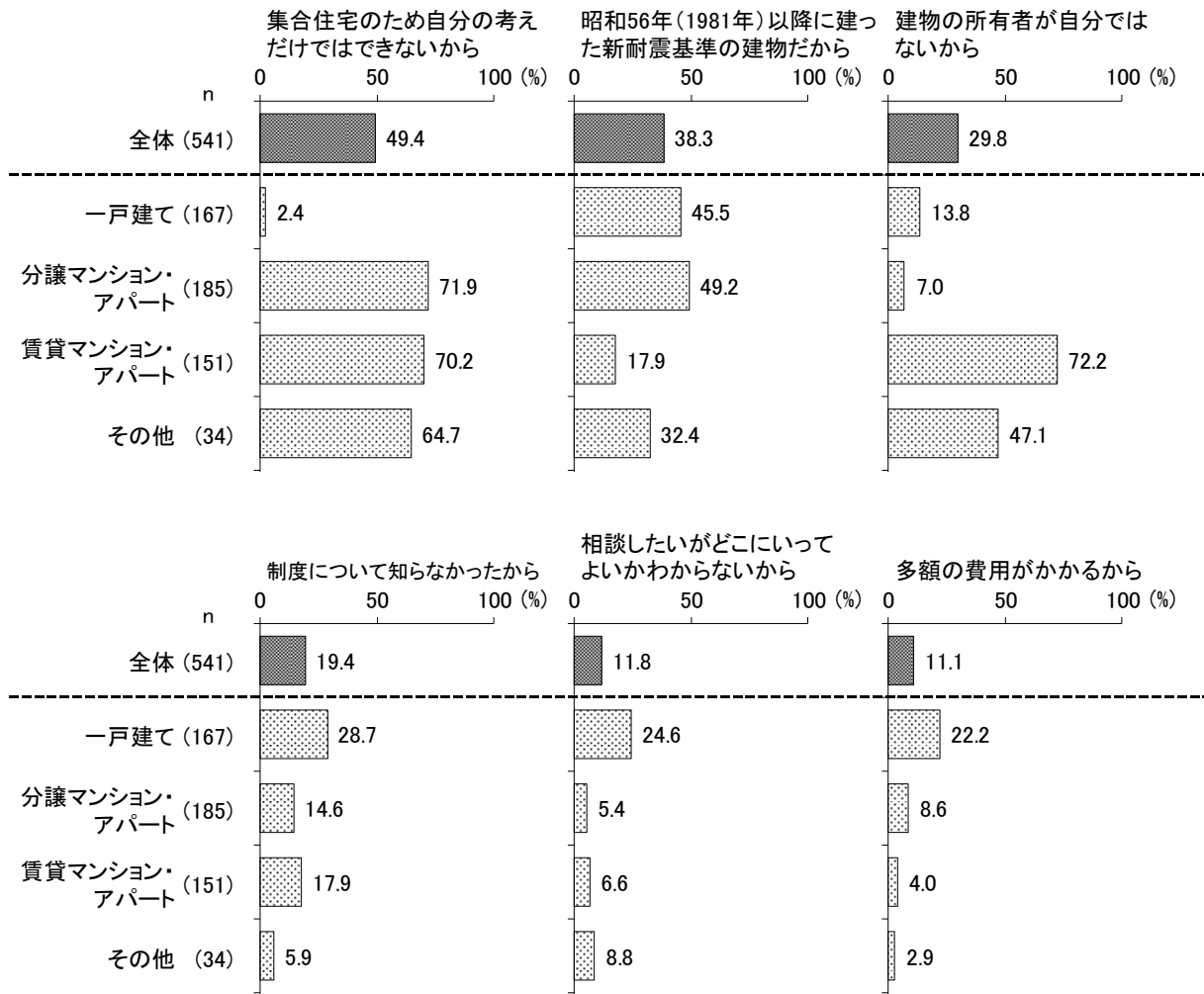
図1-4-1 耐震診断を受けない理由



耐震診断を受けない理由としては、「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」(49.4%)が5割弱で最も高く、次いで「昭和56年(1981年)以降に建った新耐震基準の建物だから」(38.3%)が4割近く、「建物の所有者が自分ではないから」(29.8%)が3割弱と続いている。

(図1-4-1)

図1-4-2 耐震診断を受けない理由
(住居形態別4区分) 上位6項目



上位6項目について、住居形態別4区分で見ると、「建物の所有者が自分ではないから」は、賃貸マンション・アパート(72.2%)が7割強と、全体(29.8%)を42.4ポイント上回っている。

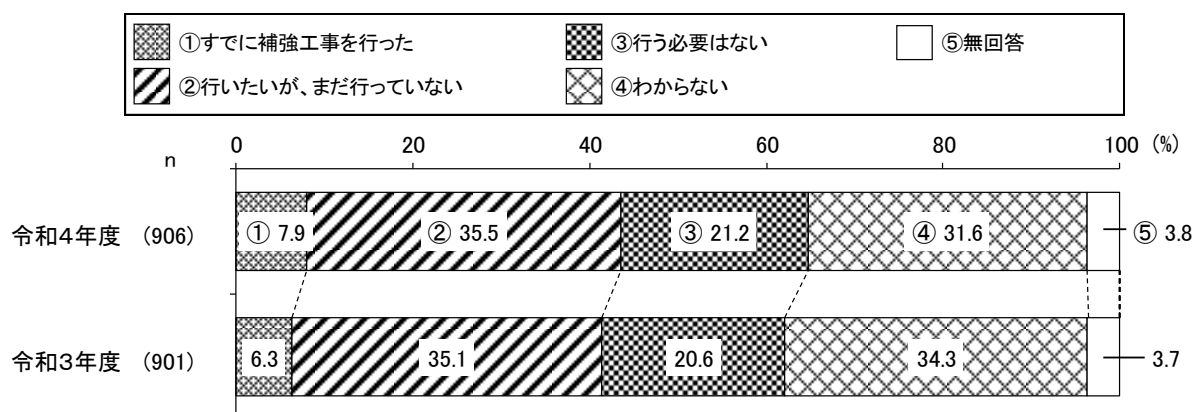
「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」は、分譲マンション・アパート(71.9%)が7割強で最も高く、全体(49.4%)を22.5ポイント上回っている。(図1-4-2)

（5）耐震補強工事の意向

◎耐震補強工事を「行いたい、まだ行っていない」が3割台半ば

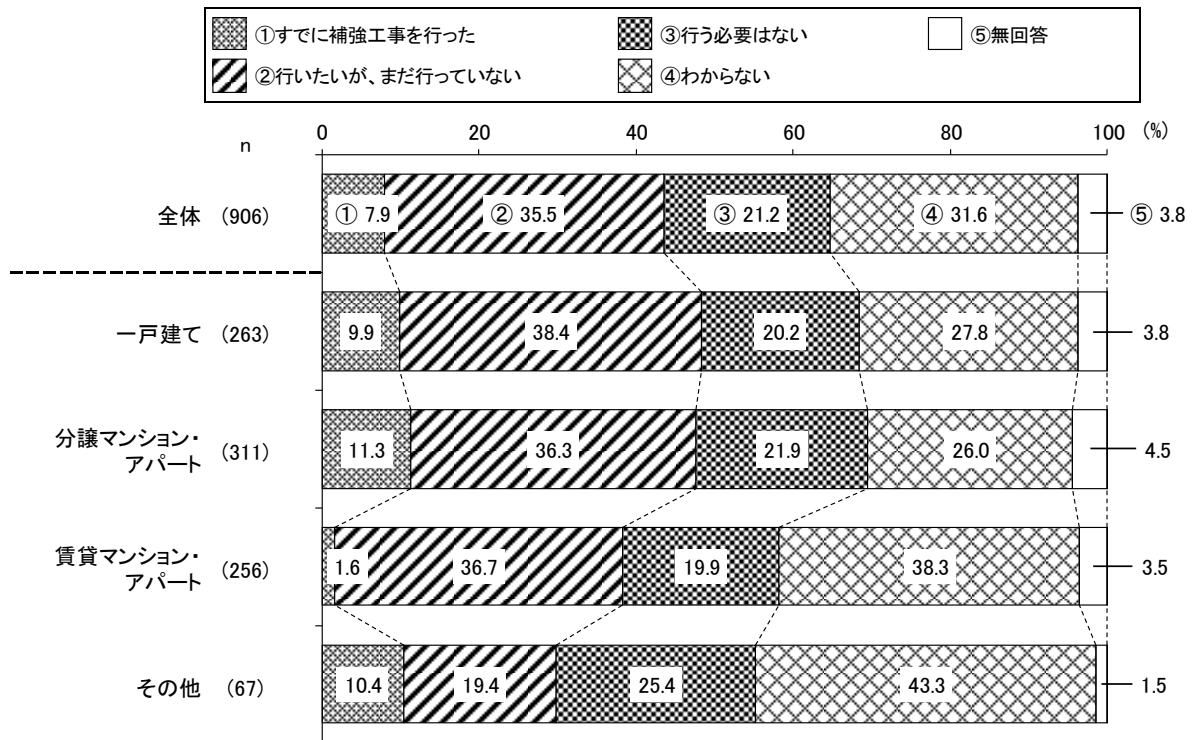
問4 お住まいの建物が耐震診断の結果で耐震補強が必要な場合、あなたは補強工事を行いた いと思いますか。（○は1つ）		(n=906)
1	すでに補強工事を行った	7.9%
2	行いたい、まだ行っていない	35.5
3	行う必要はない	21.2
4	わからない	31.6
	無回答	3.8

図1-5-1 耐震補強工事の意向
(経年推移)



耐震補強工事の意向について、「行いたい、まだ行っていない」(35.5%)が3割台半ばで最も高く、次いで「行う必要はない」(21.2%)が2割強、「すでに補強工事を行った」(7.9%)が1割未満となっている。(図1-5-1)

図1-5-2 耐震補強工事の意向
(住居形態別4区分)



住居形態別4区分で見ると、「すでに補強工事を行った」は、分譲マンション・アパート(11.3%)が1割強と、全体(7.9%)を3.4ポイント上回っている。(図1-5-2)

（6）耐震補強工事を行っていない理由

◎「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」が5割近く

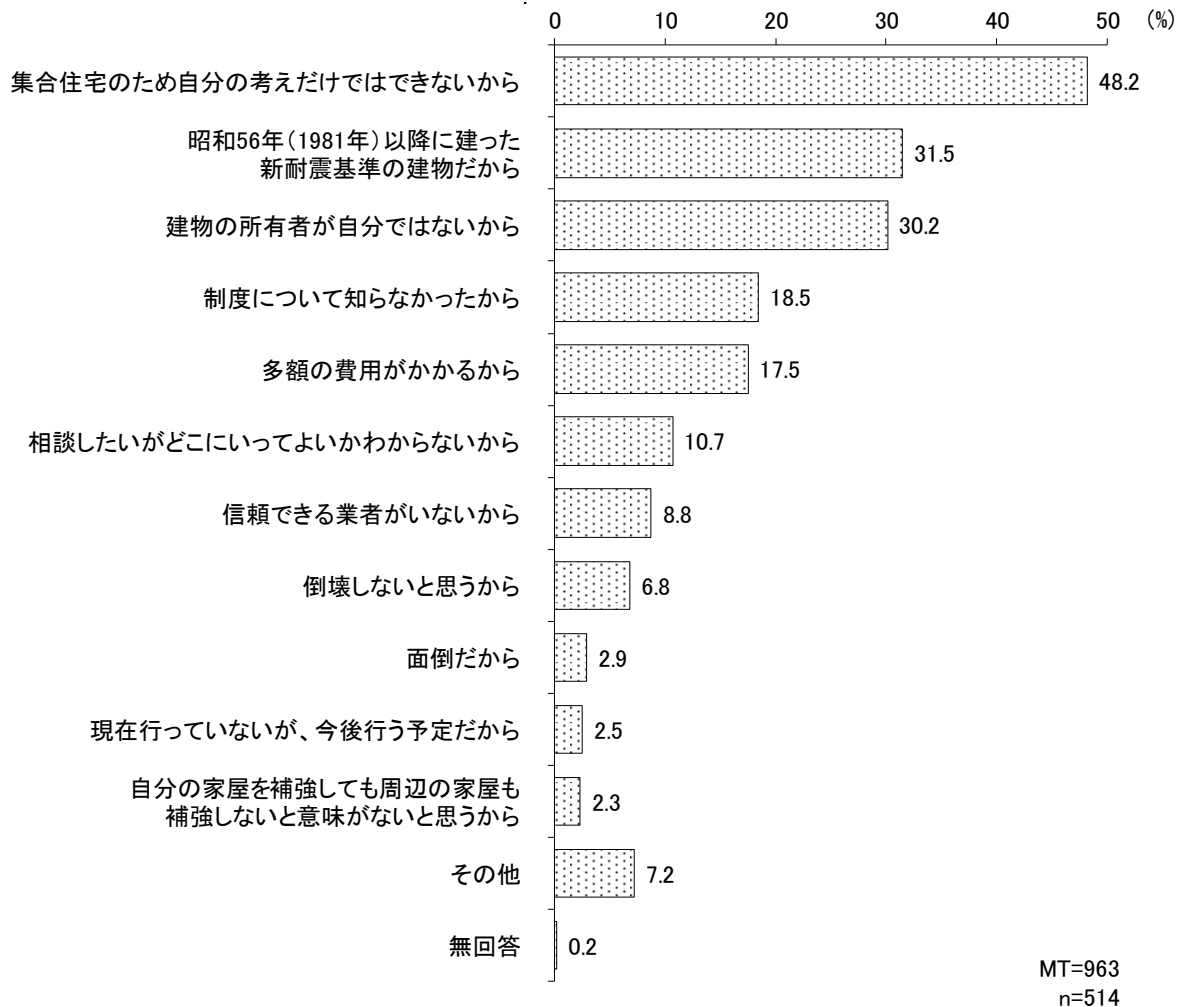
問4-1 問4で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

耐震補強工事を行っていない理由は何ですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

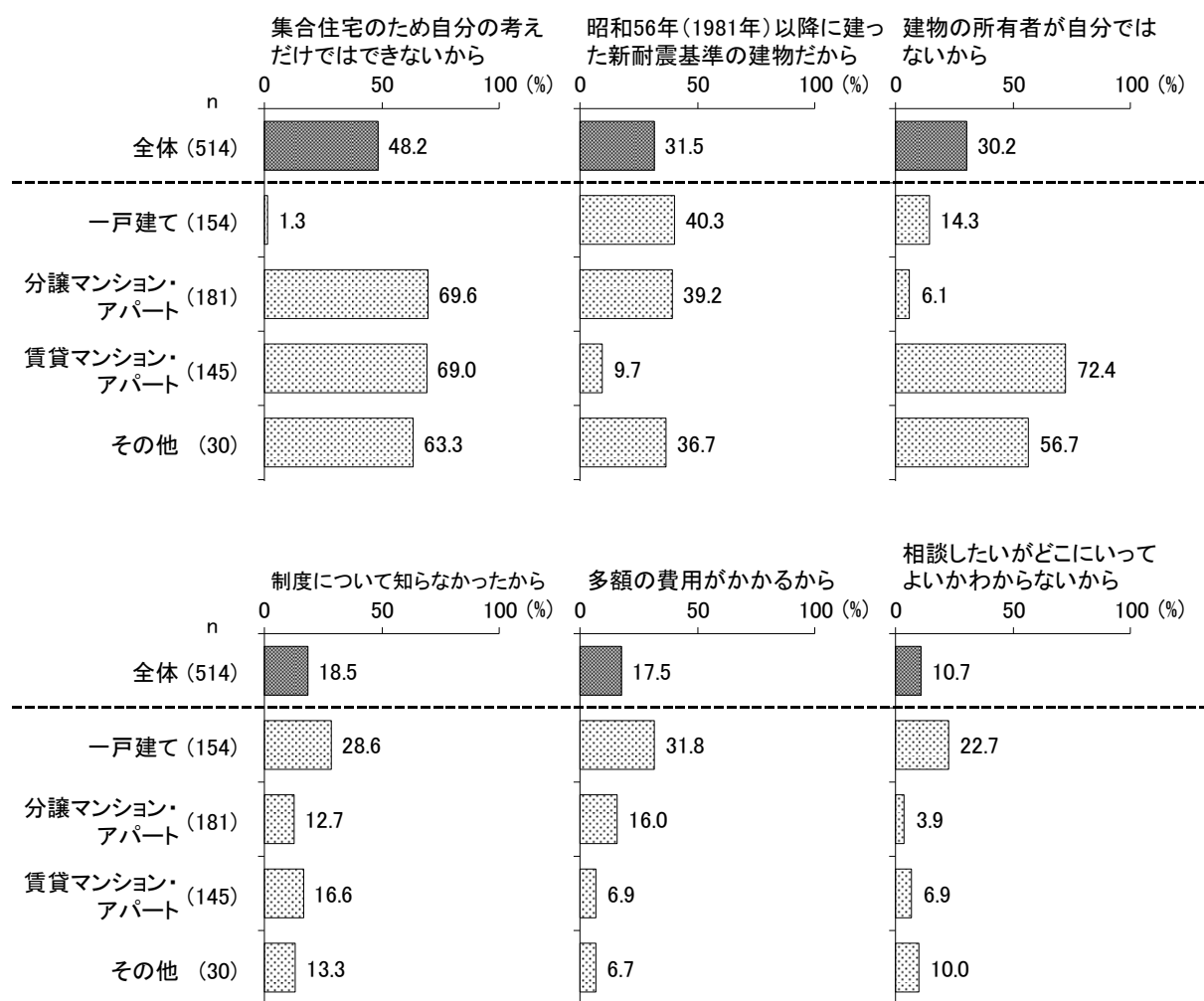
	(n=514)
1 現在行っていないが、今後行う予定だから	2.5%
2 制度について知らなかったから	18.5
3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから	48.2
4 建物の所有者が自分ではないから	30.2
5 昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから	31.5
6 多額の費用がかかるから	17.5
7 倒壊しないと思うから	6.8
8 信頼できる業者がないから	8.8
9 相談したいがどこにいったらよいかわからないから	10.7
10 自分の家屋を補強しても周辺の家屋も補強しないと意味がないと思うから	2.3
11 面倒だから	2.9
12 その他	7.2
無回答	0.2

図1-6-1 耐震補強工事を行っていない理由



耐震補強工事を行っていない理由としては、「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」(48.2%)が5割近くで最も高く、次いで「昭和56年(1981年)以降に建った新耐震基準の建物だから」(31.5%)が3割強、「建物の所有者が自分ではないから」(30.2%)が約3割と続いている。(図1-6-1)

図1-6-2 耐震補強工事を行っていない理由
（住居形態別4区分）上位6項目



上位6項目について、住居形態別4区分で見ると、「建物の所有者が自分ではないから」は、賃貸マンション・アパート（72.4%）が7割強と、全体（30.2%）を42.2ポイント上回っている。

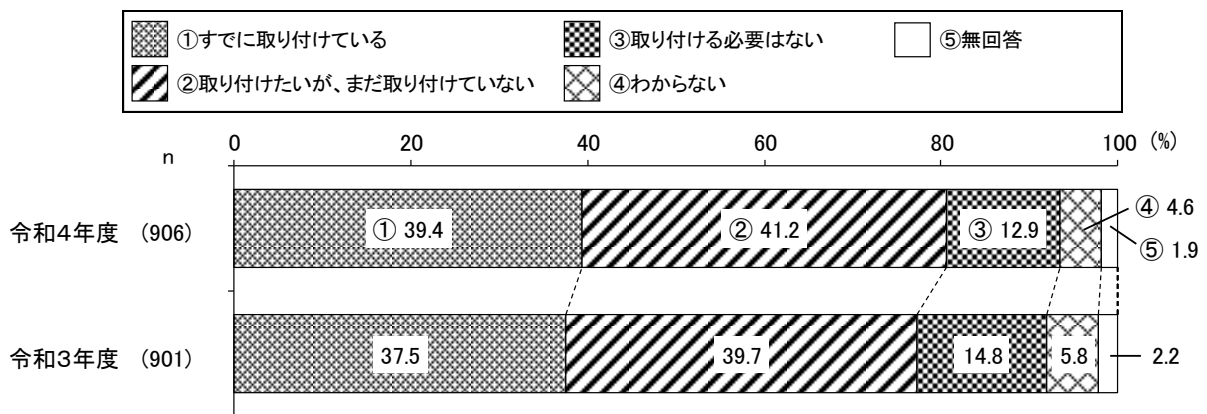
「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」は、分譲マンション・アパート（69.6%）が7割弱と、全体（48.2%）を21.4ポイント上回っている。（図1-6-2）

(7) 家具転倒防止器具の取り付けの意向

◎家具転倒防止器具を「すでに取り付けている」が4割弱

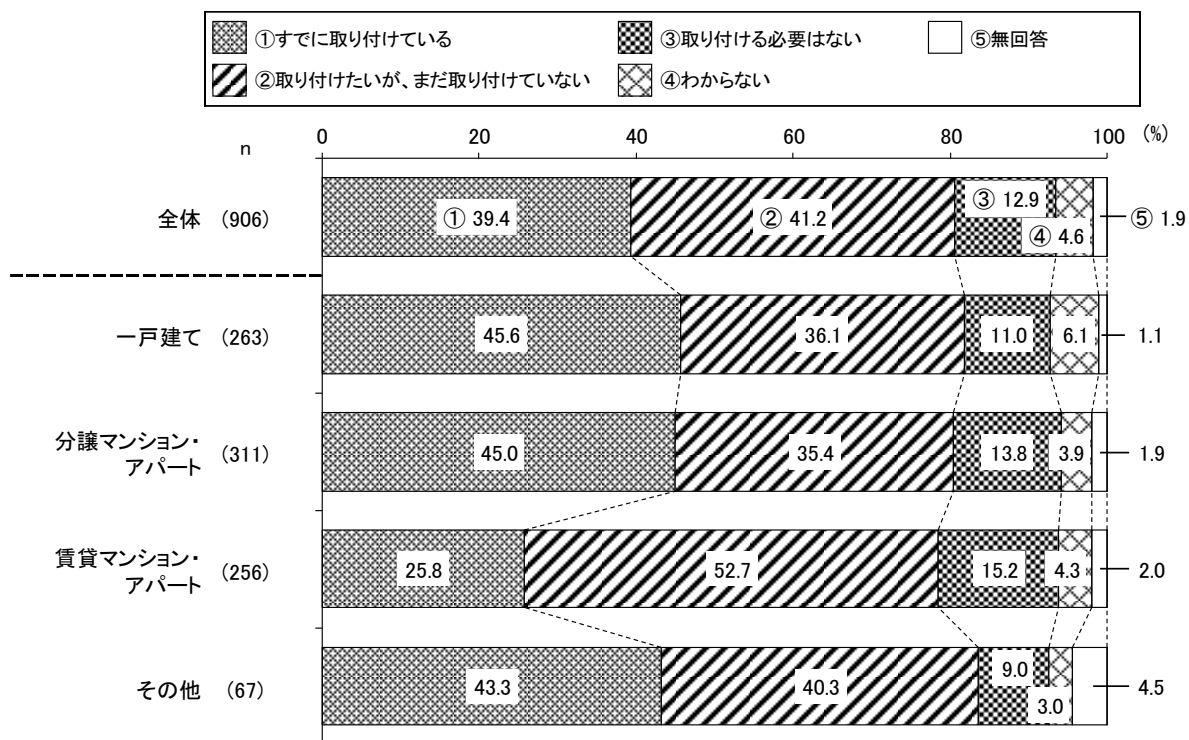
問5 あなたは家具転倒防止器具を取り付けたいと思いますか。(〇は1つ)		(n=906)
1	すでに取り付けている	39.4%
2	取り付けたいが、まだ取り付けていない	41.2
3	取り付ける必要はない	12.9
4	わからない	4.6
	無回答	1.9

図1-7-1 家具転倒防止器具の取り付けの意向
(経年推移)



家具転倒防止器具の取り付けの意向について、「すでに取り付けている」(39.4%)が4割弱、「取り付けたいが、まだ取り付けていない」(41.2%)が4割強となっている。一方、「取り付ける必要はない」(12.9%)が1割強となっている。(図1-7-1)

図1-7-2 家具転倒防止器具の取り付けの意向
（住居形態別4区分）



住居形態別4区分で見ると、「取り付けたいが、まだ取付けていない」は、賃貸マンション・アパート（52.7%）が5割強と、全体（41.2%）を11.5ポイント上回っている。

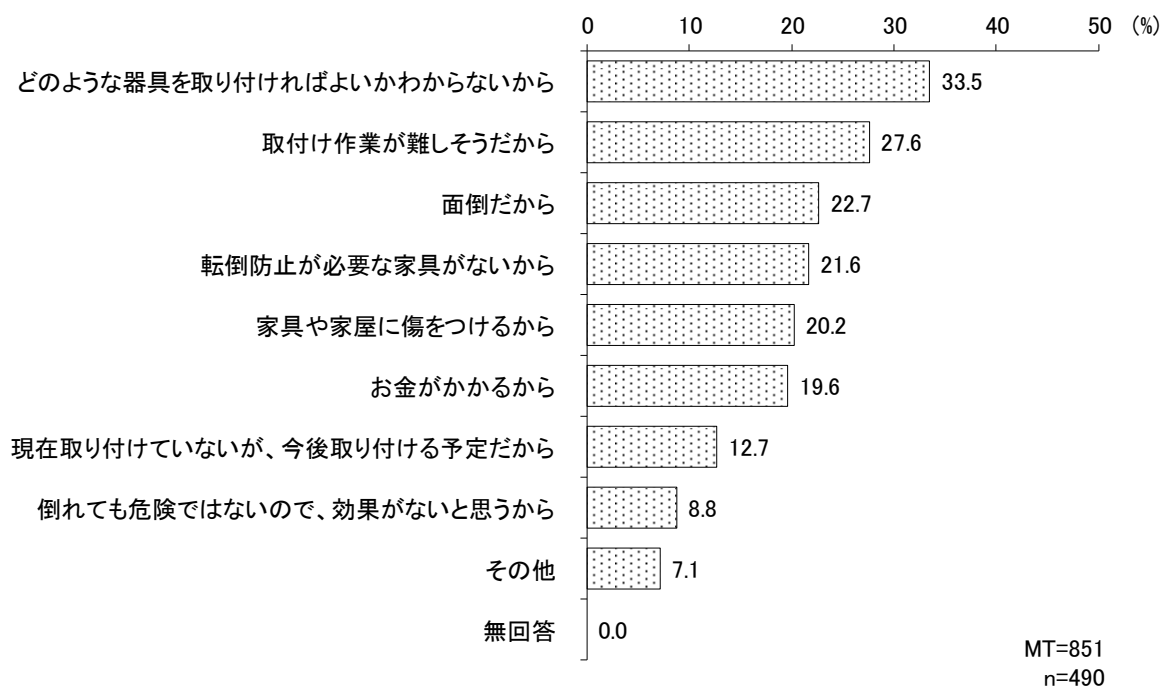
（図1-7-2）

(8) 家具転倒防止器具を取り付けていない理由

◎「どのような器具を取り付ければよいかわからないから」が3割台半ば近く

理由	(n=490)
問5-1 問5で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。 家具転倒防止器具を取り付けていない理由は何ですか。 (あてはまるものにいくつでも○をつけてください)	
1 現在取り付けていないが、今後取り付ける予定だから	12.7%
2 どのような器具を取り付ければよいかわからないから	33.5
3 家具や家屋に傷をつけるから	20.2
4 取付け作業が難しそうだから	27.6
5 お金がかかるから	19.6
6 倒れても危険ではないので、効果がないと思うから	8.8
7 面倒だから	22.7
8 転倒防止が必要な家具がないから	21.6
9 その他	7.1
無回答	0.0

図1-8 家具転倒防止器具を取り付けていない理由



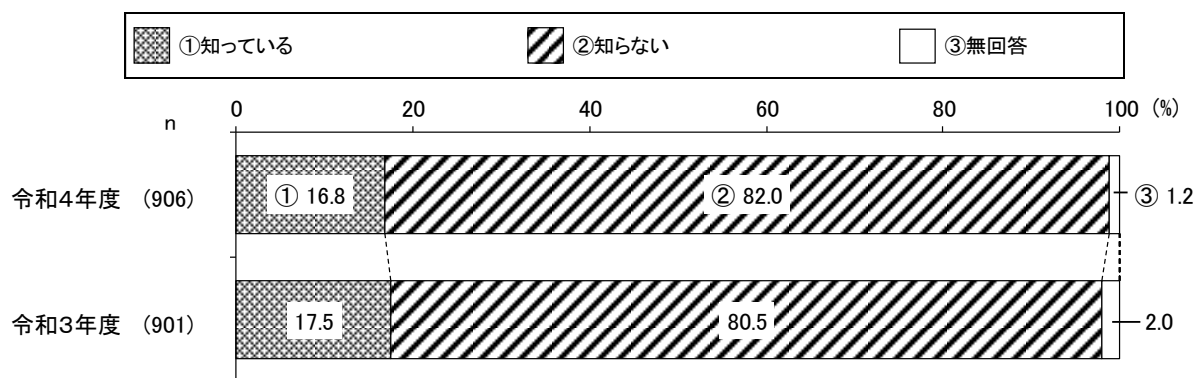
家具転倒防止器具を取り付けていない理由としては、「どのような器具を取り付ければよいかわからないから」(33.5%)が3割台半ば近くで最も高く、次いで「取付け作業が難しそうだから」(27.6%)が2割台半ばを超え、「面倒だから」(22.7%)が2割強、「転倒防止が必要な家具がないから」(21.6%)が2割強、「家具や家屋に傷をつけるから」(20.2%)が約2割と続いている。(図1-8)

（9）「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況

◎事業を「知らない」が8割強

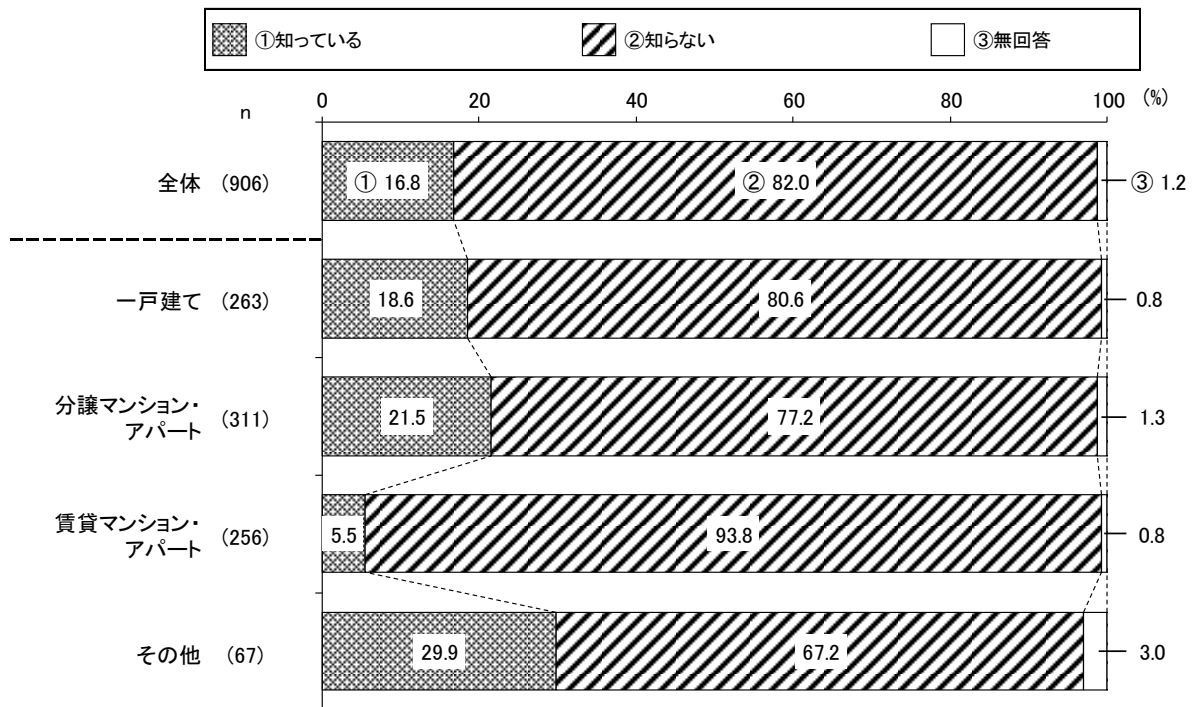
問6 あなたは、区が行っている家具転倒防止器具取付け事業（調査費・取付け費無料）を知っていますか。（〇は1つ）		(n=906)
1	知っている	16.8%
2	知らない	82.0
	無回答	1.2

図1-9-1 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況
（経年推移）



「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況について、事業を「知らない」（82.0%）が8割強となっている。（図1-9-1）

図1-9-2 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況
(住居形態別4区分)



住居形態別4区分で見ると、「知らない」では、賃貸マンション・アパート（93.8%）が9割台半ば近くと、全体（82.0%）を11.8ポイント上回っている。（図1-9-2）

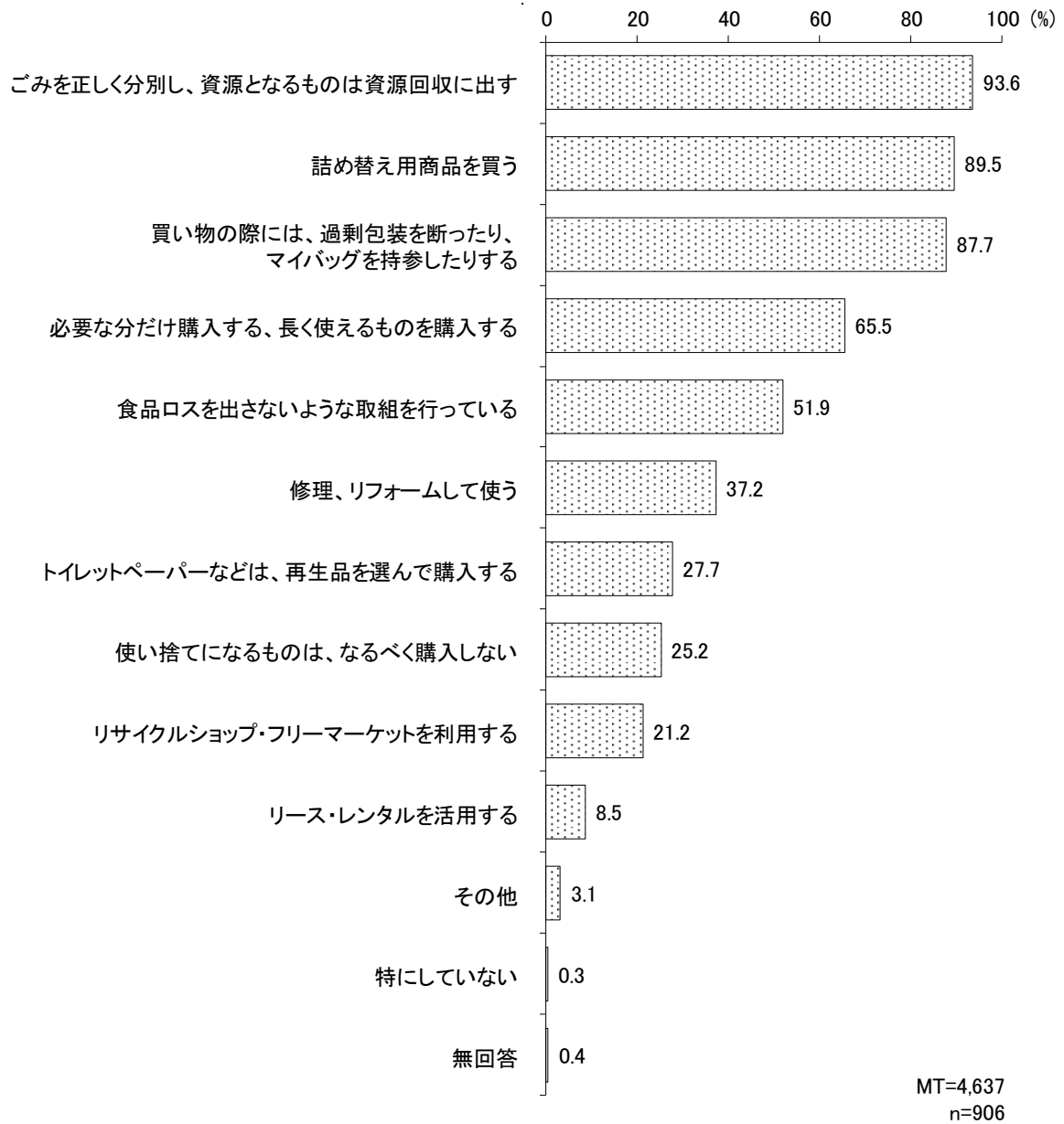
テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて

（1）実際に行っている3R活動

◎「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」が9割台半ば近く

問7 以下の活動（「3R活動」）の中であなたが実際に行っているものはありますか。 （あてはまるものいくつかでも○をつけてください）		(n=906)
【リデュース】		
1	必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する	65.5%
2	買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする	87.7
3	食品ロスを出さないような取組を行っている	51.9
4	使い捨てになるものは、なるべく購入しない	25.2
【リユース】		
5	詰め替え用商品を買う	89.5
6	リサイクルショップ・フリーマーケットを利用する	21.2
7	リース・レンタルを活用する	8.5
8	修理、リフォームして使う	37.2
【リサイクル】		
9	ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す	93.6
10	トイレットペーパーなどは、再生品を選んで購入する	27.7
11	その他	3.1
12	特にしていない	0.3
	無回答	0.4

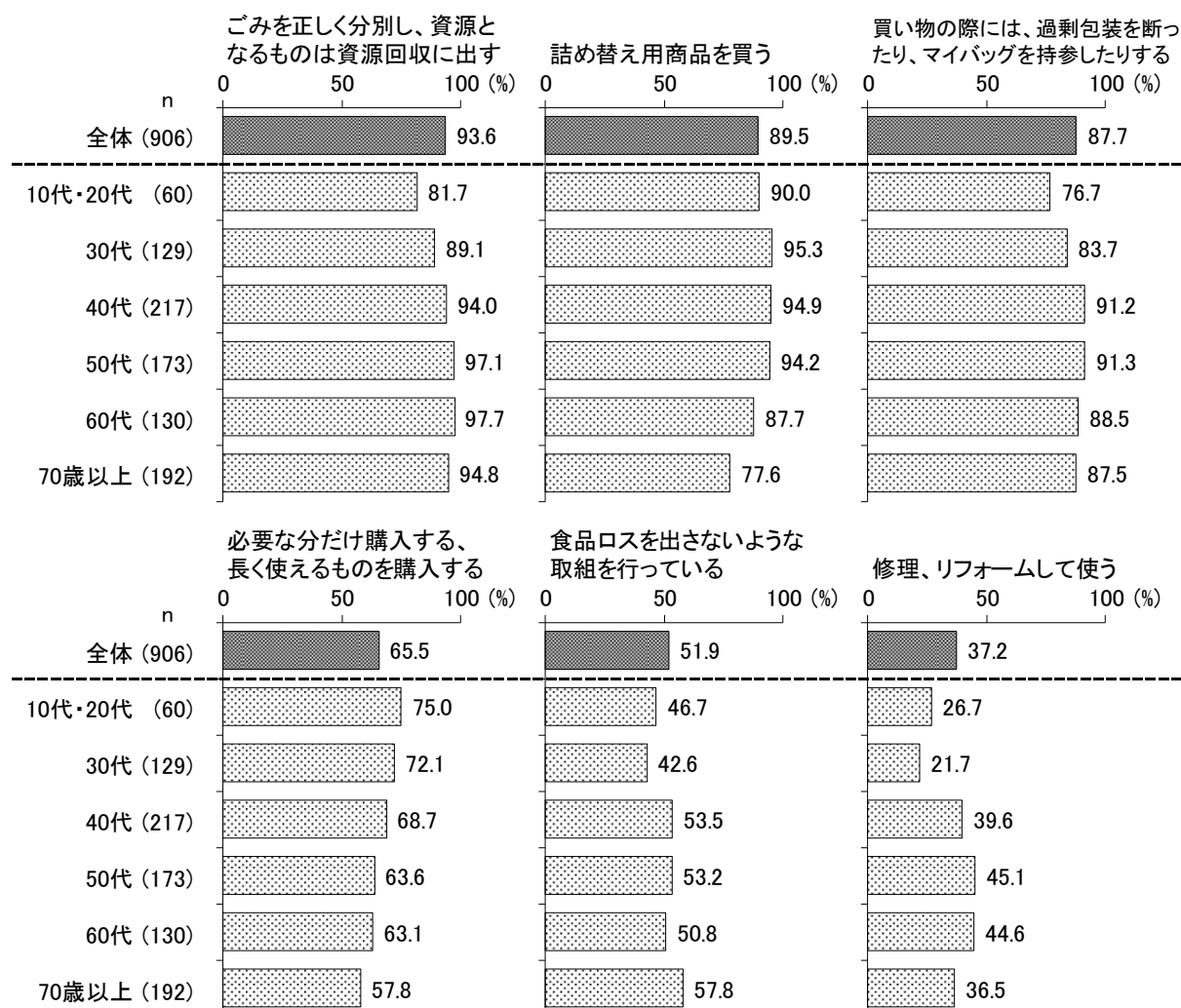
図2-1-1 実際に行っている3R活動



実際に行っている3R活動について、「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」(93.6%)が9割台半ば近くで最も高く、次いで「詰め替え用商品を買う」(89.5%)が9割弱、「買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする」(87.7%)が8割台半ばを超えて続いている。(図2-1-1)

Ⅱ 調査の結果（テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて）

図2-1-2 実際に行っている3R活動
（年代別）上位6項目



上位6項目について、年代別でみると、「必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する」は10代・20代（75.0%）が7割台半ばと、全体（65.5%）を9.5ポイント上回っている。

（図2-1-2）

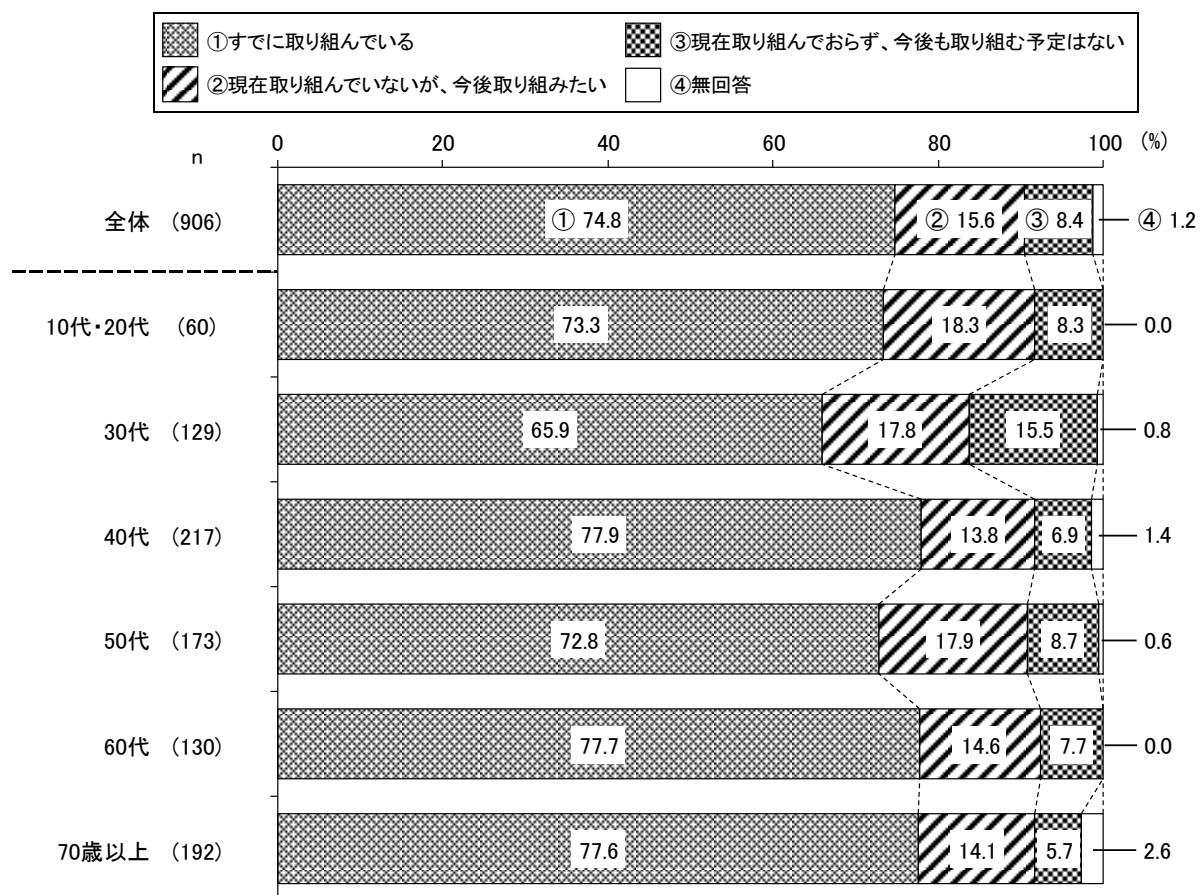
(2) 食品ロスを減らすために、行っていること

◎「すでに取り組んでいる」方が多いのは『家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする』が8割台半ばを超え

問8 「食品ロス削減に向けた取組」について、あなたの状況を教えてください。 (ア～ケそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)				
(n=906)				
	すでに取り組んでいる	今後取り組みたい 現在取り組んでいないが、	後も取り組む予定はない 現在取り組んでおらず、今	無回答
ア 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する	74.8%	15.6%	8.4%	1.2%
イ 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する	52.5	24.1	21.4	2.0
ウ 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する	51.9	25.5	20.1	2.5
エ 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする	87.0	8.9	2.6	1.4
オ 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす	51.2	32.8	14.3	1.7
カ 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する	76.0	16.2	6.5	1.2
キ 外食時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ	84.1	9.6	4.6	1.7
ク フードドライブとして食品を提供する	4.5	40.7	52.5	2.2
ケ フードシェアリングサービスを活用する	1.9	34.4	61.5	2.2

図2-2-1 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

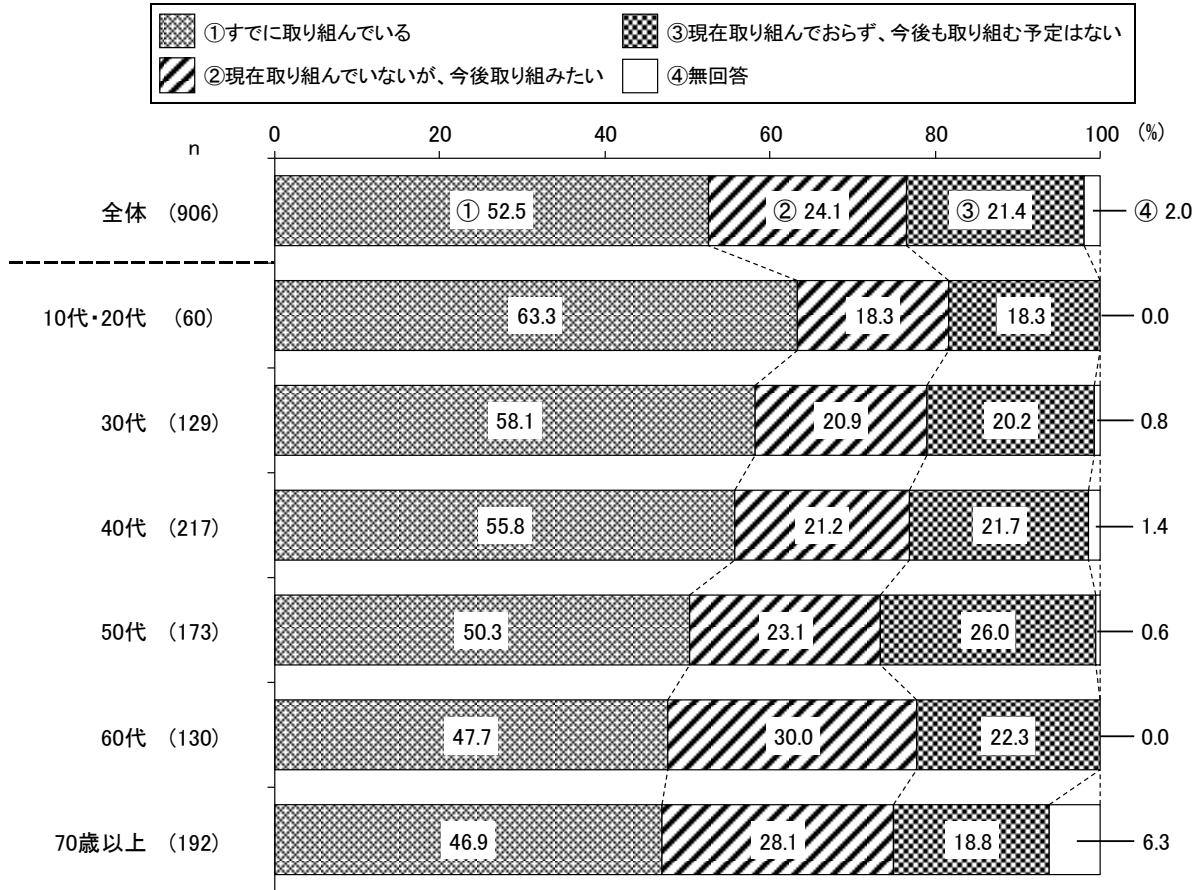
『ア 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する』



『買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する』について、年代別でみると、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」は30代（15.5%）が1割台半ばで、全体（8.4%）を7.1ポイント上回っている。（図2-2-1）

図2-2-2 食品ロスを減らすために、行っていること
(年代別)

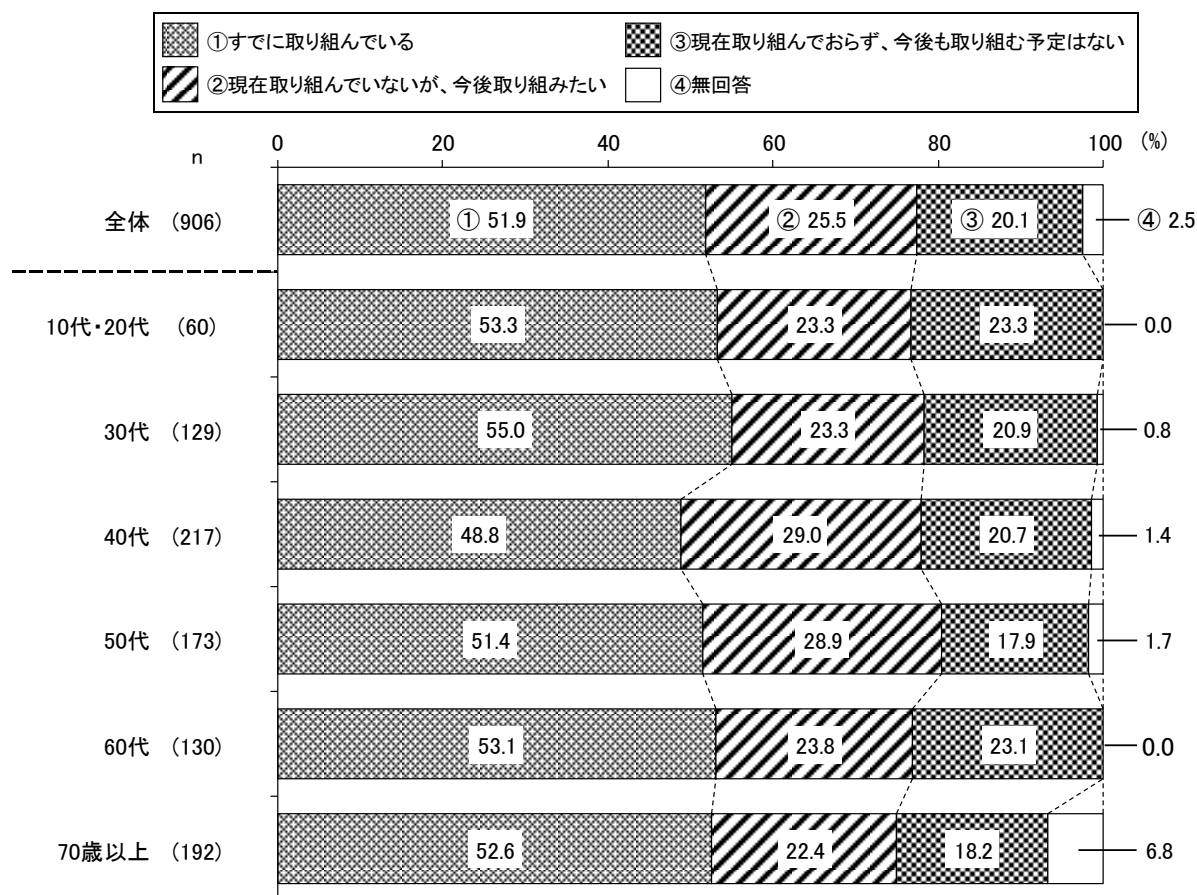
『イ 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する』



『売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する』について、年代別でみると、「すでに取り組んでいる」は10代・20代(63.3%)が6割台半ば近くと、全体(52.5%)を10.8ポイント上回っている。(図2-2-2)

図2-2-3 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

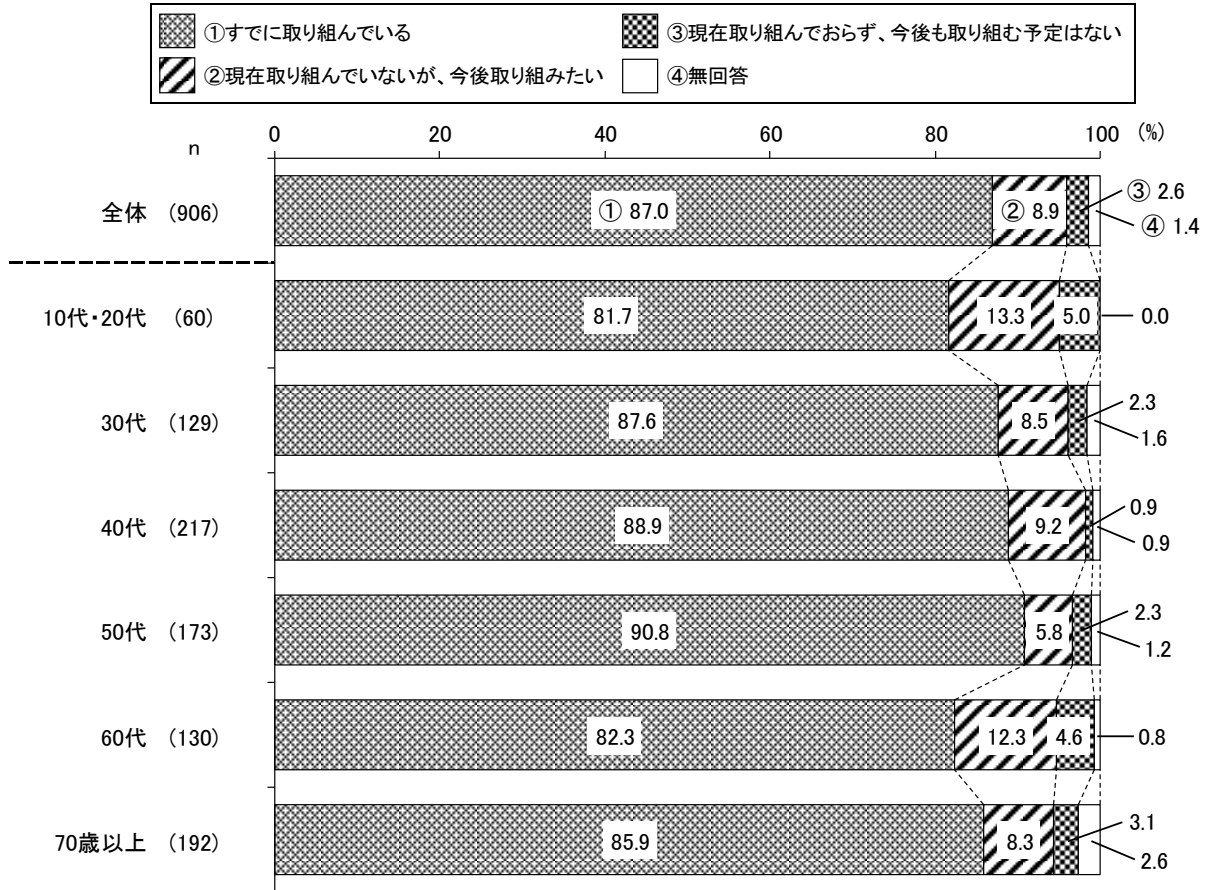
『ウ 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する』



『食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は40代（29.0%）が3割弱と、全体（25.5%）を3.5ポイント上回っている。（図2-2-3）

図2-2-4 食品ロスを減らすために、行っていること
(年代別)

『エ 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする』

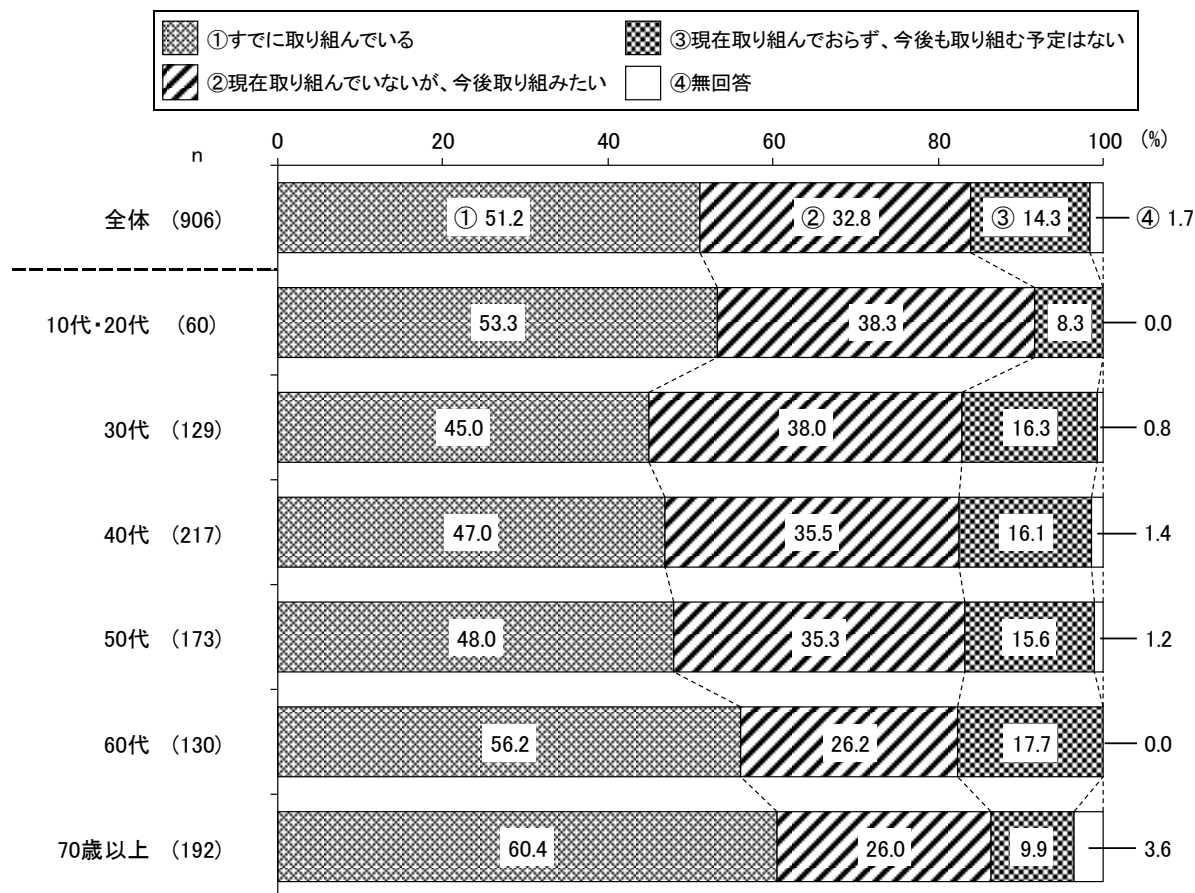


『家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代（13.3%）が1割台半ば近くと、全体（8.9%）を4.4ポイント上回っている。（図2-2-4）

Ⅱ 調査の結果（テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて）

図2-2-5 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

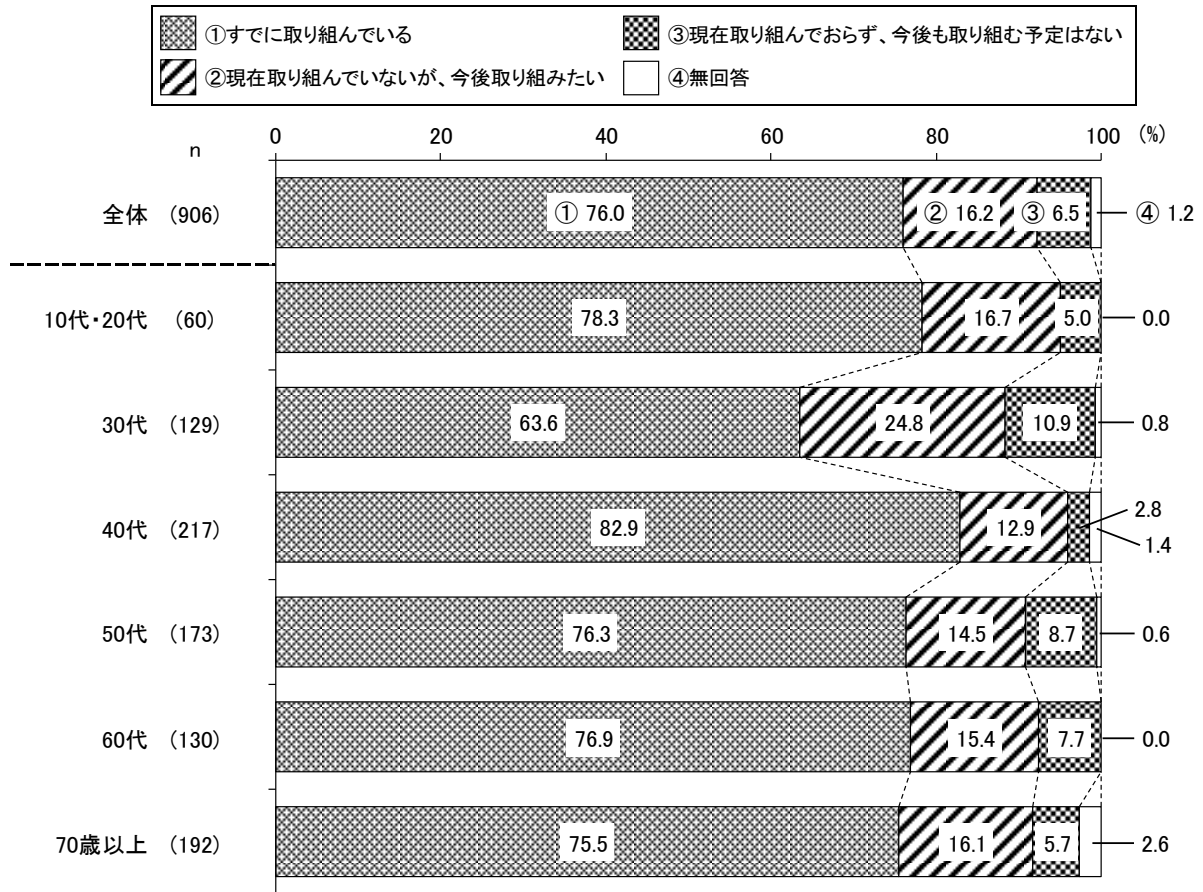
『オ 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす』



『野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす』について、年代別で見ると、「すでに取り組んでいる」は70歳以上（60.4%）が約6割、全体（51.2%）を9.2ポイント上回っている。（図2-2-5）

図2-2-6 食品ロスを減らすために、行っていること
(年代別)

『カ 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する』

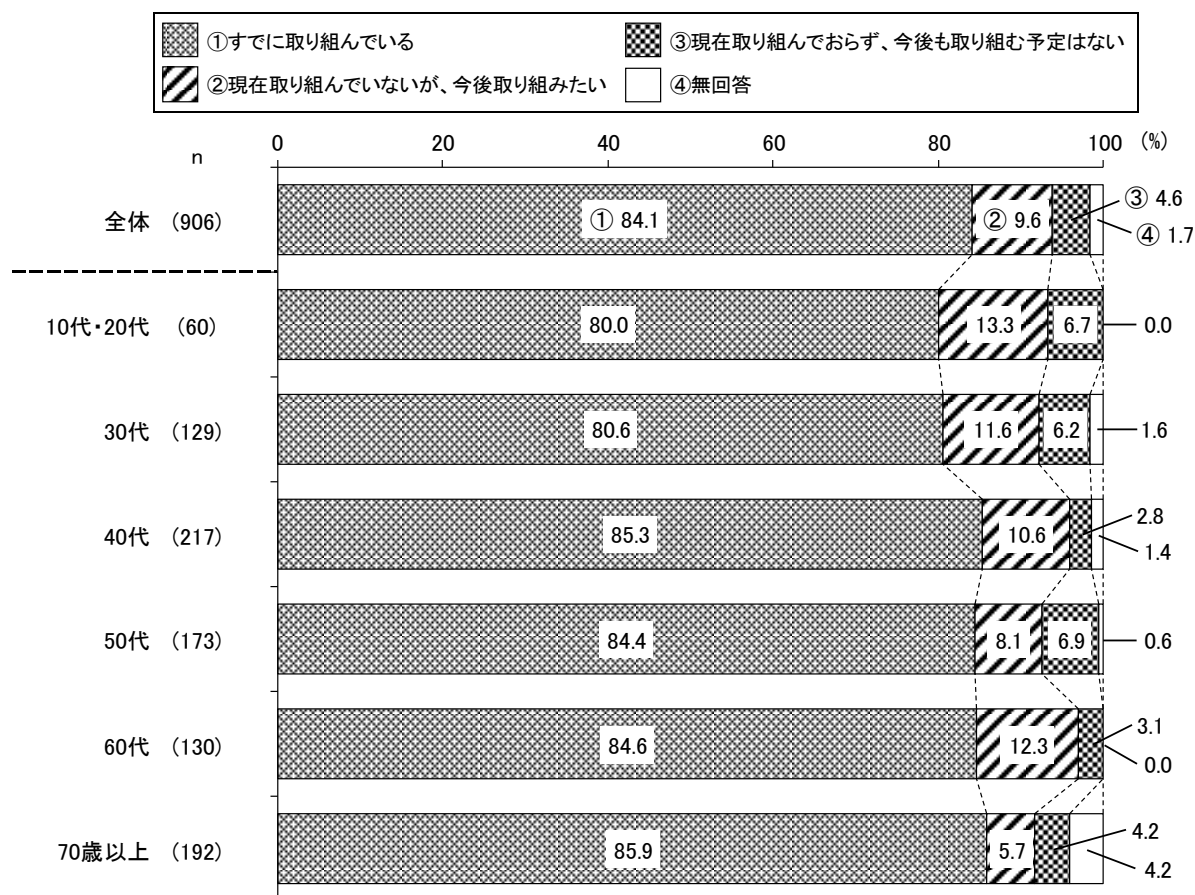


『食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は30代(24.8%)が2割台半ば近くと、全体(16.2%)を8.6ポイント上回っている。(図2-2-6)

Ⅱ 調査の結果（テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて）

図2-2-7 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

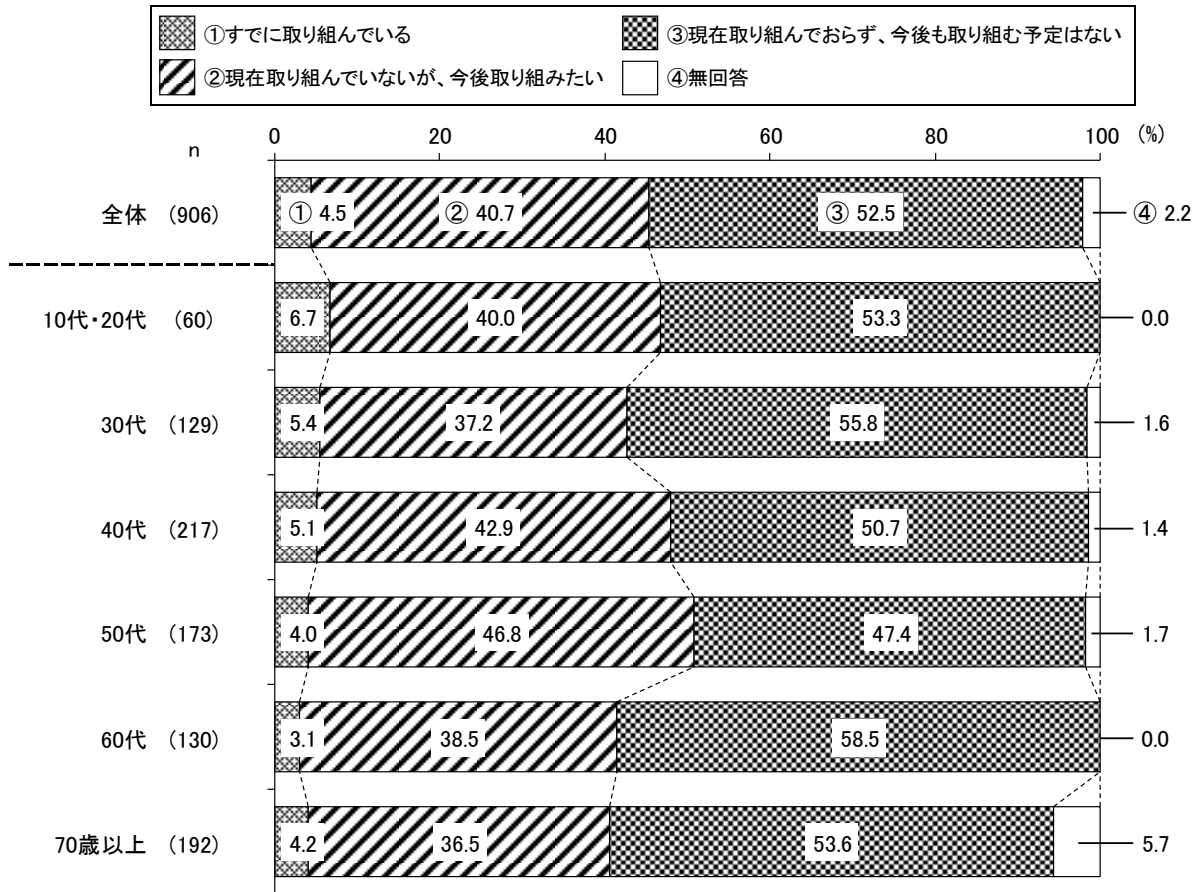
『キ 外食時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ』



『外食時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代（13.3%）が1割台半ば近くと、全体（9.6%）を3.7ポイント上回っている。（図2-2-7）

図2-2-8 食品ロスを減らすために、行っていること
(年代別)

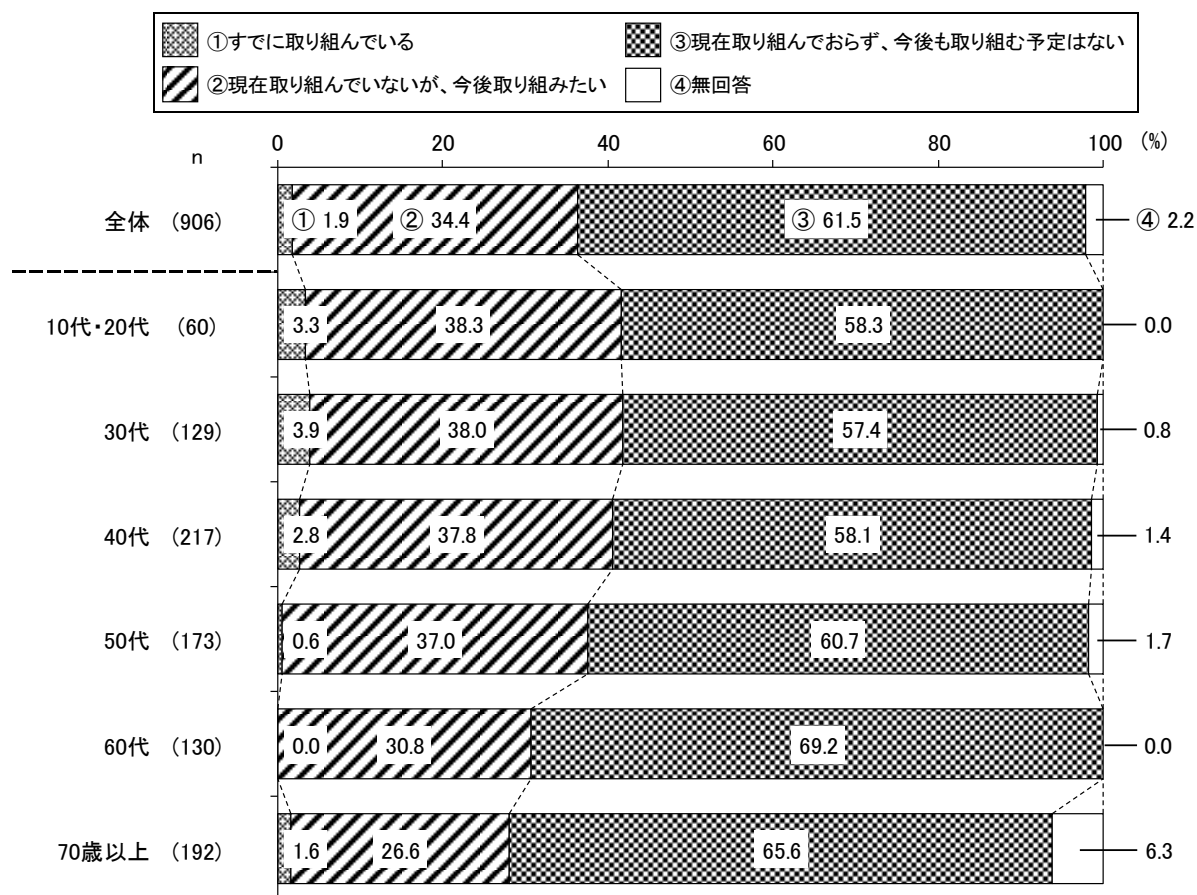
『クフードドライブとして食品を提供する』



『フードドライブとして食品を提供する』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は50代（46.8%）が4割台半ばを超え、全体（40.7%）を6.1ポイント上回っている。（図2-2-8）

図2-2-9 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

『ケ フードシェアリングサービスを活用する』



『フードシェアリングサービスを活用する』について、年代別で見ると、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」は60代（69.2%）が7割弱と、全体（61.5%）を7.7ポイント上回っている。（図2-2-9）

(3) プラスチックごみ削減のために、行っていること

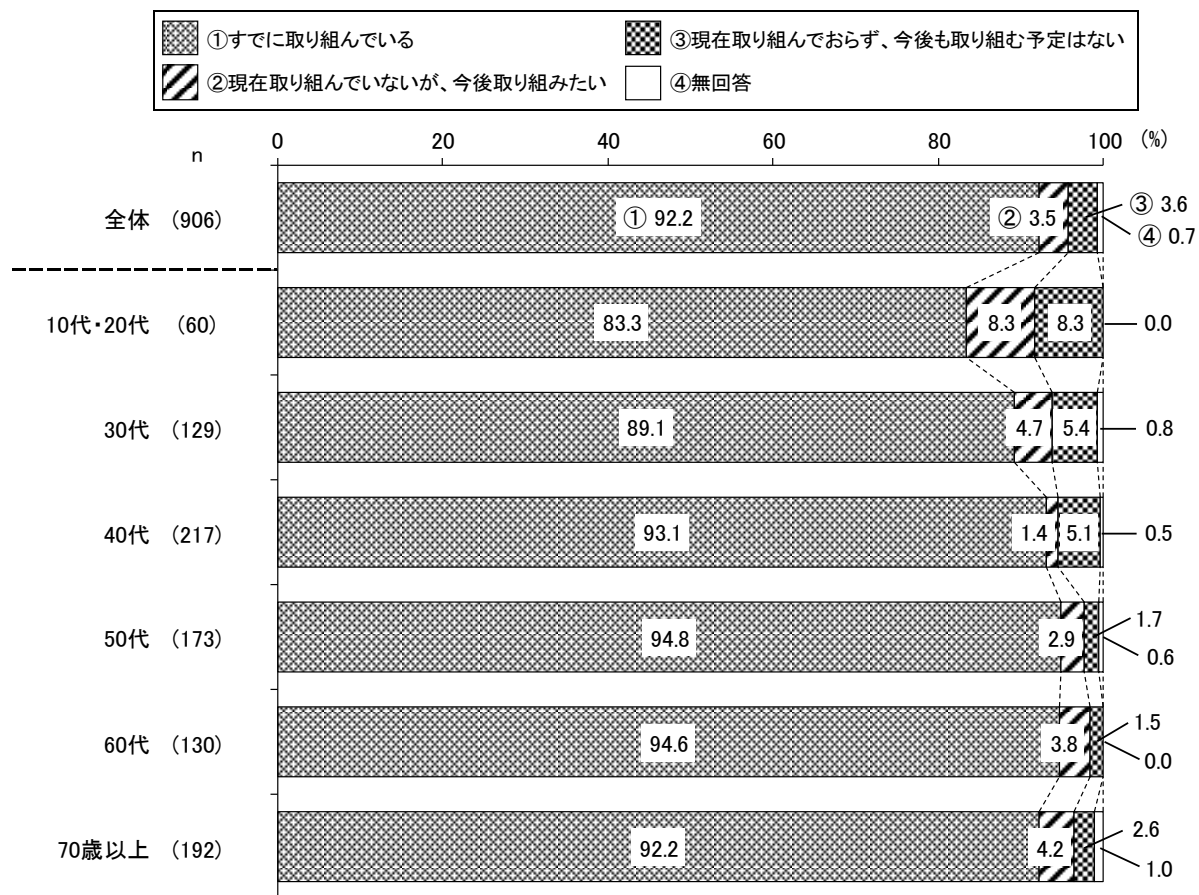
◎「すでに取り組んでいる」方が多いのは『マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない』が9割強

問9 「プラスチック使用削減やプラスチックごみ削減に向けた取組」について、あなたの状況を教えてください。 (ア～カそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)					
(n=906)					
	すでに取り組んでいる	今後取り組みたい	現在取り組んでいないが、 後にも取り組む予定はない	現在取り組んでおらず、 今	無回答
ア マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない	92.2%	3.5%	3.6%	0.7%	
イ マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器(ペットボトル等)をできる限り使用しない	48.0	30.6	20.2	1.2	
ウ プラスチック製の食器(スプーン・フォーク等)、ストロー、おしぼり、アメニティグッズ、雨天時の傘袋等をできる限り受け取らない	59.8	25.1	14.0	1.1	
エ 区の資源回収を利用し、容器包装プラスチック・ペットボトル等を資源として排出する	90.0	6.0	3.0	1.1	
オ スーパーマーケット等での店頭回収を利用し、白色トレイ・ペットボトル等を資源として排出する	39.0	33.7	26.0	1.3	
カ リサイクル材や、植物を原料としたプラスチック(バイオマスプラスチック)などを使った製品を積極的に選ぶ	22.3	57.8	18.5	1.3	

Ⅱ 調査の結果（テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて）

図2-3-1 プラスチックごみ削減のために、行っていること
（年代別）

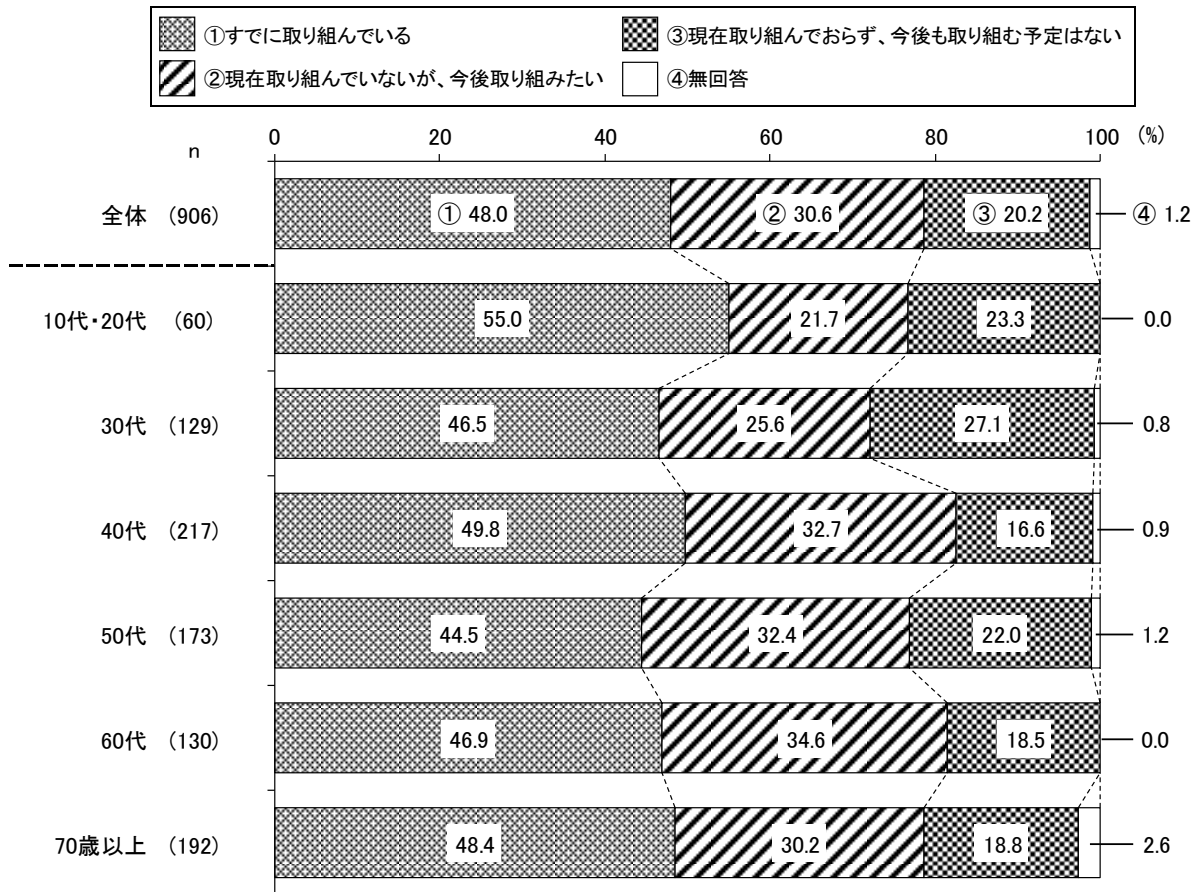
『ア マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない』



『マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代（8.3%）が1割近くと、全体（3.5%）を4.8ポイント上回っている。（図2-3-1）

図2-3-2 プラスチックごみ削減のために、行っていること
(年代別)

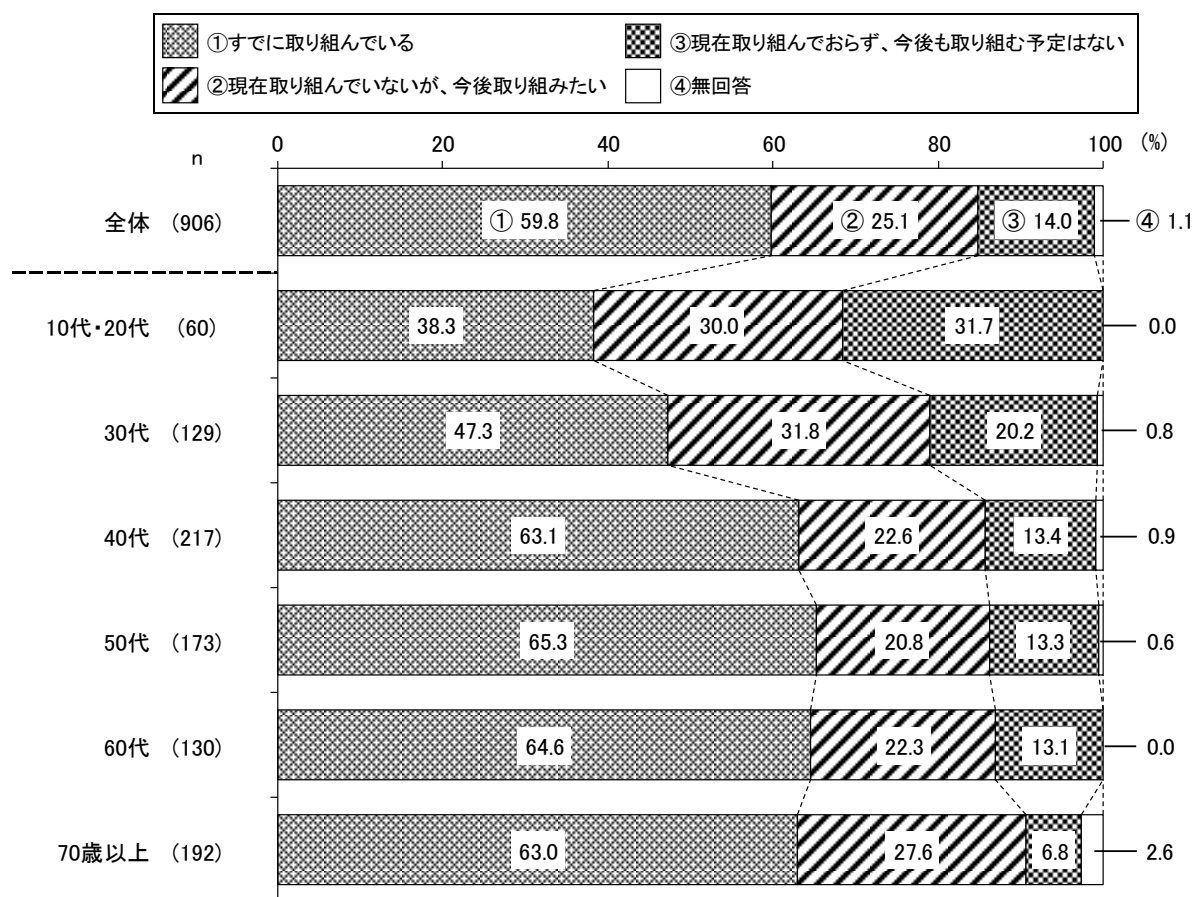
『マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器(ペットボトル等)をできる限り使用しない』



『マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器(ペットボトル等)をできる限り使用しない』について、年代別でみると、「すでに取り組んでいる」は10代・20代(55.0%)が5割台半ばと、全体(48.0%)を7.0ポイント上回っている。(図2-3-2)

図2-3-3 プラスチックごみ削減のために、行っていること
（年代別）

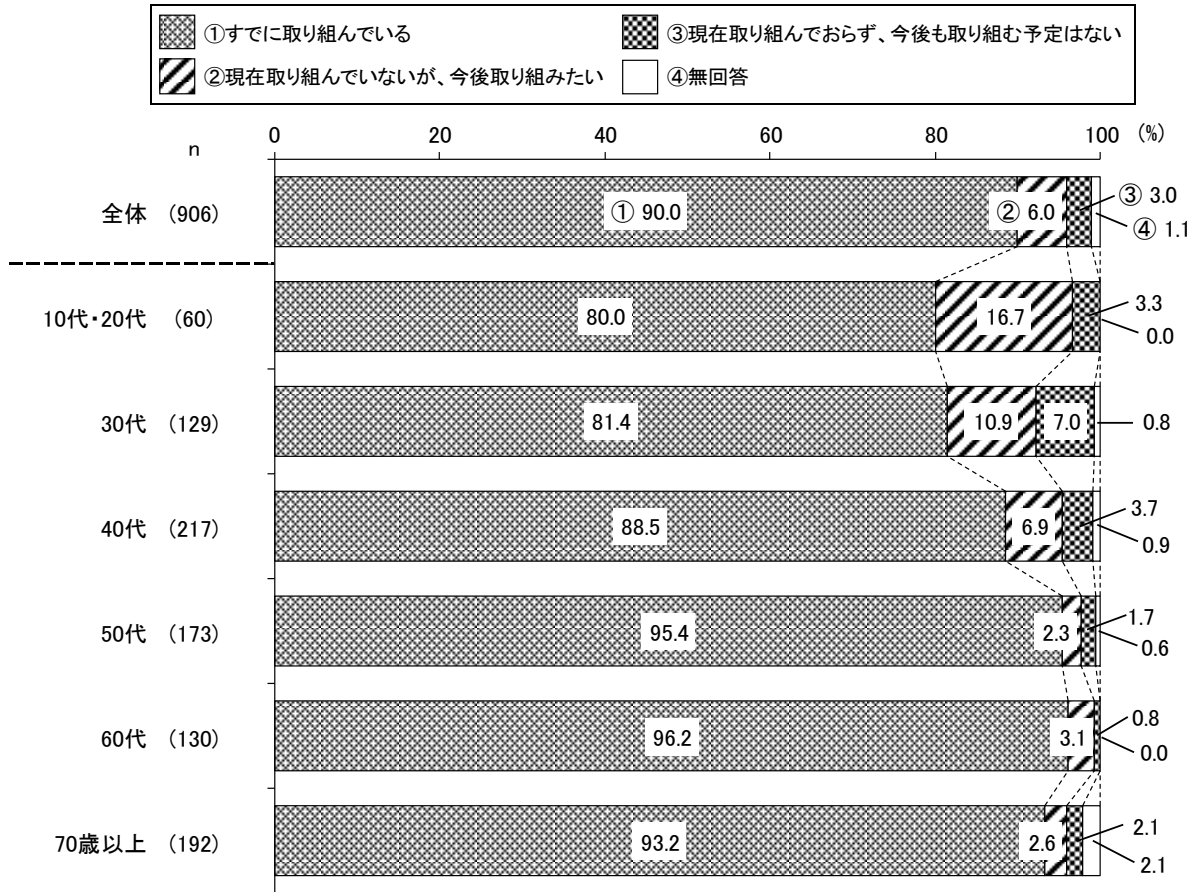
『ウ プラスチック製の食器（スプーン・フォーク等）、ストロー、おしぼり、アメニティグッズ、雨天時の傘袋等をできる限り受け取らない』



『プラスチック製の食器（スプーン・フォーク等）、ストロー、おしぼり、アメニティグッズ、雨天時の傘袋等をできる限り受け取らない』について、年代別でみると、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」は10代・20代（31.7%）が3割強と、全体（14.0%）を17.7ポイント上回っている。（図2-3-3）

図2-3-4 プラスチックごみ削減のために、行っていること
(年代別)

『エ 区の資源回収を利用し、容器包装プラスチック・ペットボトル等を資源として排出する』

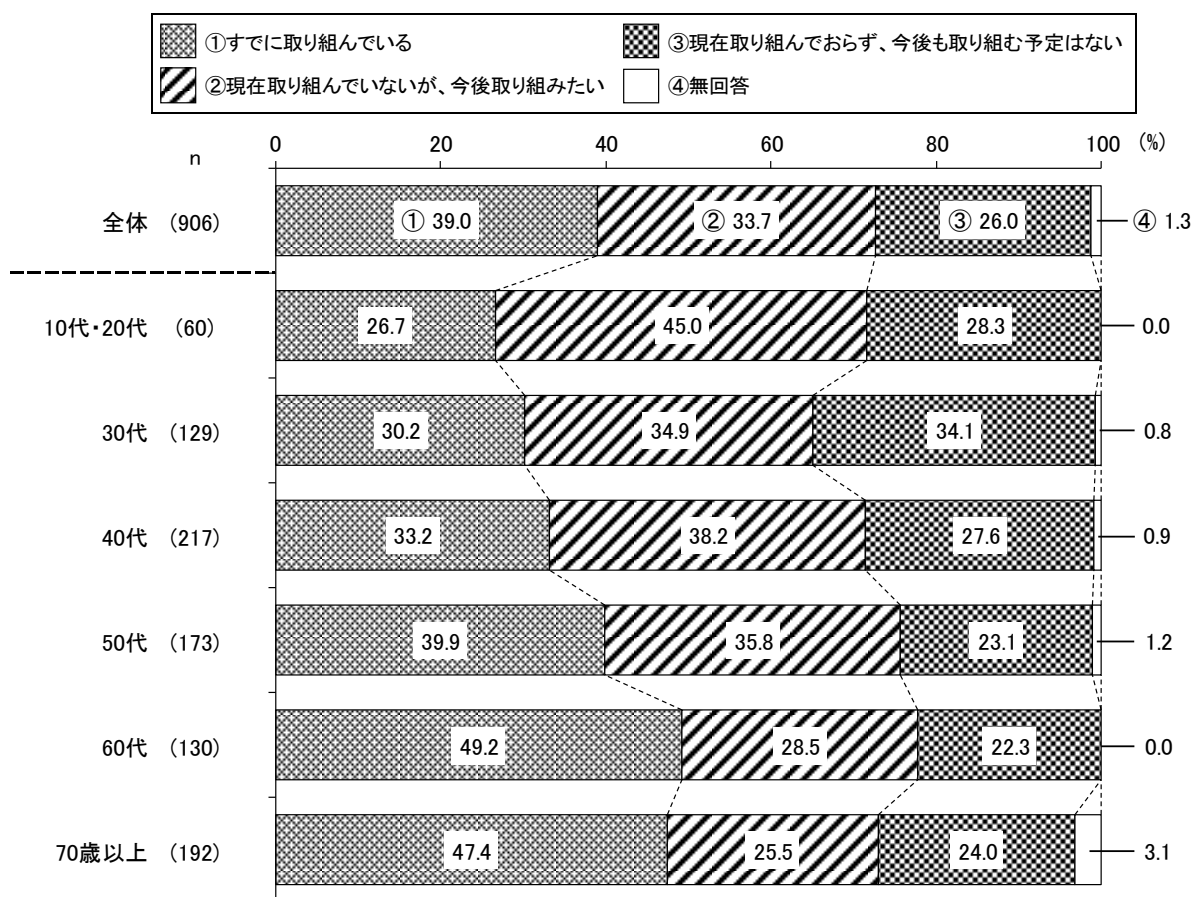


『区の資源回収を利用し、容器包装プラスチック・ペットボトル等を資源として排出する』について、年代別で見ると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代(16.7%)が1割台半ばを超え、全体(6.0%)を10.7ポイント上回っている。(図2-3-4)

Ⅱ 調査の結果（テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて）

図2-3-5 プラスチックごみ削減のために、行っていること
（年代別）

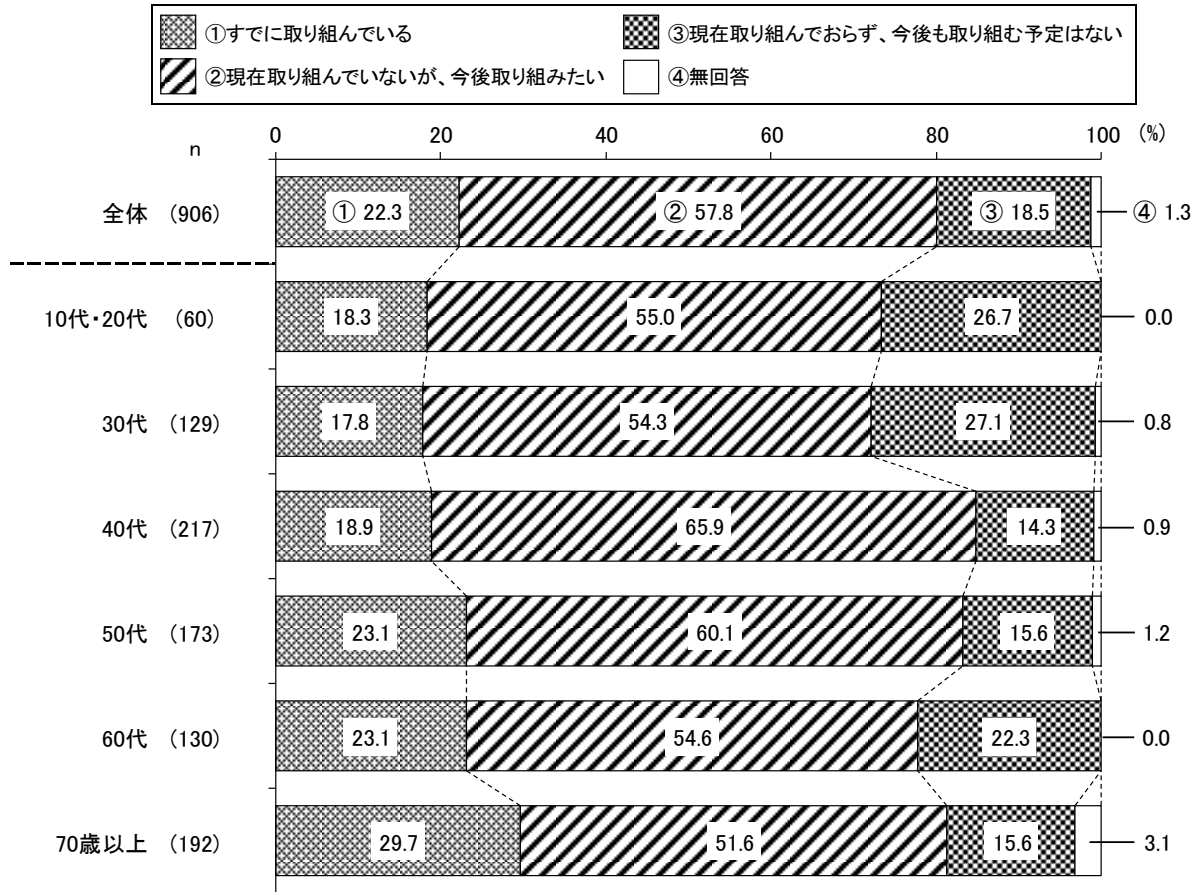
『オ スーパーマーケット等での店頭回収を利用し、白色トレイ・ペットボトル等を資源として排出する』



『スーパーマーケット等での店頭回収を利用し、白色トレイ・ペットボトル等を資源として排出する』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代（45.0%）が4割台半ばと、全体（33.7%）を11.3ポイント上回っている。（図2-3-5）

図2-3-6 プラスチックごみ削減のために、行っていること
(年代別)

『カ リサイクル材や、植物を原料としたプラスチック（バイオマスプラスチック）などを使った製品を積極的に選ぶ』



『リサイクル材や、植物を原料としたプラスチック（バイオマスプラスチック）などを使った製品を積極的に選ぶ』について、年代別でみると、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」は30代（27.1%）が2割台半ばを超え、全体（18.5%）を8.6ポイント上回っている。

(図2-3-6)

Ⅱ 調査の結果（テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて）

（４）ごみ・資源の出し方

◎『ペットボトル』では、「資源」の回収日に出すが8割近く

問10 新宿区では、古紙（新聞・雑誌・段ボール等）、容器包装プラスチック、びん、缶、ペットボトル、スプレー缶・カセットボンベ、乾電池を「資源・ごみ集積所」で回収しています。また、地域や集合住宅における集団回収のほか、販売店等でも一部の品目を回収しています。あなたは下記の品目をどのように出していますか。

（ア～ケそれぞれで、あてはまるものにもいくつでも○をつけてください）

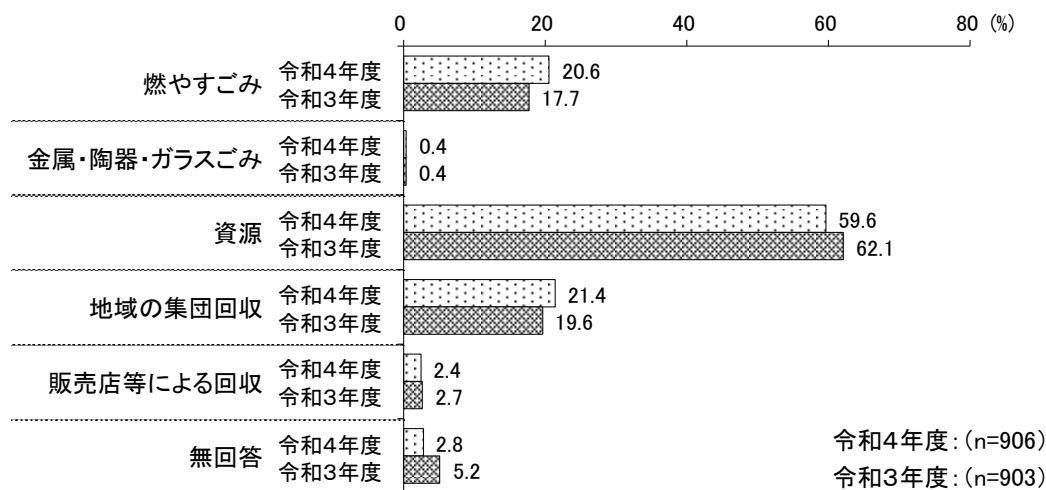
(n=906)

	燃やすごみ (週2回)	金属・陶器・ガラスごみ (月2回)	資源 (週1回)	地域の集団回収	販売店等による回収	無回答
ア 新聞・チラシ	20.6%	0.4%	59.6%	21.4%	2.4%	2.8%
イ 雑誌・段ボール	5.2	0.4	76.6	20.4	0.8	2.2
ウ 雑がみ（菓子箱・包装紙等）	58.3	0.4	34.3	10.4	0.4	2.0
エ 容器包装プラスチック	26.0	1.9	66.6		5.7	4.4
オ びん	0.7	17.4	73.4	10.4	0.8	1.9
カ 缶	0.9	11.6	76.5	11.8	1.7	2.0
キ ペットボトル	3.4	2.9	78.4	10.7	8.9	1.8
ク スプレー缶・カセットボンベ	1.3	33.7	59.8			6.1
ケ 乾電池	1.3	24.2	51.3		20.5	6.2

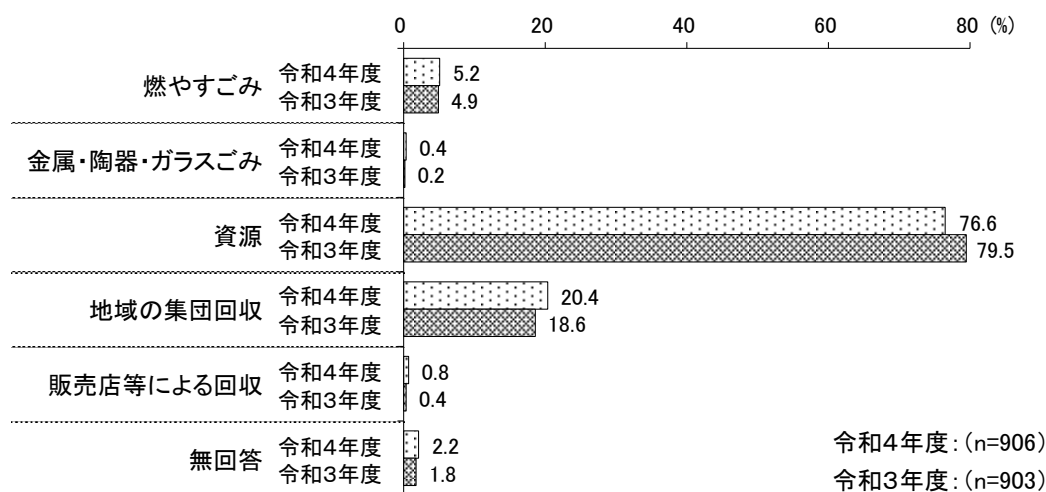
図2-4-1 ごみ・資源の出し方（経年推移）

『(ア) 新聞・チラシ』・『(イ) 雑誌・段ボール』

『(ア) 新聞・チラシ』



『(イ) 雑誌・段ボール』

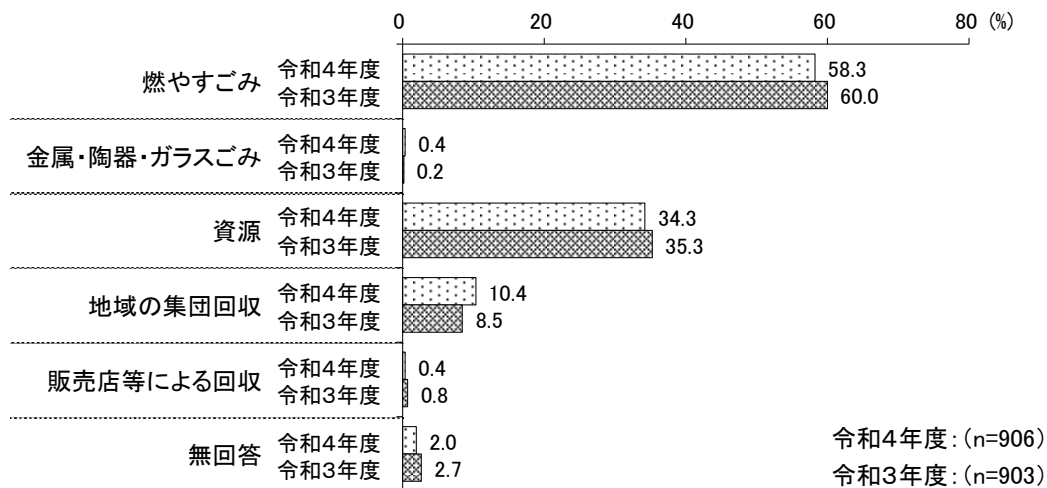


ごみ・資源の出し方についてそれぞれみると、『新聞・チラシ』では、「資源」(59.6%)が6割弱で最も高く、次いで「地域の集団回収」(21.4%)が2割強、「燃やすごみ」(20.6%)が約2割と続いている。

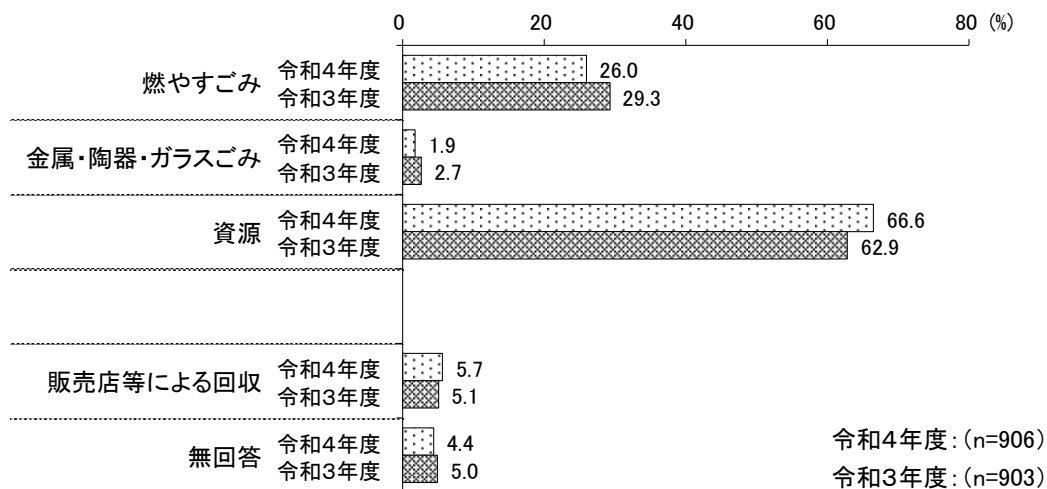
『雑誌・段ボール』では、「資源」(76.6%)が7割台半ばを超えて最も高く、次いで「地域の集団回収」(20.4%)が約2割と続いている。(図2-4-1)

図2-4-2 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(ウ) 雑がみ（菓子箱・包装紙等）』・『(エ) 容器包装プラスチック』

『(ウ) 雑がみ（菓子箱・包装紙等）』



『(エ) 容器包装プラスチック』

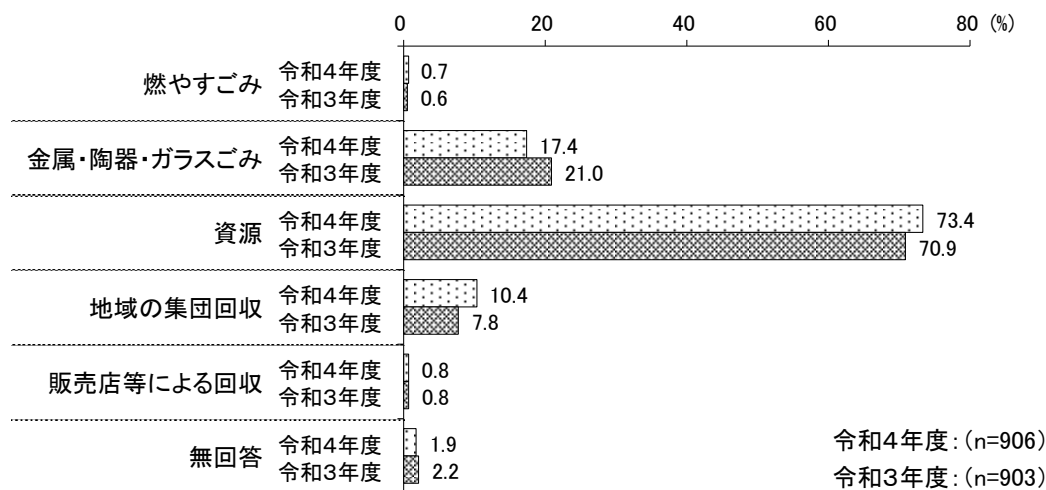


『雑がみ（菓子箱・包装紙等）』では、「燃やすごみ」（58.3%）が6割近くで最も高く、次いで「資源」（34.3%）が3割台半ば近くと続いている。

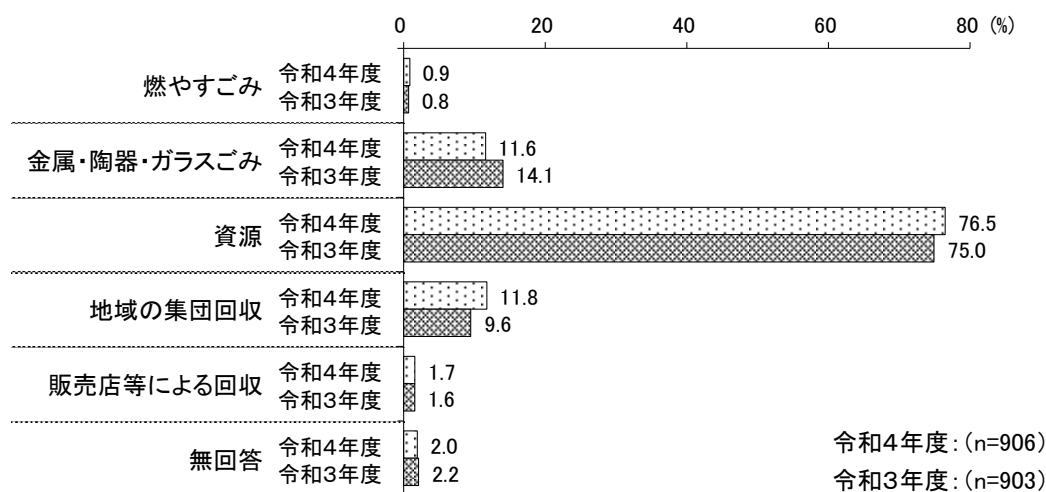
『容器包装プラスチック』では、「資源」（66.6%）が6割台半ばを超えて最も高く、次いで「燃やすごみ」（26.0%）が2割台半ばを超えて続いている。前回の調査結果（令和3年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、「資源」（66.6%）が前回（62.9%）から3.7ポイント高くなっている。（図2-4-2）

図2-4-3 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(オ)びん』・『(カ)缶』

『(オ)びん』



『(カ)缶』



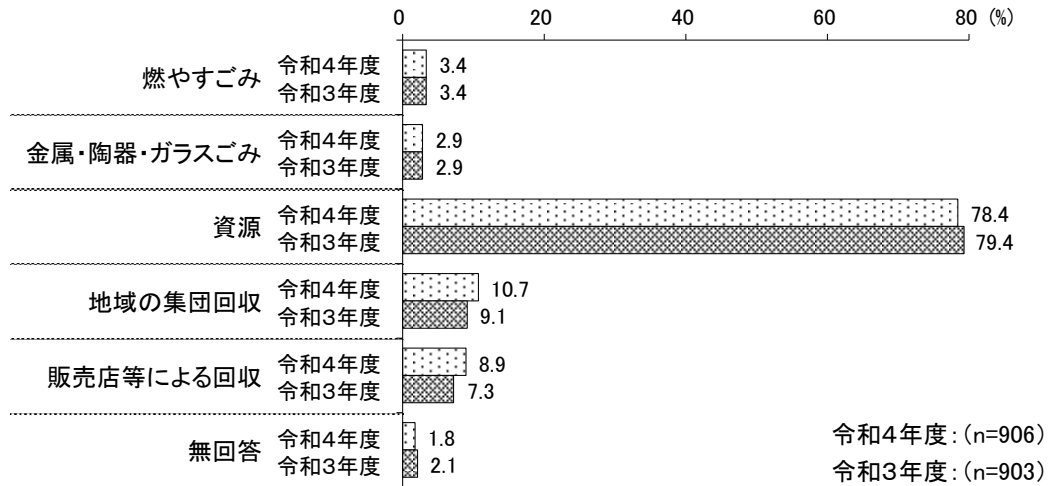
『びん』では、「資源」(73.4%)が7割台半ば近くで最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(17.4%)が1割台半ばを超え、「地域の集団回収」(10.4%)が約1割と続いている。前回の調査結果(令和3年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「金属・陶器・ガラスごみ」(17.4%)が前回(21.0%)から3.6ポイント低くなっている。

『缶』では、「資源」(76.5%)が7割台半ばを超えて最も高く、次いで「地域の集団回収」(11.8%)が1割強、「金属・陶器・ガラスごみ」(11.6%)も1割強と続いている。(図2-4-3)

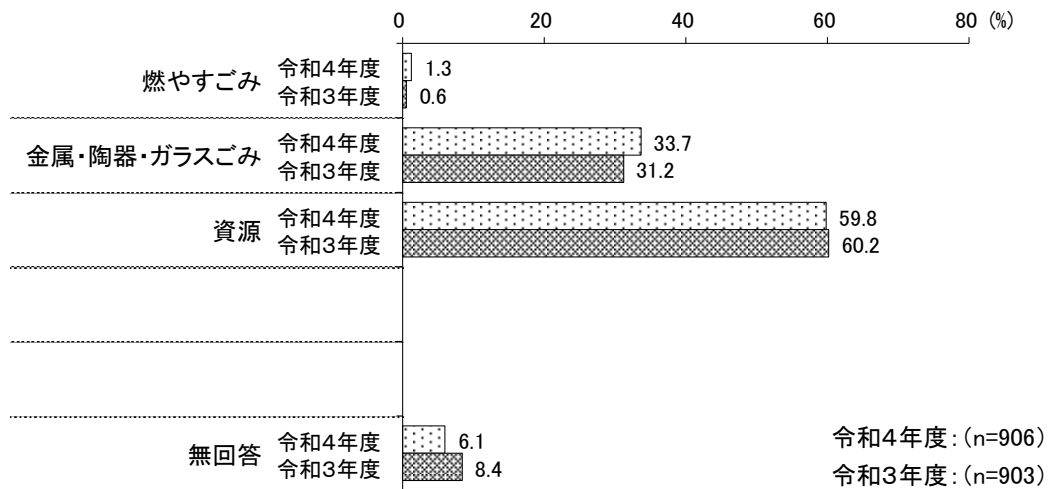
Ⅱ 調査の結果（テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて）

図2-4-4 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(キ) ペットボトル』・『(ク) スプレー缶・カセットボンベ』

『(キ) ペットボトル』



『(ク) スプレー缶・カセットボンベ』

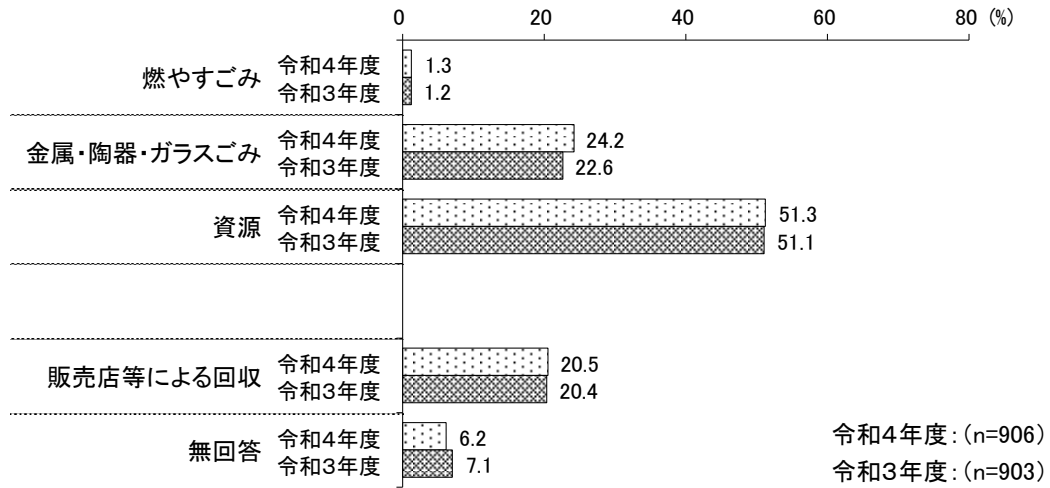


『ペットボトル』では、「資源」（78.4%）が8割近くで最も高く、次いで「地域の集団回収」（10.7%）が約1割と続いている。

『スプレー缶・カセットボンベ』では、「資源」（59.8%）が6割弱で最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」（33.7%）が3割台半ば近くと続いている。（図2-4-4）

図2-4-5 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(ケ) 乾電池』

『(ケ) 乾電池』



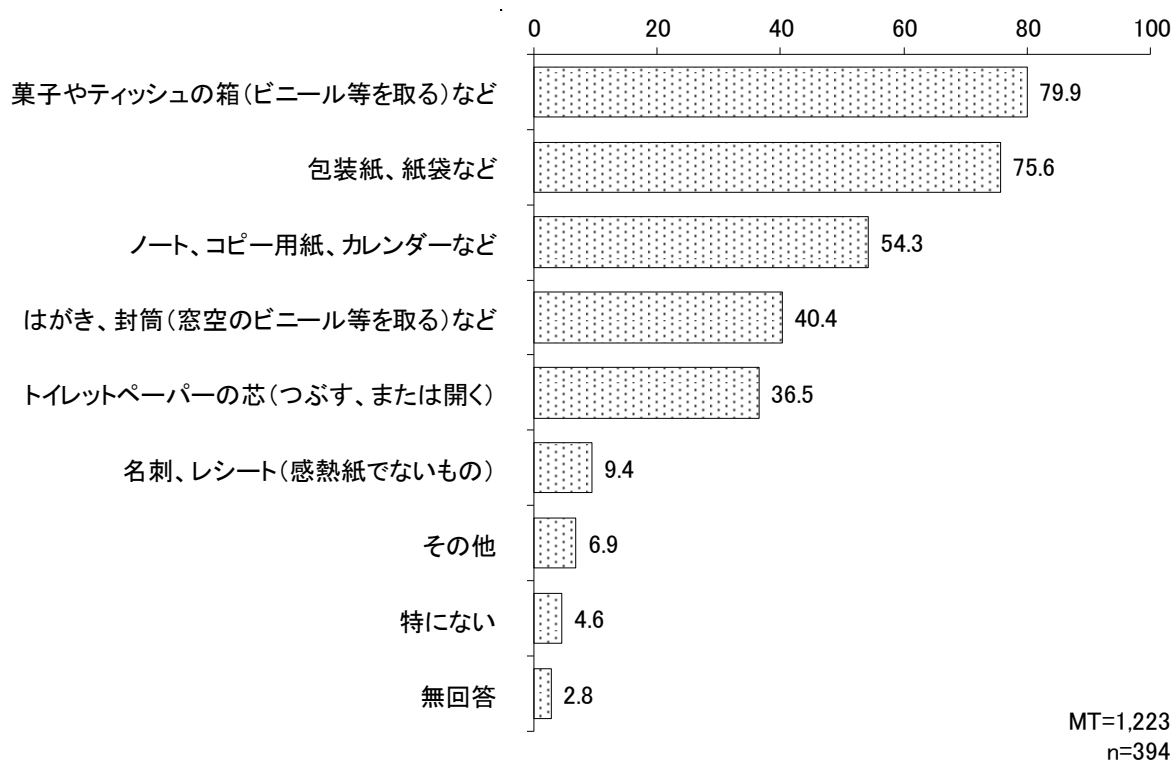
『乾電池』では、「資源」(51.3%)が5割強で最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(24.2%)が2割台半ば近く、「販売店等による回収」(20.5%)が約2割と続いている。(図2-4-5)

（5）資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみ

◎「菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など」が8割弱

問10-1	問10の（ウ）雑がみ（菓子箱・包装紙等）で、「3」又は「4」に○をした方にお伺いします。 雑がみのうち、資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出しているのはどれですか。 （あてはまるものにいくつでも○をつけてください）	
		(n=394)
1	菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など	79.9%
2	包装紙、紙袋など	75.6
3	はがき、封筒（窓空のビニール等を取る）など	40.4
4	ノート、コピー用紙、カレンダーなど	54.3
5	トイレトペーパーの芯（つぶす、または開く）	36.5
6	名刺、レシート（感熱紙でないもの）	9.4
7	その他	6.9
8	特にない	4.6
	無回答	2.8

図2-5 資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみ



資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみは、「菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など」（79.9%）が8割弱で最も高く、次いで「包装紙、紙袋など」（75.6%）が7割台半ば、「ノート、コピー用紙、カレンダーなど」（54.3%）が5割台半ば近くと続いている。

（図2-5）

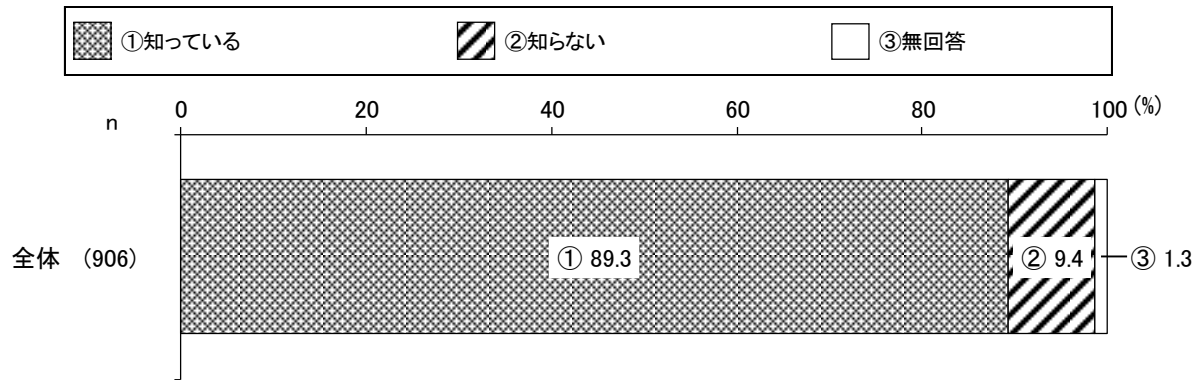
テーマ3 がん検診について

(1) 区のがん検診の認知

◎「知っている」が9割弱

問11 新宿区では、がん検診を実施しています。区でがん検診を実施していることを知っていますか。		
(〇は1つ)		
		(n=906)
1	知っている	89.3%
2	知らない	9.4
	無回答	1.3

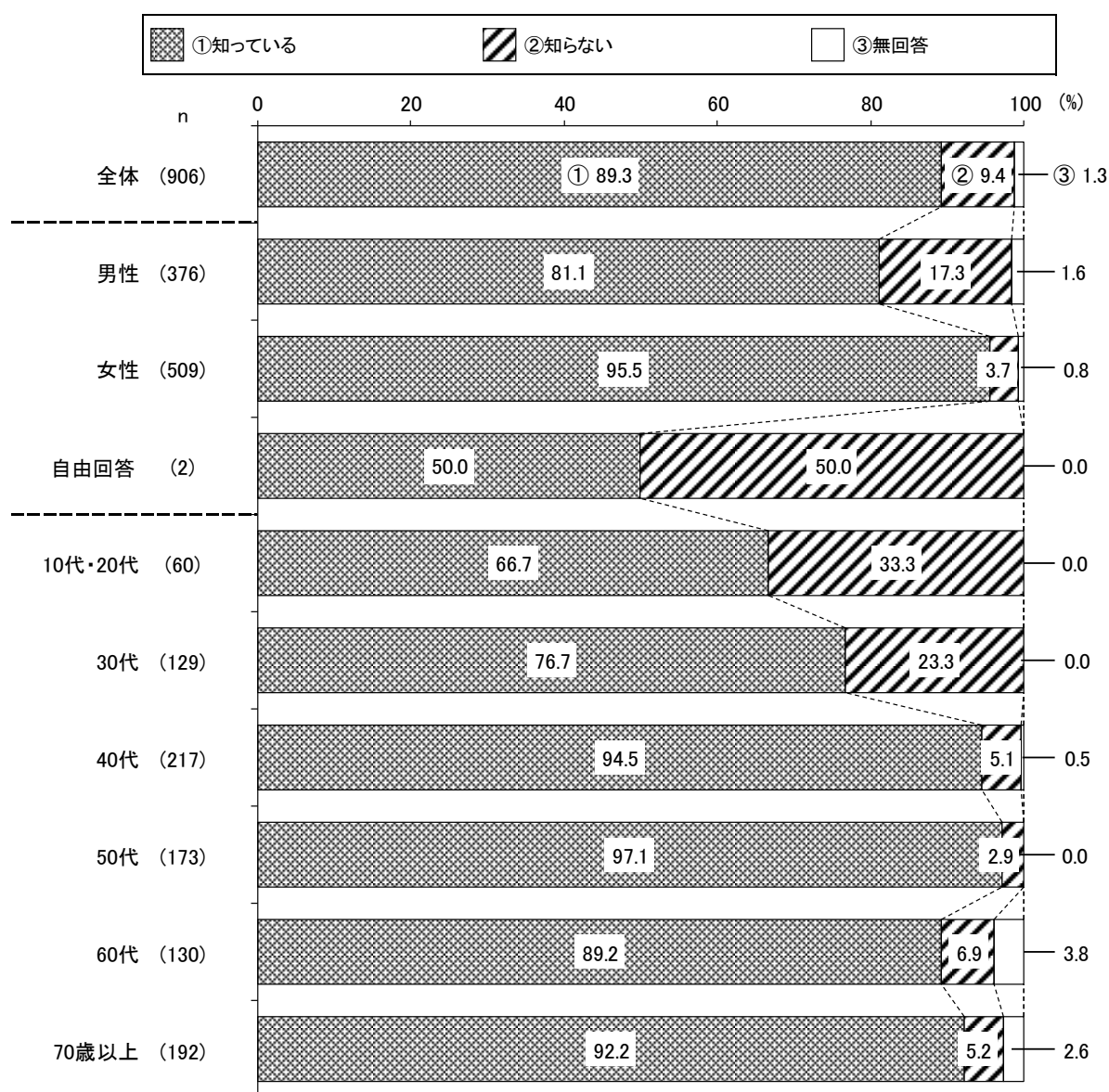
図3-1-1 区のがん検診の認知



区のがん検診の認知は、「知っている」(89.3%)が9割弱、「知らない」(9.4%)が1割弱となっている。(図3-1-1)

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 がん検診について）

図3-1-2 区のがん検診の認知
（性別・年代別）



性別でみると、「知っている」は女性（95.5%）が9割台半ばと、男性（81.1%）を14.4ポイント上回っている。

年代別でみると、「知らない」は10代・20代（33.3%）が3割台半ば近くと、全体（9.4%）を23.9ポイント上回っている。（図3-1-2）

(2) 知っている区のがん検診

◎「胃がん検診」が7割台半ば近く

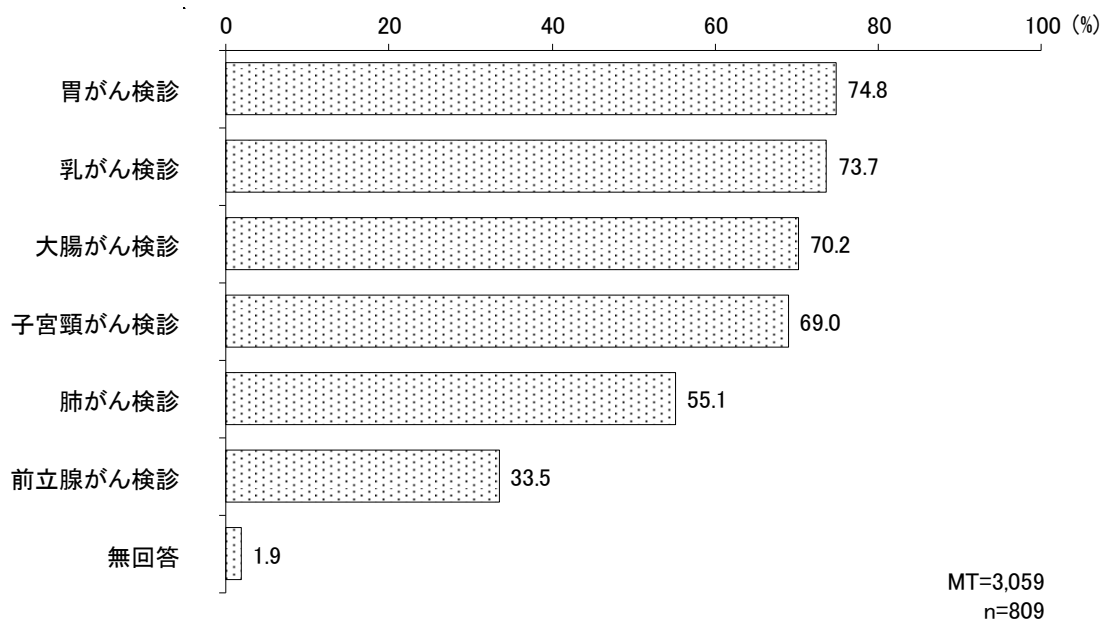
問11-1 問11で、「1 知っている」に○をした方にお伺いします。

区で実施しているがん検診を知っていますか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

	(n=809)
1 胃がん検診	74.8%
2 大腸がん検診	70.2
3 肺がん検診	55.1
4 子宮頸がん検診	69.0
5 乳がん検診	73.7
6 前立腺がん検診	33.5
無回答	1.9

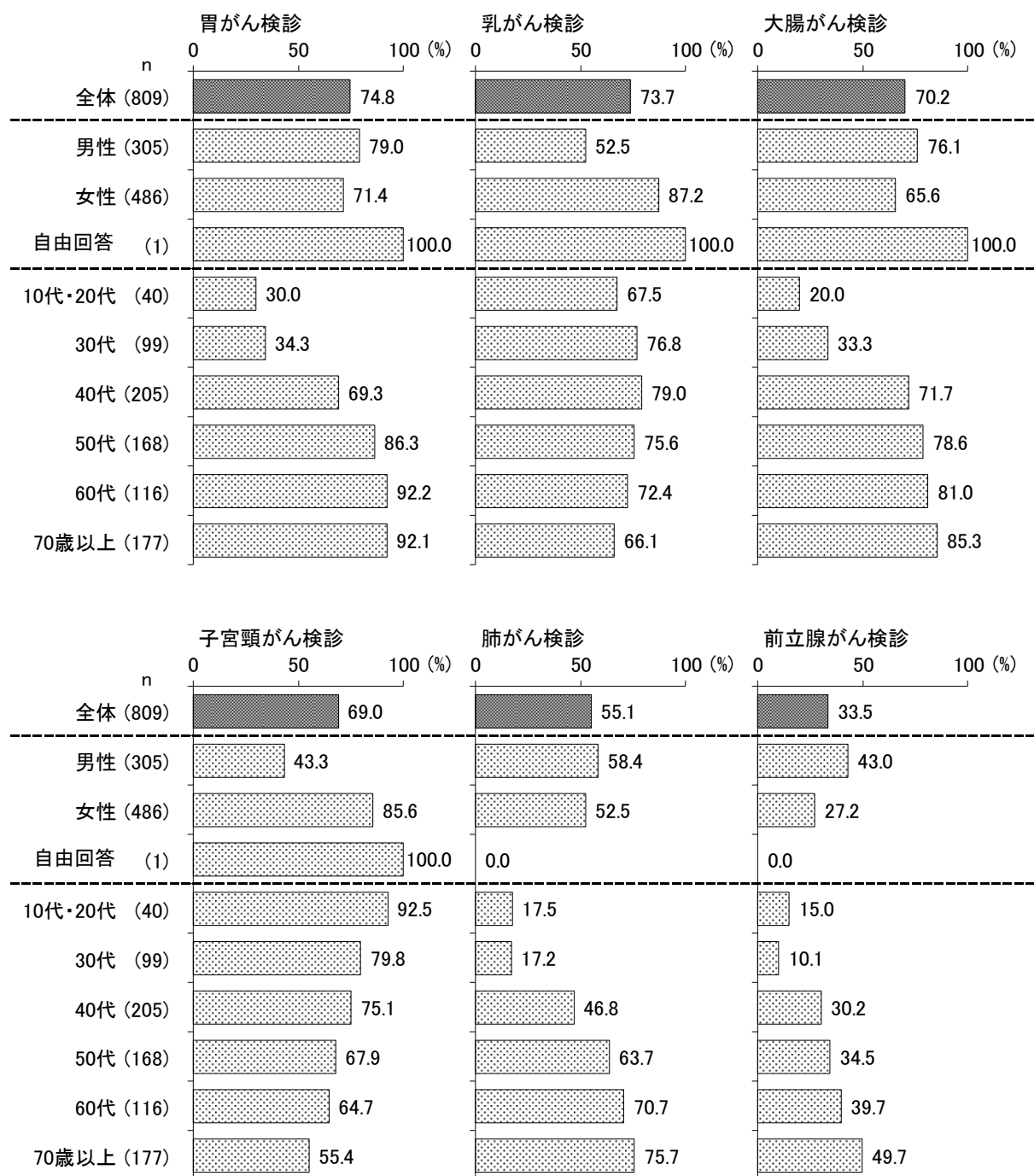
図3-2-1 知っている区のがん検診



知っている区のがん検診は、「胃がん検診」(74.8%)が7割台半ば近くと最も高く、次いで、「乳がん検診」(73.7%)も7割台半ば近く、「大腸がん検診」(70.2%)が約7割、「子宮頸がん検診」(69.0%)が7割弱と続いている。(図3-2-1)

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 がん検診について）

図3-2-2 知っている区のがん検診
（性別・年代別）



性別で見ると、「子宮頸がん検診」は女性（85.6%）が8割台半ばと、男性（43.3%）を42.3ポイント上回っている。

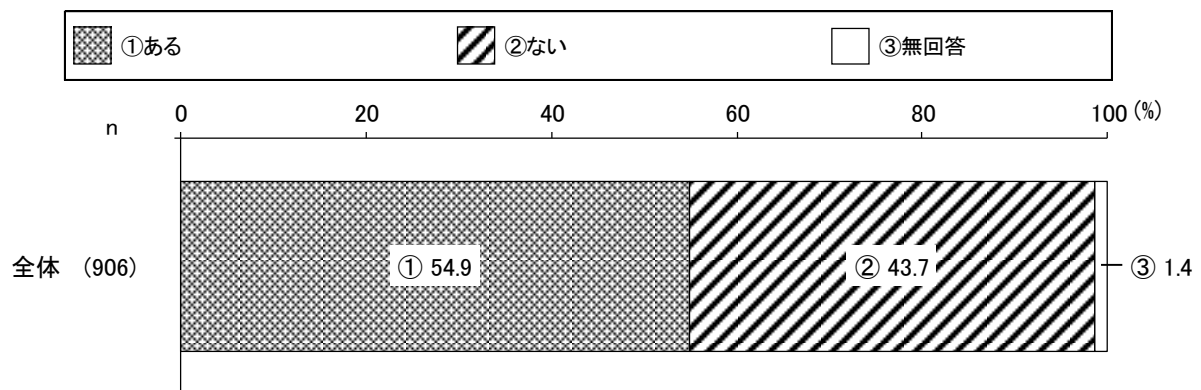
年代別で見ると、「子宮頸がん検診」は10代・20代（92.5%）が9割強と、全体（69.0%）を23.5ポイント上回っている。（図3-2-2）

(3) がん検診の機会

◎「ある」が5割台半ば近く

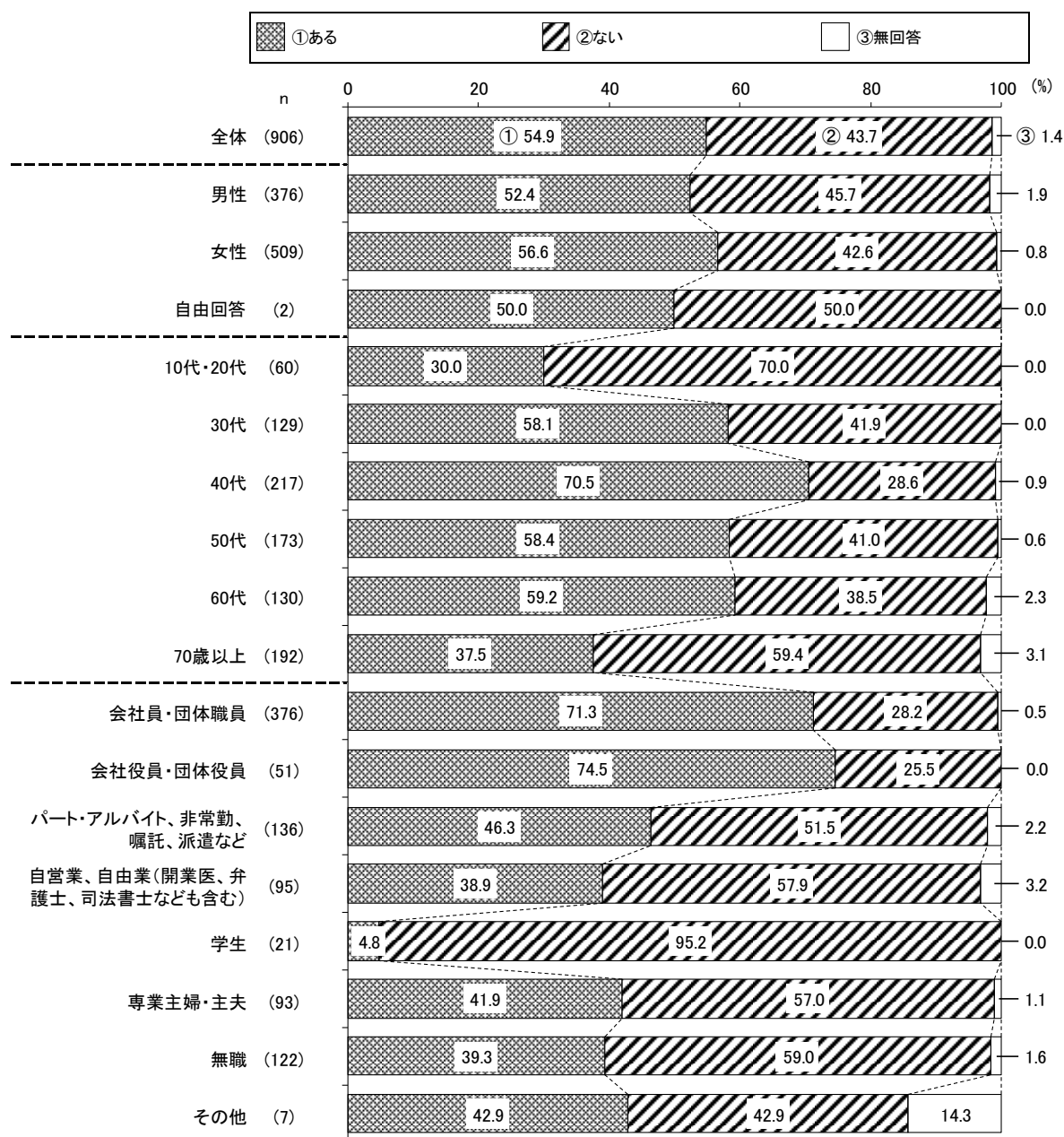
問12 区の実施するがん検診以外で、がん検診を受診する機会がありますか。		(n=906)
(〇は1つ)		
1	ある	54.9%
2	ない	43.7
	無回答	1.4

図3-3-1 がん検診の機会



区のがん検診の機会は、「ある」(54.9%)が5割台半ば近く、「ない」(43.7%)が4割台半ば近くとなっている。(図3-3-1)

図3-3-2 がん検診の機会
（性別・年代別・職業別）



性別でみると、「ある」は女性（56.6%）が5割台半ばを超え、男性（52.4%）を4.2ポイント上回っている。

年代別でみると、「ない」は10代・20代（70.0%）が7割と、全体（43.7%）を26.3ポイント上回っている。

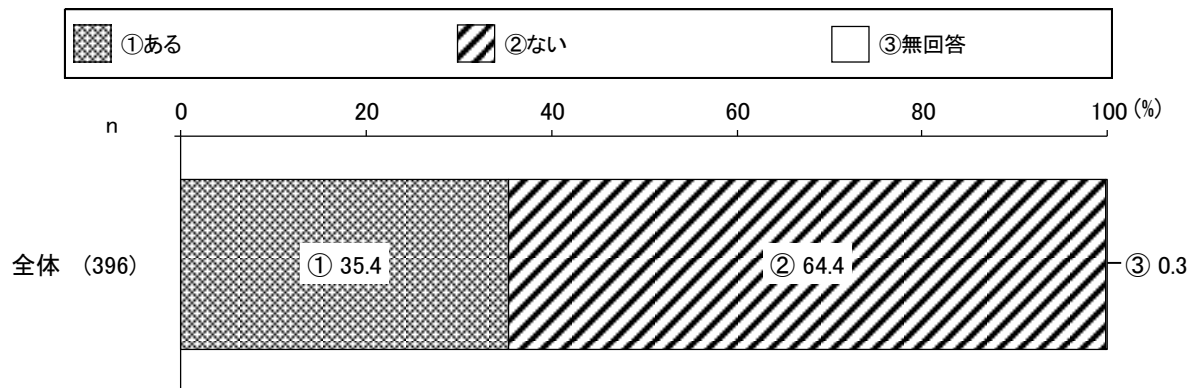
職業別でみると、「ない」は学生（95.2%）が9割台半ばと、全体（43.7%）を51.5ポイント上回っている。（図3-3-2）

(4) 区のがん検診受診の有無

◎「ない」が6割台半ば近く

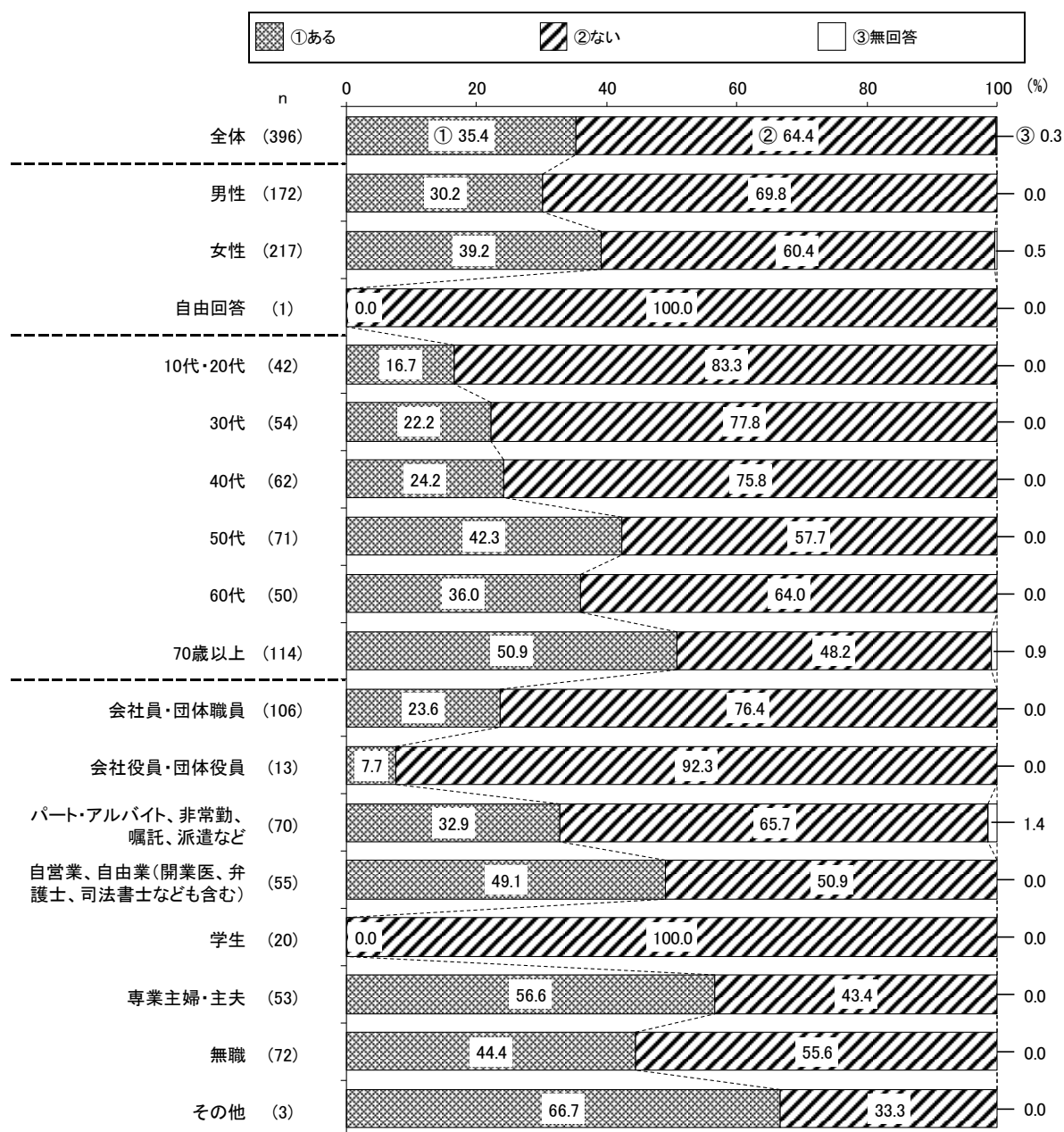
問12-1	問12で、「2 ない」に○をした方にお伺いします。 区のがん検診を過去3年以内に受診したことがありますか。 (○は1つ)	(n=396)
1	ある	35.4%
2	ない	64.4%
	無回答	0.3%

図3-4-1 区のがん検診受診の有無



区のがん検診受診の有無は、「ない」(64.4%)が6割台半ば近く、「ある」(35.4%)が3割台半ばとなっている。(図3-4-1)

図3-4-2 区のがん検診受診の有無
（性別・年代別・職業別）



性別でみると、「ない」は男性（69.8%）が7割弱と、女性（60.4%）を9.4ポイント上回っている。

区の対策型がん検診受診対象年齢（子宮頸がん検診を除く）は、40歳以上となっていることから、40代以上の年代別でみると、「ない」は40代（75.8%）が7割台半ばと、全体（64.4%）を11.4ポイント上回っている。

職業別でみると、「ない」は学生（100.0%）が10割、次いで会社役員・団体役員（92.3%）が9割強となっている。（図3-4-2）

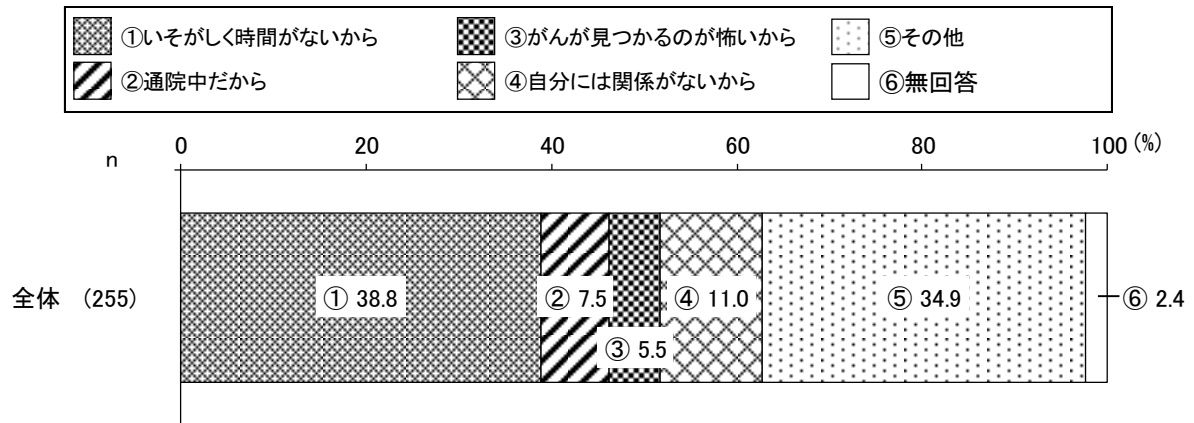
(5) 受診しなかった理由

◎「いそがしく時間がないから」が4割近く

問12-2 問12-1で、「2 ない」に○をした方にお伺いします。
受診しなかった理由は何ですか。(○は1つ)

	(n=255)
1 いそがしく時間がないから	38.8%
2 通院中だから	7.5
3 がんが見つかるのが怖いから	5.5
4 自分には関係がないから	11.0
5 その他	34.9
無回答	2.4

図3-5-1 受診しなかった理由



受診しなかった理由は、「いそがしく時間がないから」(38.8%)が4割近くとなっている。

(図3-5-1)

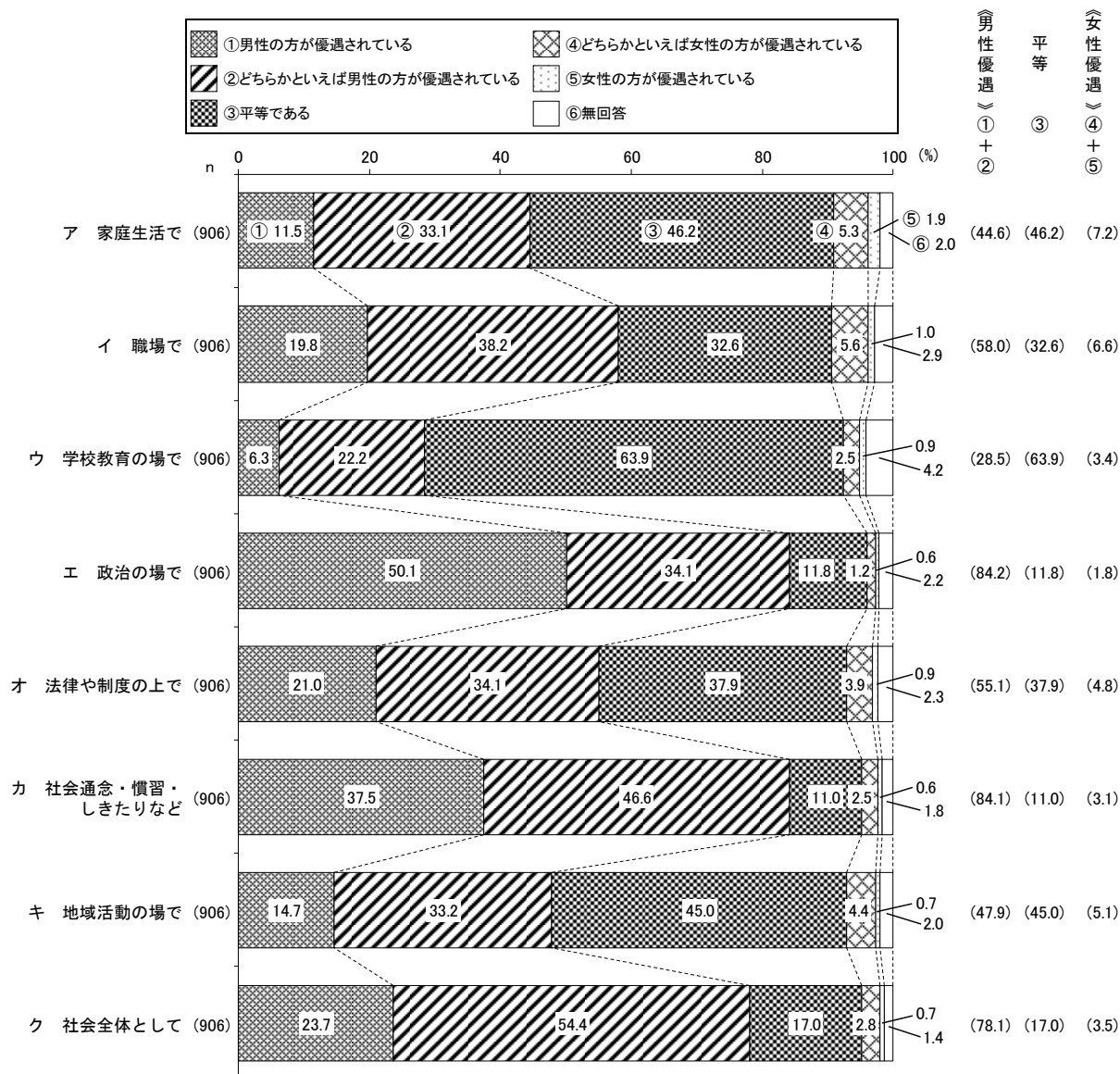
テーマ4 男女共同参画に関する意識について

（1）さまざまな分野での男女平等意識について

◎「平等である」と思う方が多いのは『学校教育の場で』で6割台半ば近く

問13 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。 (ア～クそれぞれで、1～5に1つだけ○をつけてください)						
(n=906)						
	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている どちらかといえば	平等である	女性の方が優遇されている どちらかといえば	女性の方が優遇されている	無回答
ア 家庭生活で	11.5%	33.1%	46.2%	5.3%	1.9%	2.0%
イ 職場で	19.8	38.2	32.6	5.6	1.0	2.9
ウ 学校教育の場で	6.3	22.2	63.9	2.5	0.9	4.2
エ 政治の場で	50.1	34.1	11.8	1.2	0.6	2.2
オ 法律や制度の上で	21.0	34.1	37.9	3.9	0.9	2.3
カ 社会通念・慣習・しきたりなど	37.5	46.6	11.0	2.5	0.6	1.8
キ 地域活動の場で	14.7	33.2	45.0	4.4	0.7	2.0
ク 社会全体として	23.7	54.4	17.0	2.8	0.7	1.4

図4-1-1 さまざまな分野での男女平等意識について

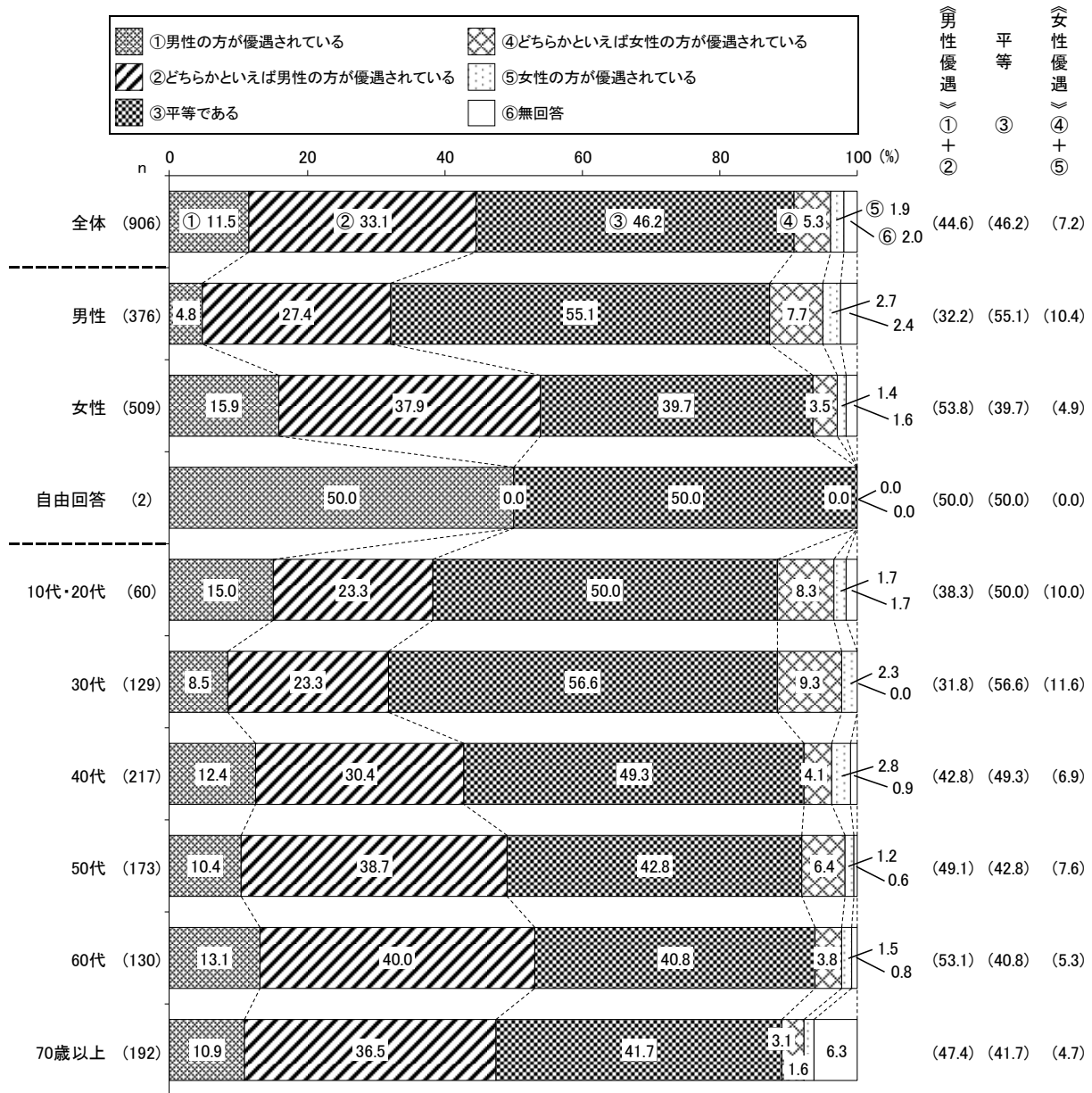


さまざまな分野での男女平等意識について、「平等である」は『学校教育の場で』（63.9%）が6割台半ば近くと最も高くなっている。

《男性優遇》（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）について、『政治の場で』（84.2%）が8割台半ば近くと最も高く、『社会通念・慣習・しきたりなど』（84.1%）が8割台半ば近くと続いている。（図4-1-1）

Ⅱ 調査の結果（テーマ4 男女共同参画に関する意識について）

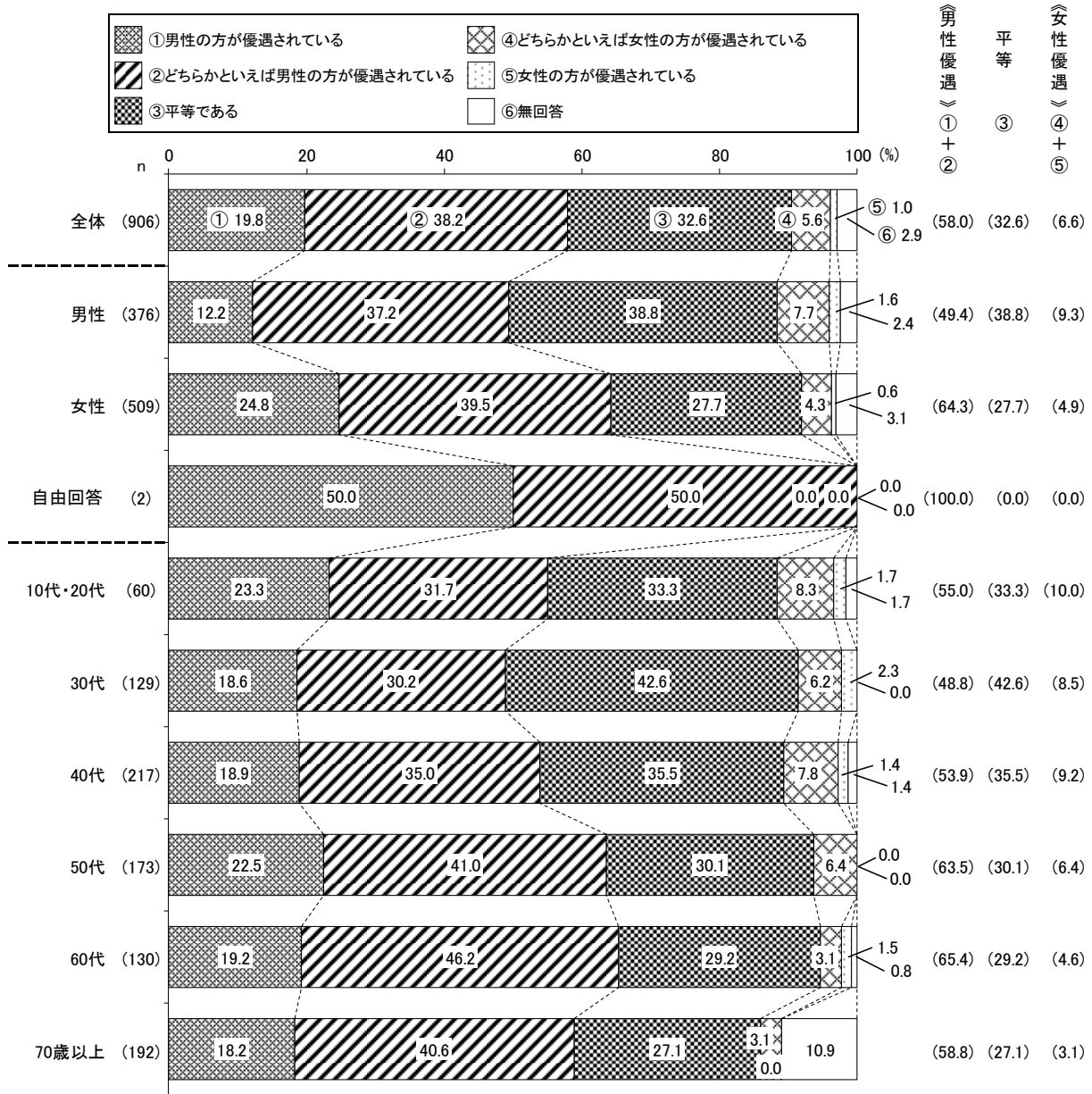
図4-1-2 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『ア 家庭生活上で』



『家庭生活上で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（53.8%）が5割台半ば近くと、男性（32.2%）を21.6ポイント上回っている。

年代別で見ると、「平等である」は30代（56.6%）が5割台半ばを超え、全体（46.2%）を10.4ポイント上回っている。（図4-1-2）

図4-1-3 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『イ 職場で』

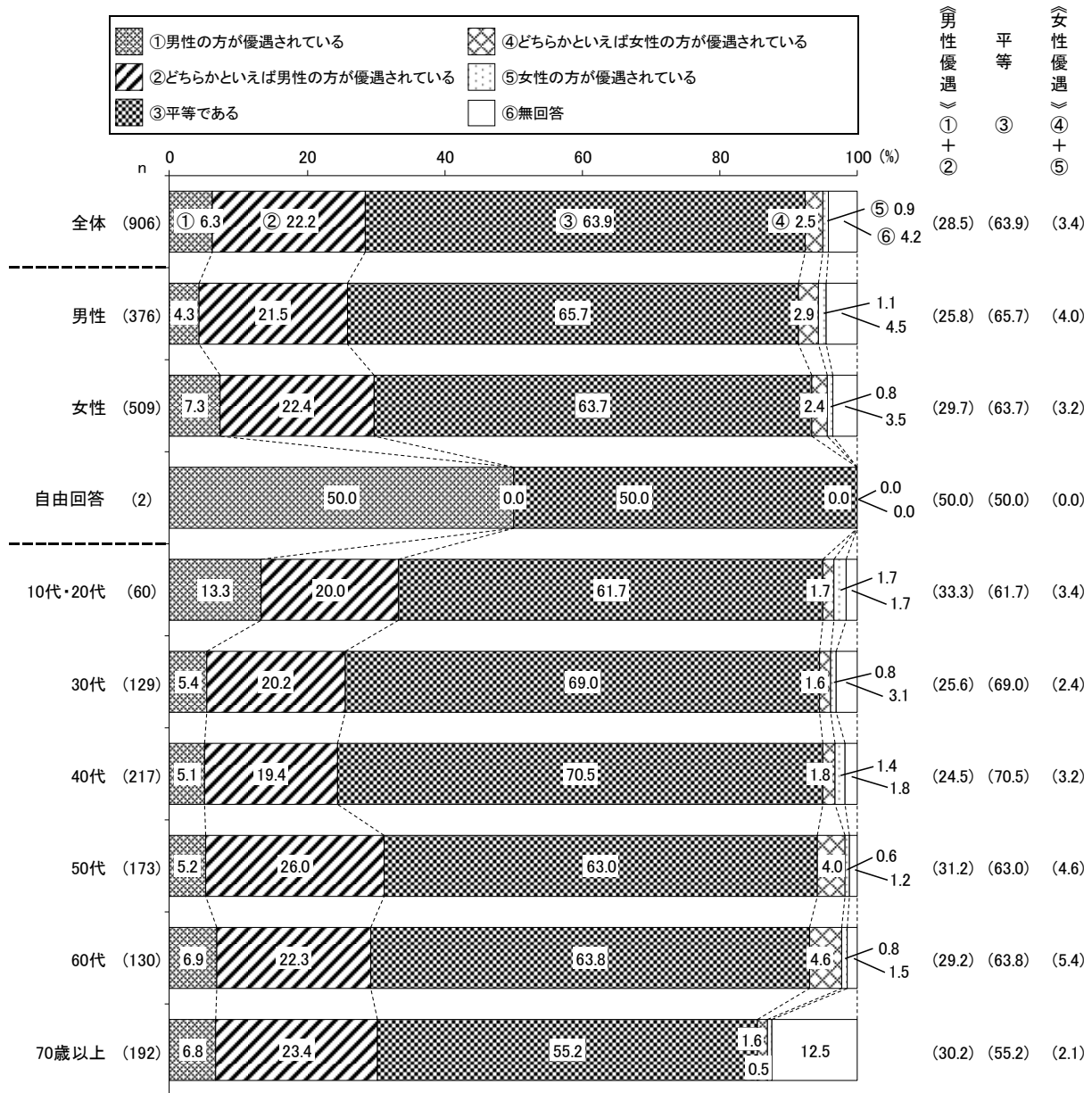


『職場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（64.3%）が6割台半ば近く、男性（49.4%）を14.9ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は60代（65.4%）が6割台半ばと、全体（58.0%）を7.4ポイント上回っている。（図4-1-3）

Ⅱ 調査の結果（テーマ4 男女共同参画に関する意識について）

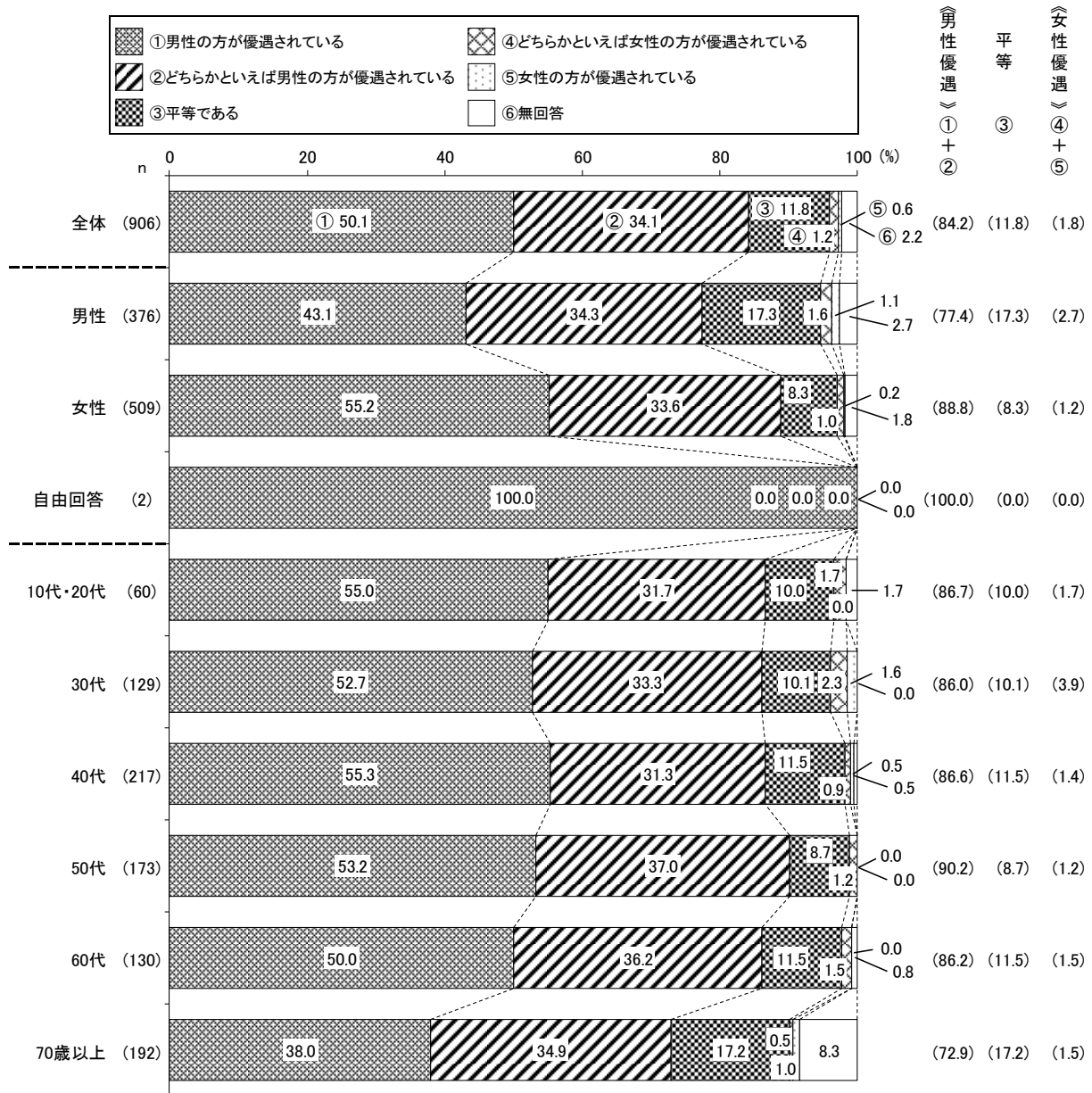
図4-1-4 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『ウ 学校教育の場で』



『学校教育の場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（29.7%）が3割弱と、男性（25.8%）を3.9ポイント上回っている。

年代別で見ると、「平等である」は40代（70.5%）が約7割と、全体（63.9%）を6.6ポイント上回っている。（図4-1-4）

図4-1-5 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『エ 政治の場で』

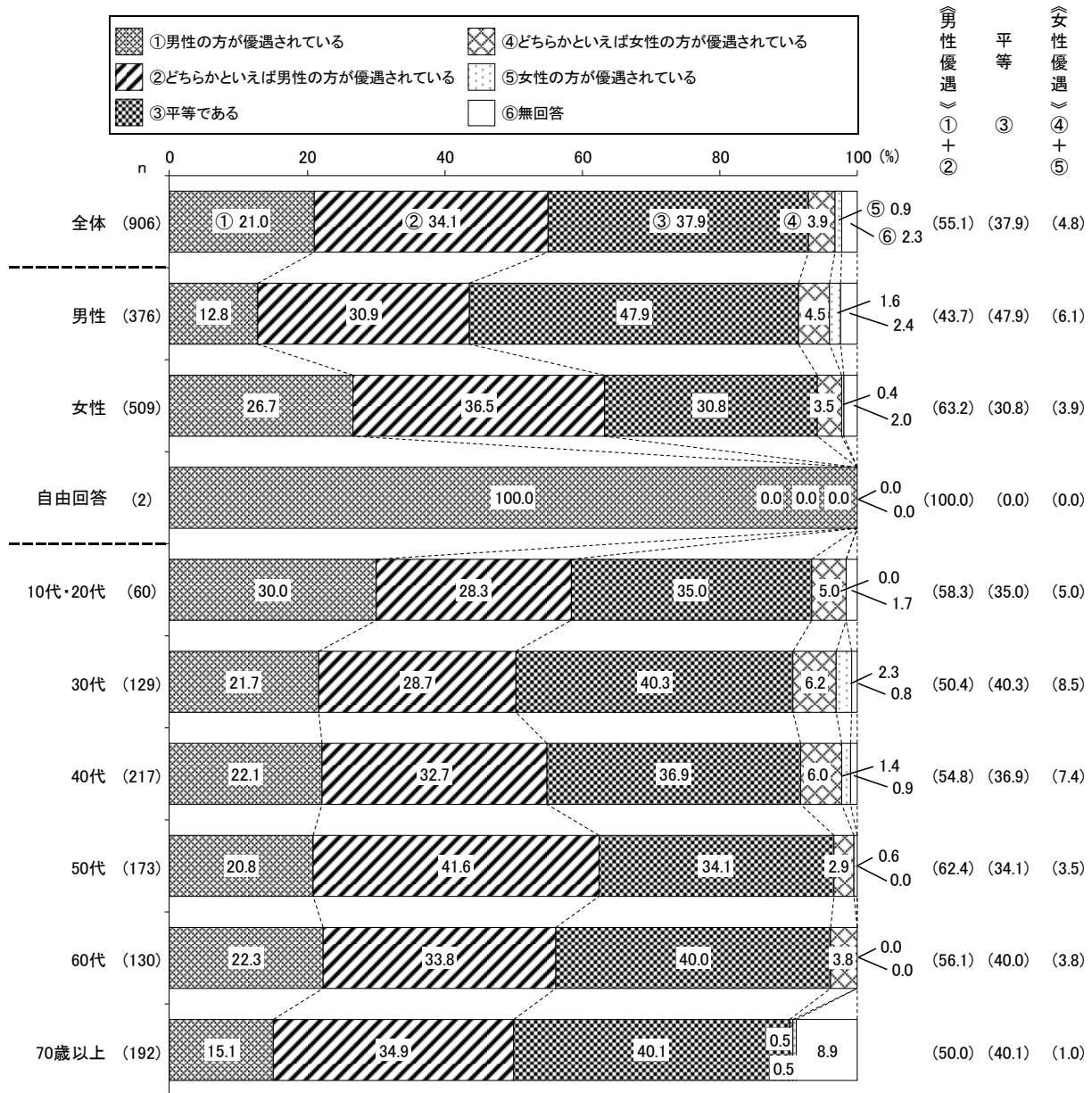


『政治の場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性(88.8%)が9割近くと、男性(77.4%)を11.4ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は50代(90.2%)が約9割と、全体(84.2%)を6.0ポイント上回っている。(図4-1-5)

Ⅱ 調査の結果（テーマ4 男女共同参画に関する意識について）

図4-1-6 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『才 法律や制度の上で』

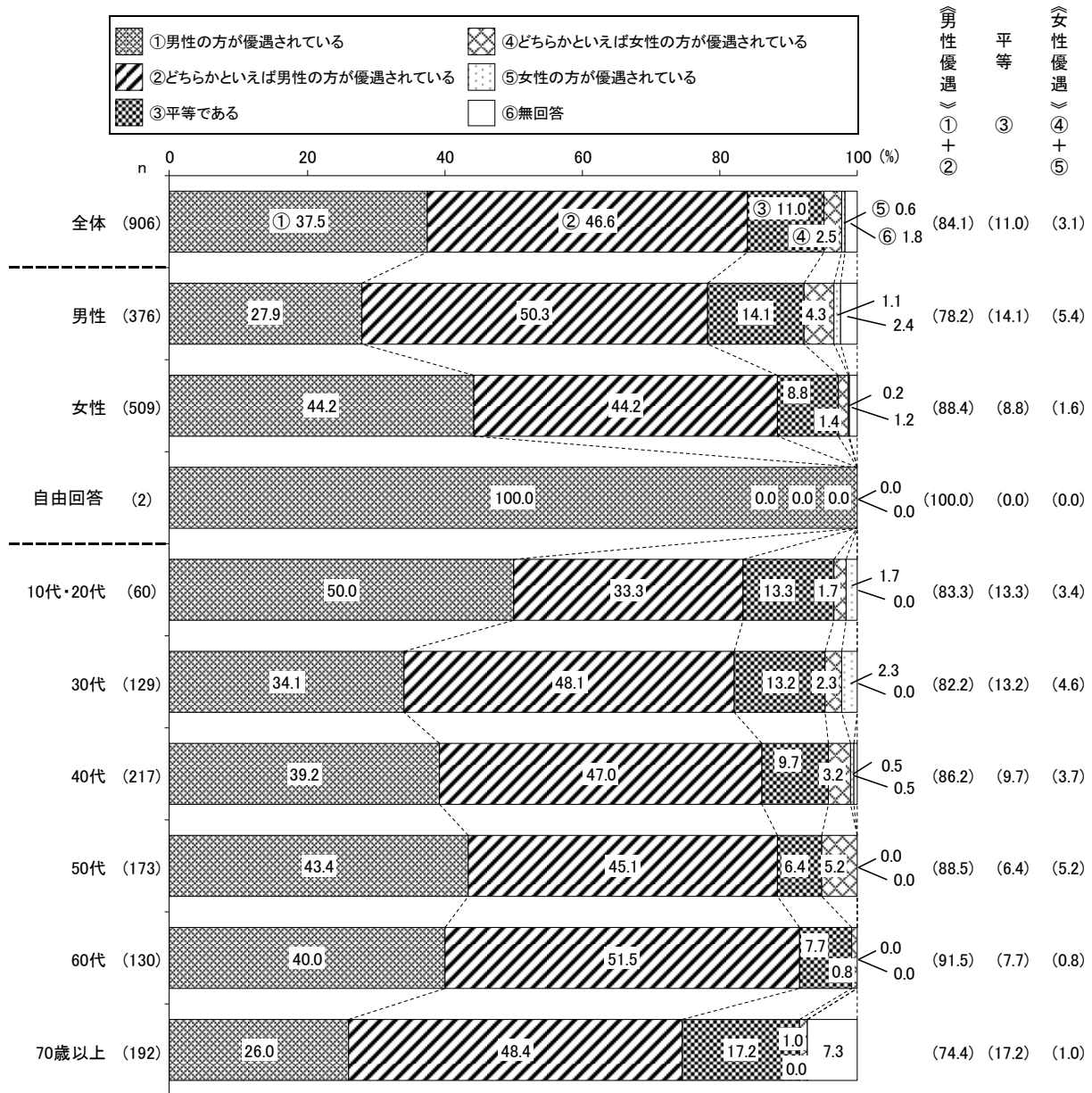


『法律や制度の上で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（63.2%）が6割台半ば近くと、男性（43.7%）を19.5ポイント上回っている。一方、「平等である」は女性（30.8%）が約3割と、男性（47.9%）を17.1ポイント下回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は50代（62.4%）が6割強と、全体（55.1%）を7.3ポイント上回っている。（図4-1-6）

図4-1-7 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)

『カ 社会通念・慣習・しきたりなど』

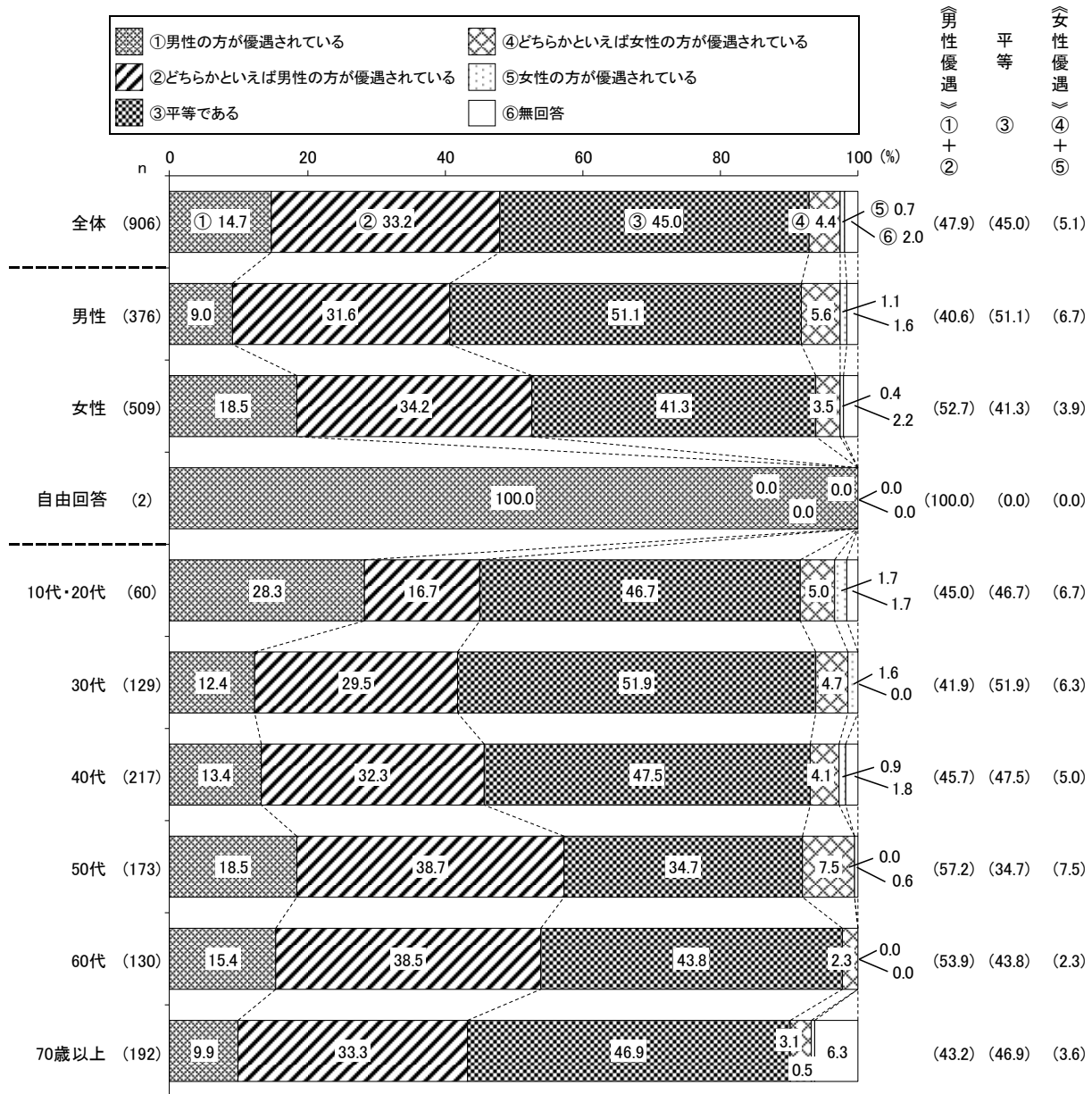


『社会通念・慣習・しきたりなど』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（88.4%）が9割近くと、男性（78.2%）を10.2ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は60代（91.5%）が9割強と、全体（84.1%）を7.4ポイント上回っている。（図4-1-7）

Ⅱ 調査の結果（テーマ4 男女共同参画に関する意識について）

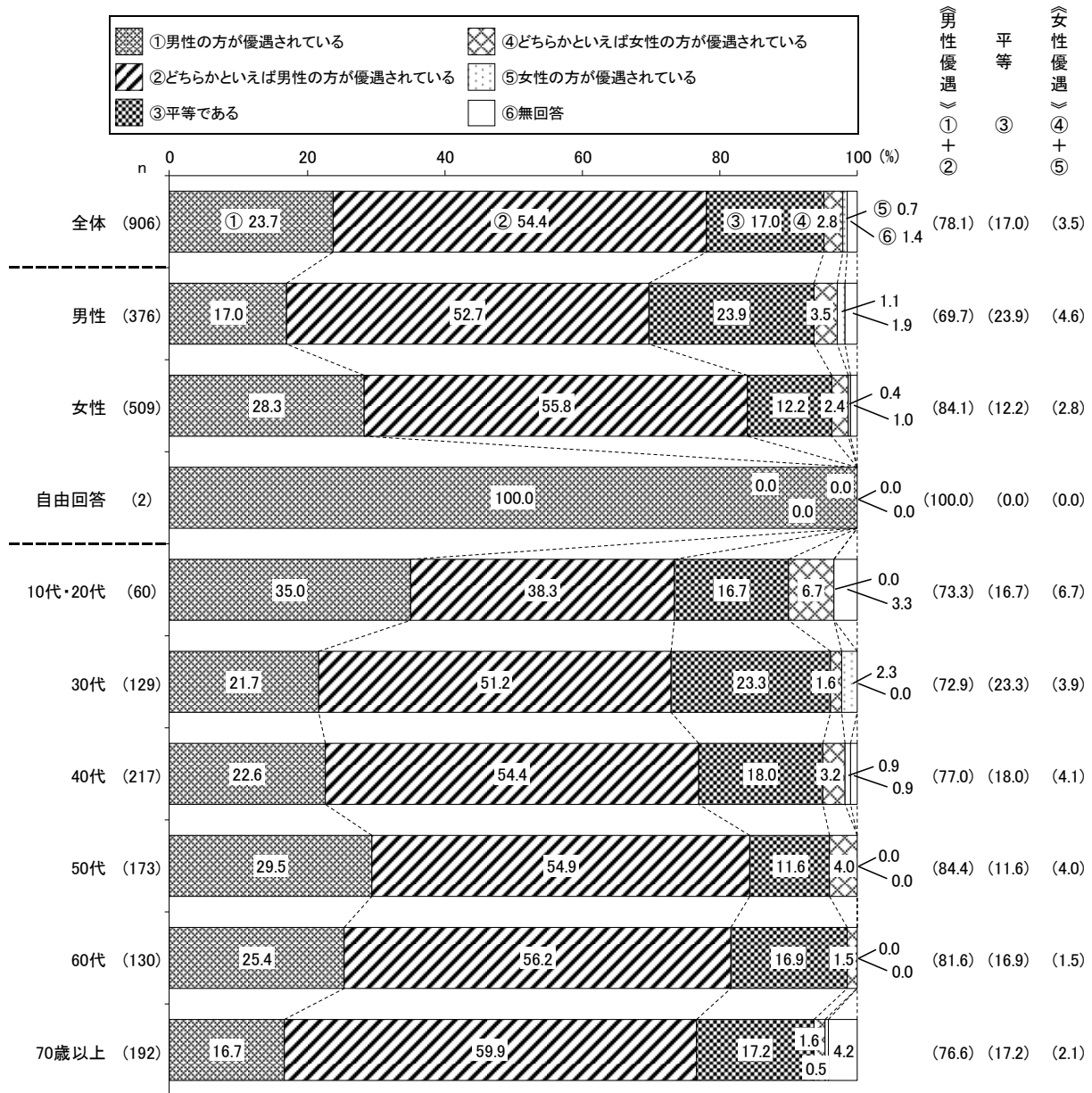
図4-1-8 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『キ 地域活動の場で』



『地域活動の場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（52.7%）が5割強と、男性（40.6%）を12.1ポイント上回っている。一方、「平等である」は女性（41.3%）が4割強と、男性（51.1%）を9.8ポイント下回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は50代（57.2%）が5割台半ばを超え、全体（47.9%）を9.3ポイント上回っている。（図4-1-8）

図4-1-9 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『ク 社会全体として』



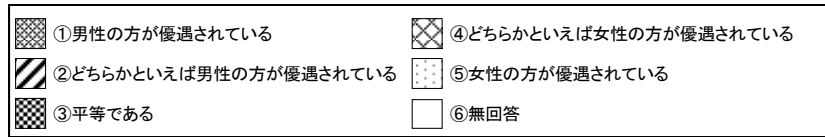
『社会全体として』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（84.1%）が8割台半ば近くと、男性（69.7%）を14.4ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は50代（84.4%）が8割台半ば近くと、全体（78.1%）を6.3ポイント上回っている。また、「平等である」は30代（23.3%）が2割台半ば近くと、全体（17.0%）を6.3ポイント上回っている。（図4-1-9）

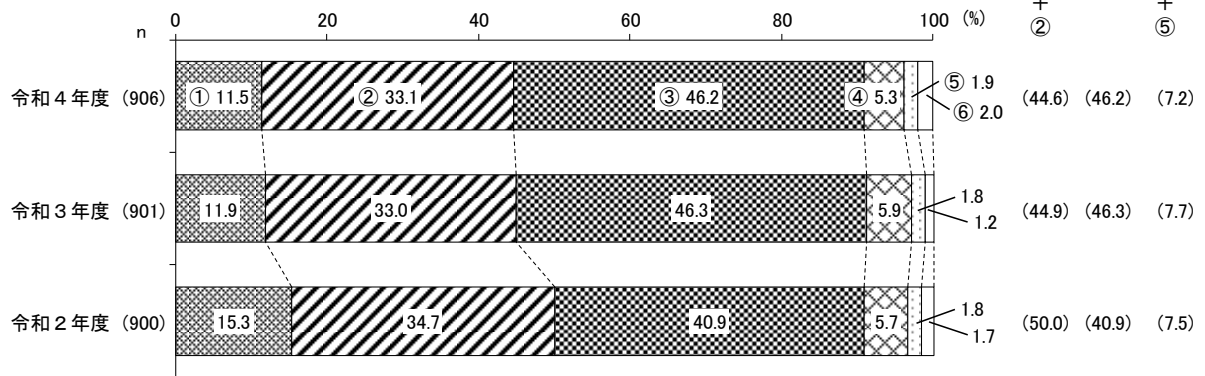
Ⅱ 調査の結果（テーマ4 男女共同参画に関する意識について）

図4-1-10 さまざまな分野での男女平等意識について
（経年推移）

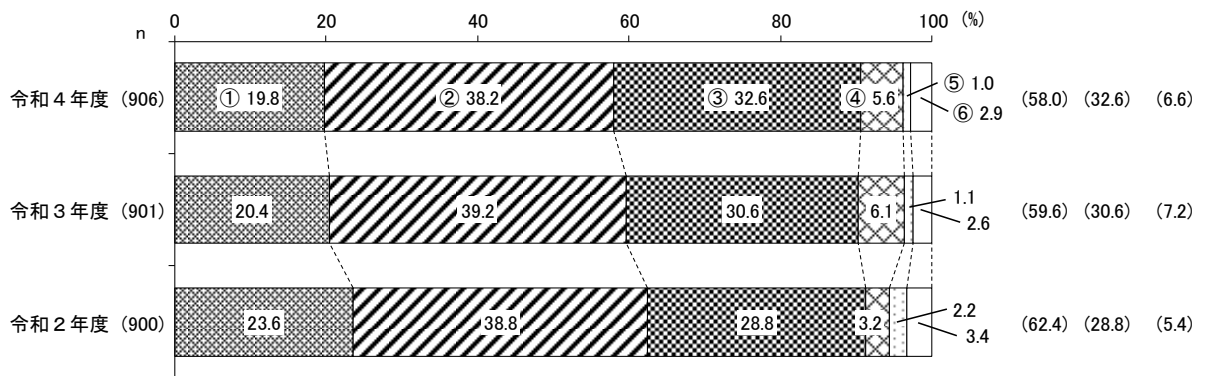
『ア 家庭生活上』・『イ 職場で』



『ア 家庭生活上』



『イ 職場で』

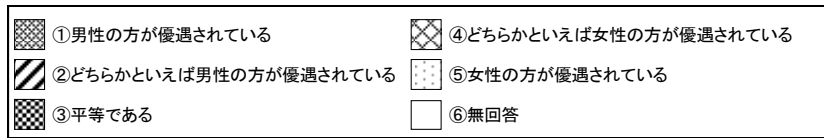


過去3年間の経年推移をみると、『家庭生活上』では《男性優遇》は令和2年度（50.0%）から令和4年度（44.6%）にかけて5.4ポイント低くなっている。

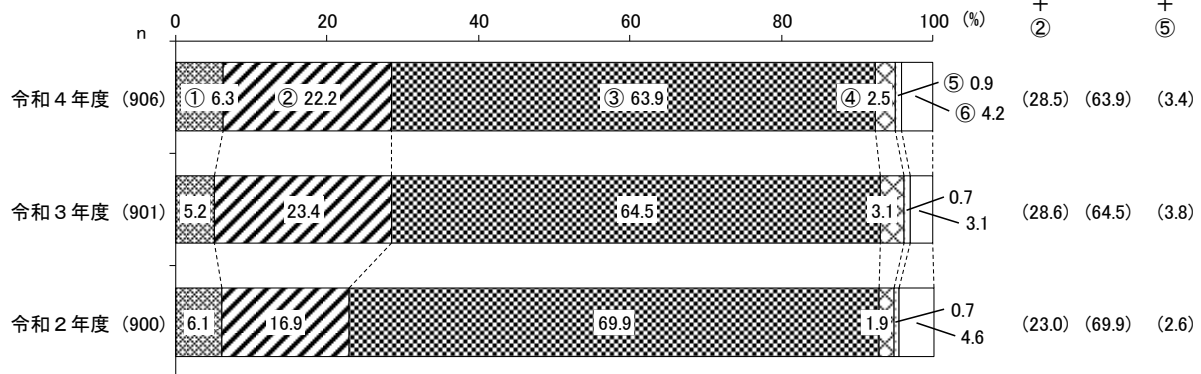
『職場で』では《男性優遇》は令和2年度（62.4%）から令和4年度（58.0%）にかけて4.4ポイント低くなっている。（図4-1-10）

図4-1-11 さまざまな分野での男女平等意識について
(経年推移)

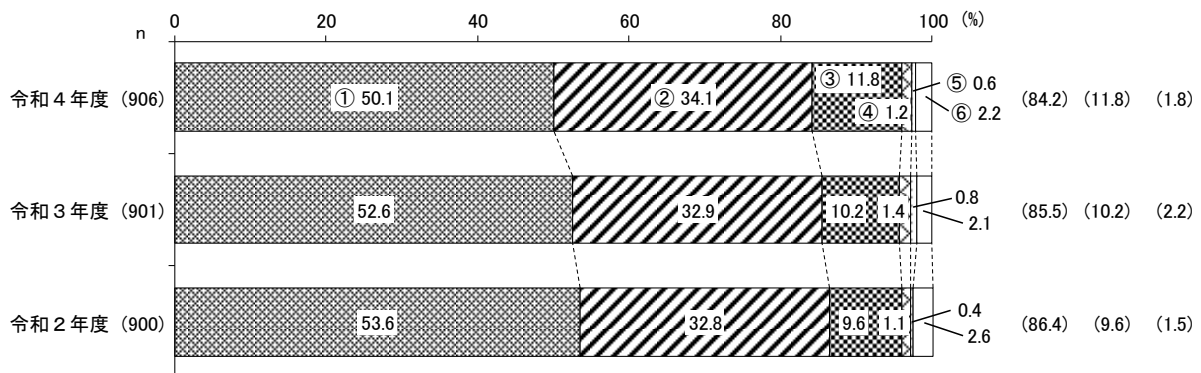
『ウ 学校教育の場で』・『エ 政治の場で』



『ウ 学校教育の場で』



『エ 政治の場で』



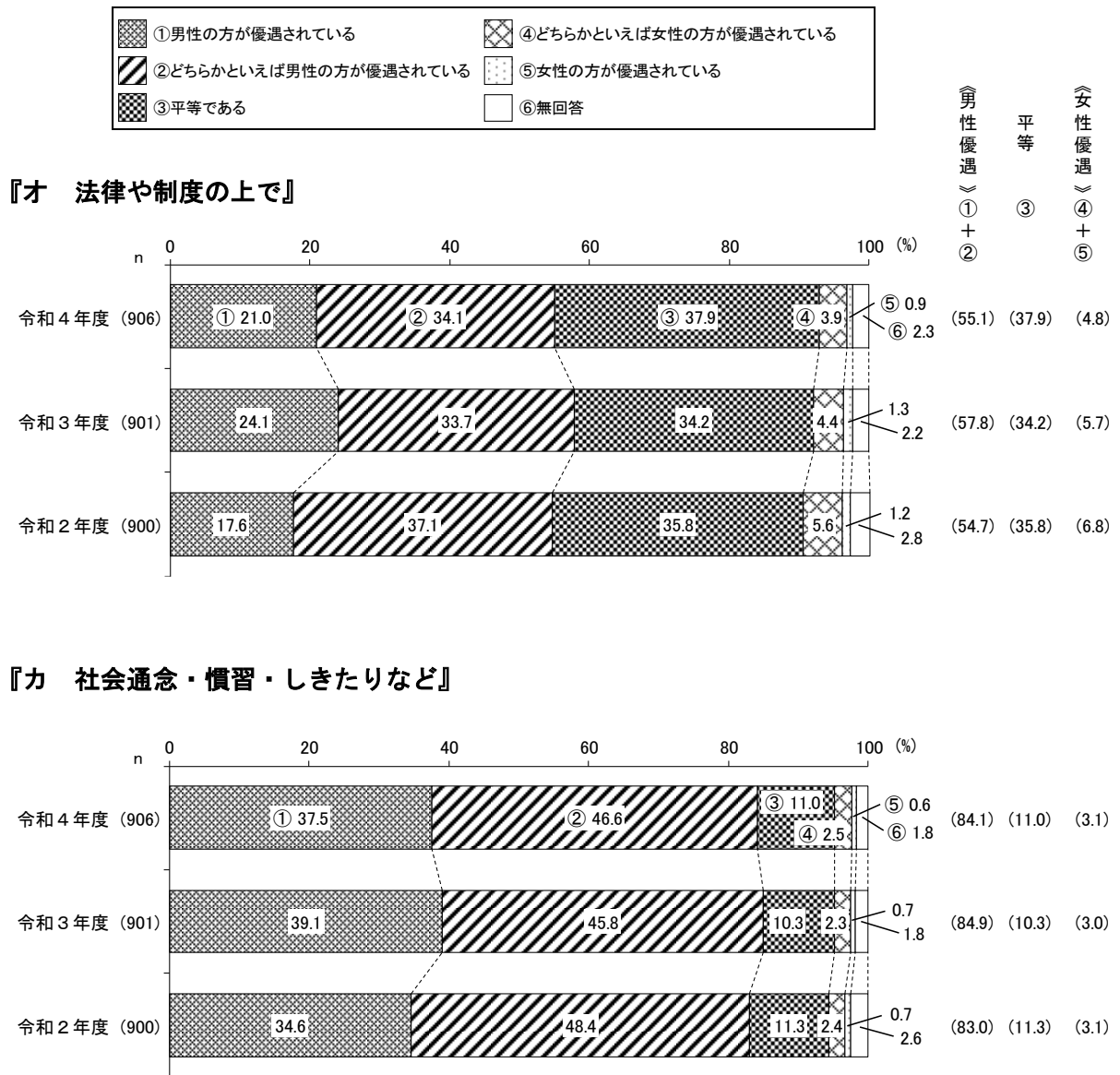
過去3年間の経年推移をみると、『学校教育の場で』では「平等である」は令和2年度(69.9%)から令和4年度(63.9%)にかけて6.0ポイント低くなっている。

『政治の場で』では《男性優遇》は令和2年度(86.4%)から令和4年度(84.2%)にかけて2.2ポイント低くなっている。(図4-1-11)

Ⅱ 調査の結果（テーマ4 男女共同参画に関する意識について）

図4-1-12 さまざまな分野での男女平等意識について
（経年推移）

『オ 法律や制度の上で』・『カ 社会通念・慣習・しきたりなど』

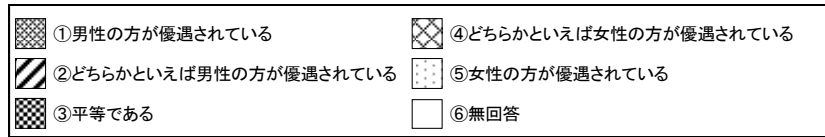


過去3年間の経年推移をみると、『法律や制度の上で』では「平等である」は令和3年度(34.2%)から令和4年度(37.9%)にかけて3.7ポイント高くなっている。

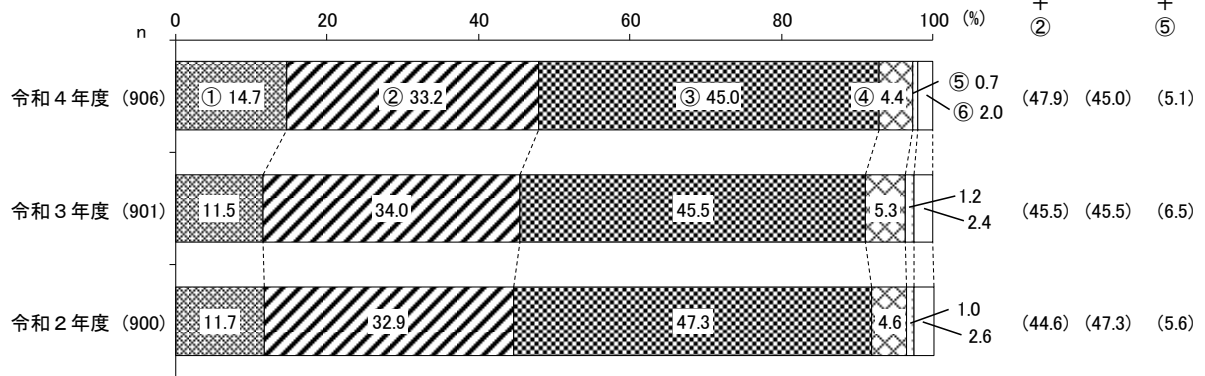
『社会通念・慣習・しきたりなど』では《男性優遇》は令和2年度(83.0%)から令和4年度(84.1%)にかけて1.1ポイント高くなっている。(図4-1-12)

図4-1-13 さまざまな分野での男女平等意識について
(経年推移)

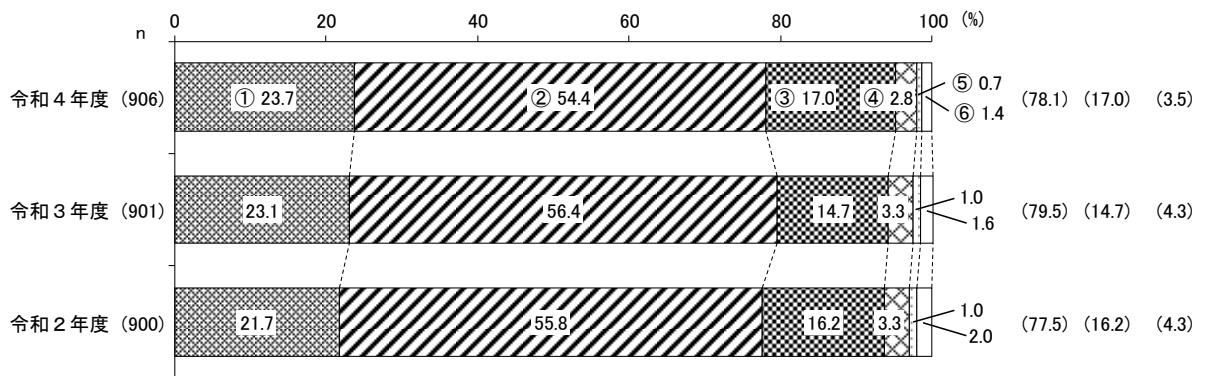
『キ 地域活動の場で』・『ク 社会全体として』



『キ 地域活動の場で』



『ク 社会全体として』



過去3年間の経年推移をみると、『地域活動の場で』では《男性優遇》は令和2年度（44.6%）から令和4年度（47.9%）にかけて3.3ポイント高くなっている。

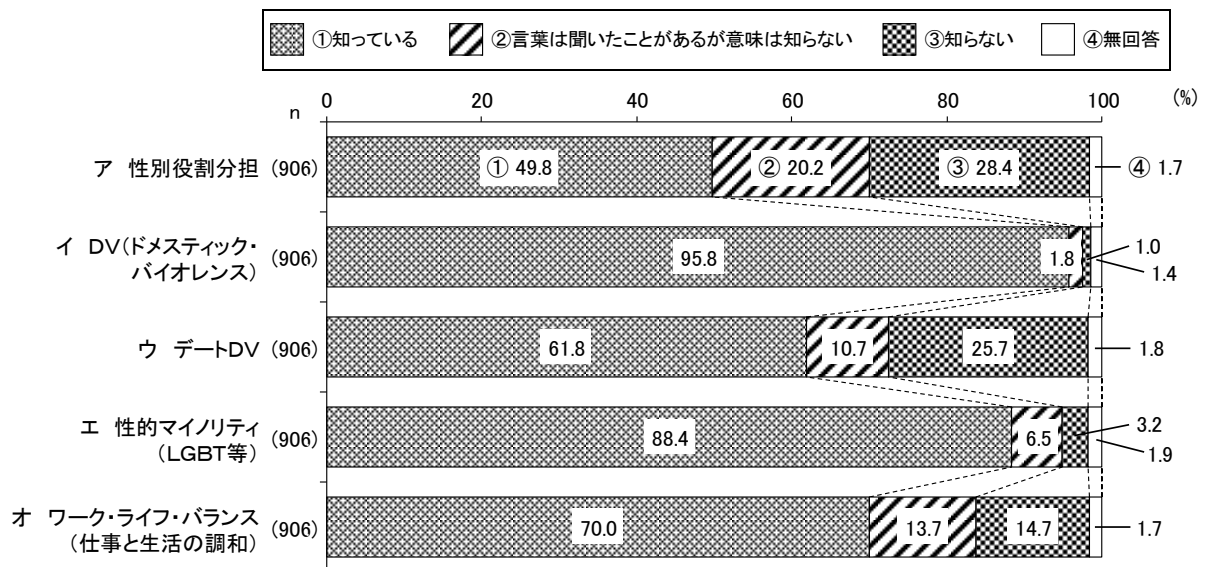
『社会全体として』では「平等である」は令和3年度（14.7%）から令和4年度（17.0%）にかけて2.3ポイント高くなっている。（図4-1-13）

（2）男女共同参画に関する言葉について

◎「知っている」と思う方が多いのは『DV（ドメスティック・バイオレンス）』が9割台半ば

問14 男女共同参画に関する以下の言葉について知っていますか。 (ア～オそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)				
(n=906)				
	知っている	言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	知らない	無回答
ア 性別役割分担	49.8%	20.2%	28.4%	1.7%
イ DV（ドメスティック・バイオレンス）	95.8	1.8	1.0	1.4
ウ デートDV	61.8	10.7	25.7	1.8
エ 性的マイノリティ（LGBT等）	88.4	6.5	3.2	1.9
オ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	70.0	13.7	14.7	1.7

図4-2 男女共同参画に関する言葉について



男女共同参画に関する言葉について、「知っている」は『DV（ドメスティック・バイオレンス）』（95.8%）が9割台半ばで最も高く、次いで『性的マイノリティ（LGBT等）』（88.4%）が9割近くとなっている。

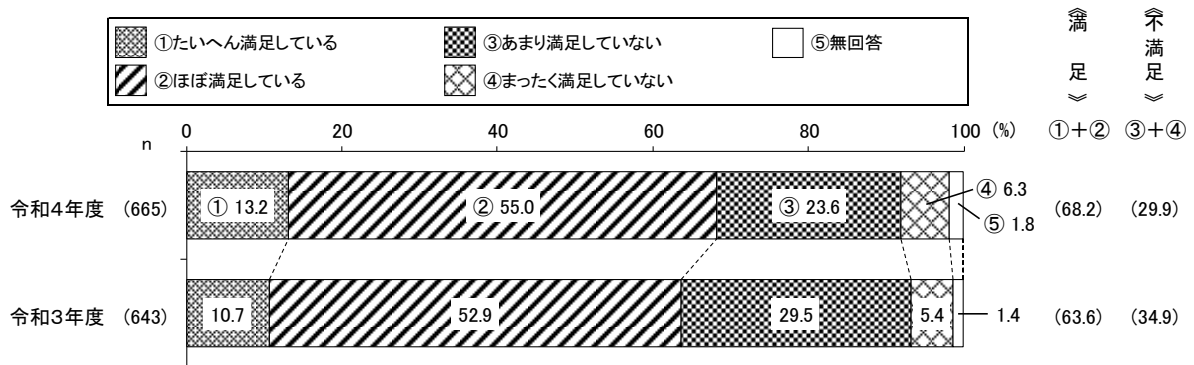
一方、「知らない」は『性別役割分担』（28.4%）が3割近く、『デートDV』（25.7%）が2割台半ばとなっている。（図4-2）

(3) 仕事と生活のバランスの満足度

◎現在の仕事と生活のバランスに《満足》が7割近く

問15 働いているすべての方にお伺いします。		
あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。(〇は1つ)		(n=665)
1	たいへん満足している	13.2%
2	ほぼ満足している	55.0
3	あまり満足していない	23.6
4	まったく満足していない	6.3
	無回答	1.8

図4-3 仕事と生活のバランスの満足度
(経年推移)



仕事と生活のバランスの満足度について、《満足》(「たいへん満足している」+「ほぼ満足している」) (68.2%) が7割近く、《不満足》(「あまり満足していない」+「まったく満足していない」) (29.9%) が3割弱となっている。

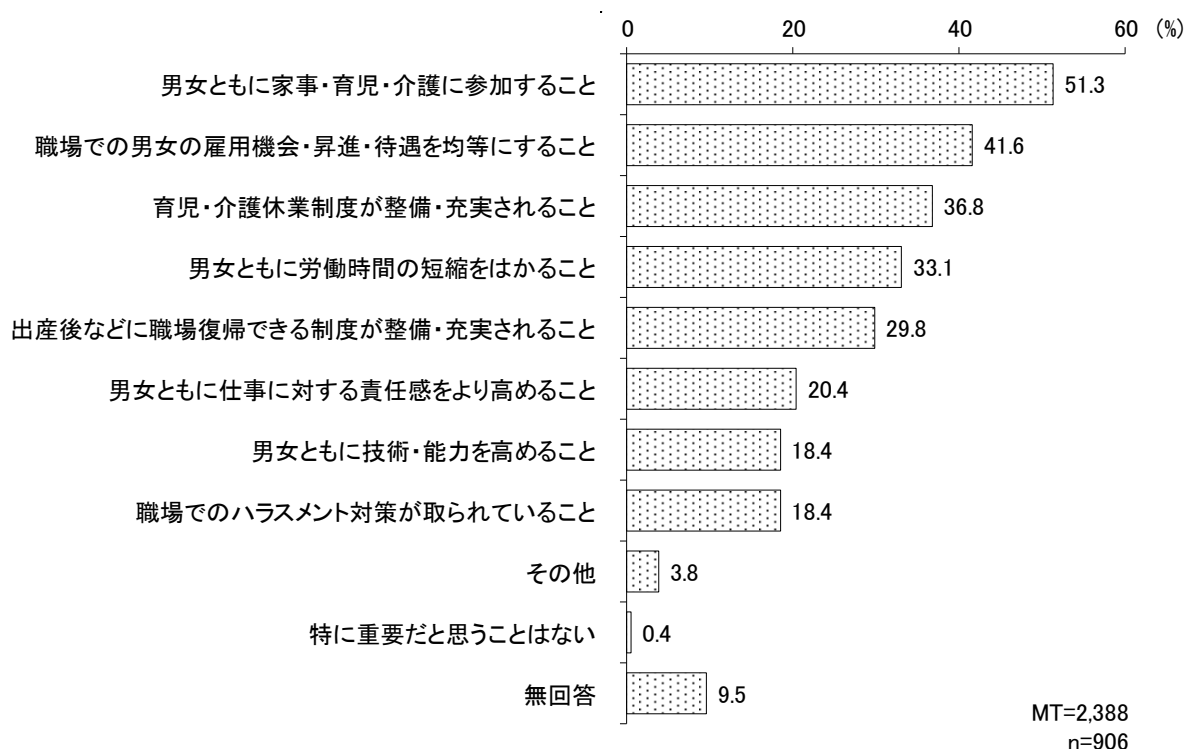
前回の調査結果(令和3年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、《不満足》(29.9%) が前回(34.9%)より5.0ポイント低くなっている。(図4-3)

（4）男女とも働きやすい環境づくりについて

◎「男女ともに家事・育児・介護に参加すること」が5割強

問16 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。 （あてはまるものに3つまで○をつけてください）		(n=906)
1	男女ともに労働時間の短縮をはかること	33.1%
2	男女ともに家事・育児・介護に参加すること	51.3
3	男女ともに仕事に対する責任感をより高めること	20.4
4	男女ともに技術・能力を高めること	18.4
5	職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること	41.6
6	職場でのハラスメント対策が取られていること	18.4
7	出産後などに職場復帰できる制度が整備・充実されること	29.8
8	育児・介護休業制度が整備・充実されること	36.8
9	その他	3.8
10	特に重要だと思うことはない	0.4
	無回答	9.5

図4-4 男女とも働きやすい環境づくりについて



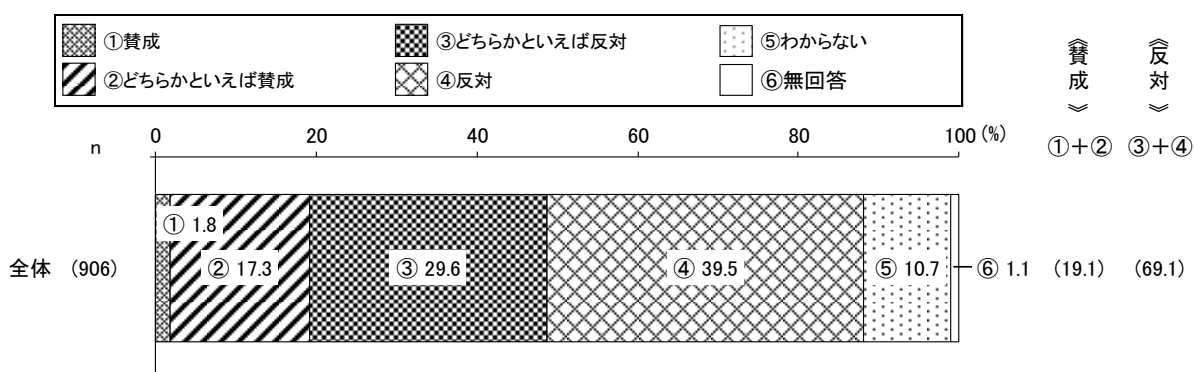
男女とも働きやすい環境づくりについて、「男女ともに家事・育児・介護に参加すること」(51.3%)が5割強で最も高く、次いで「職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること」(41.6%)が4割強と続いている。(図4-4)

(5) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

◎《賛成》が2割弱、《反対》が7割弱

問17 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担の考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。(〇は1つ)		(n=906)
1	賛成	1.8%
2	どちらかといえば賛成	17.3
3	どちらかといえば反対	29.6
4	反対	39.5
5	わからない	10.7
	無回答	1.1

図4-5-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

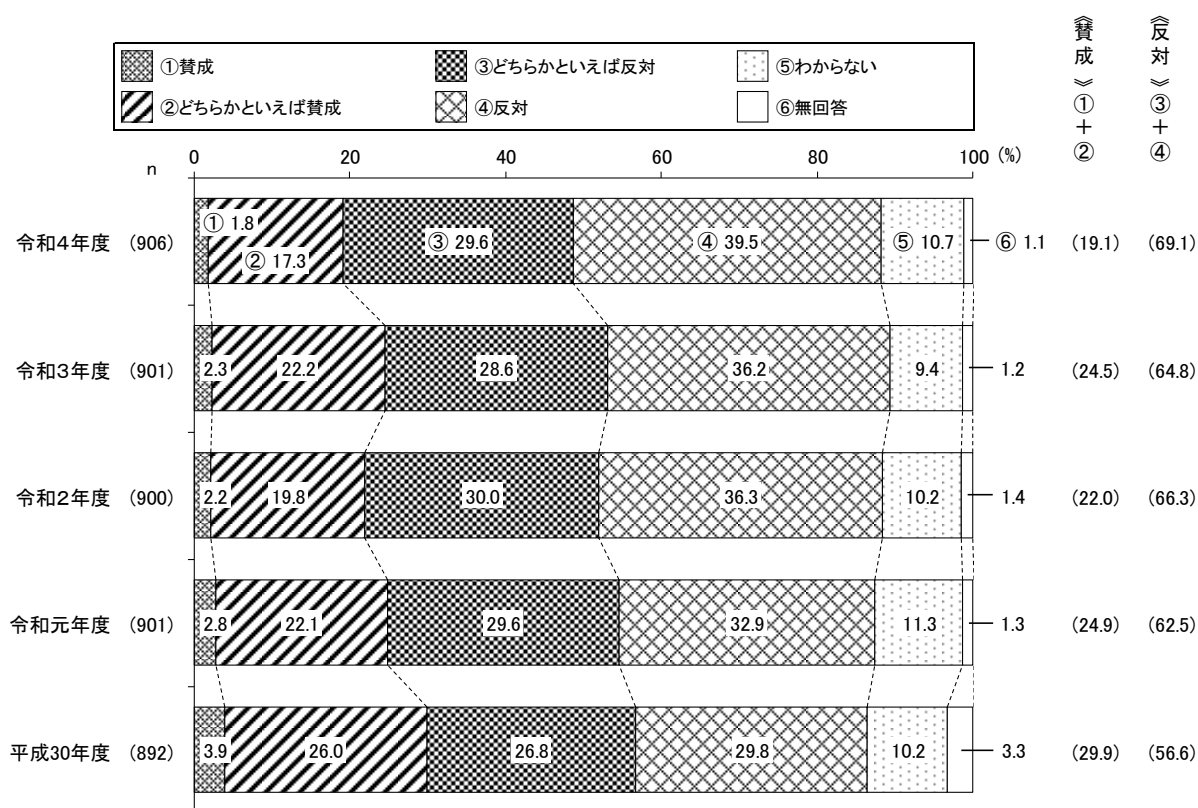


「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「反対」(39.5%)が4割弱で最も高く、次いで「どちらかといえば反対」(29.6%)が3割弱となっている。

《賛成》(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)(19.1%)が2割弱、《反対》(「反対」+「どちらかといえば反対」)(69.1%)が7割弱となっている。(図4-5-1)

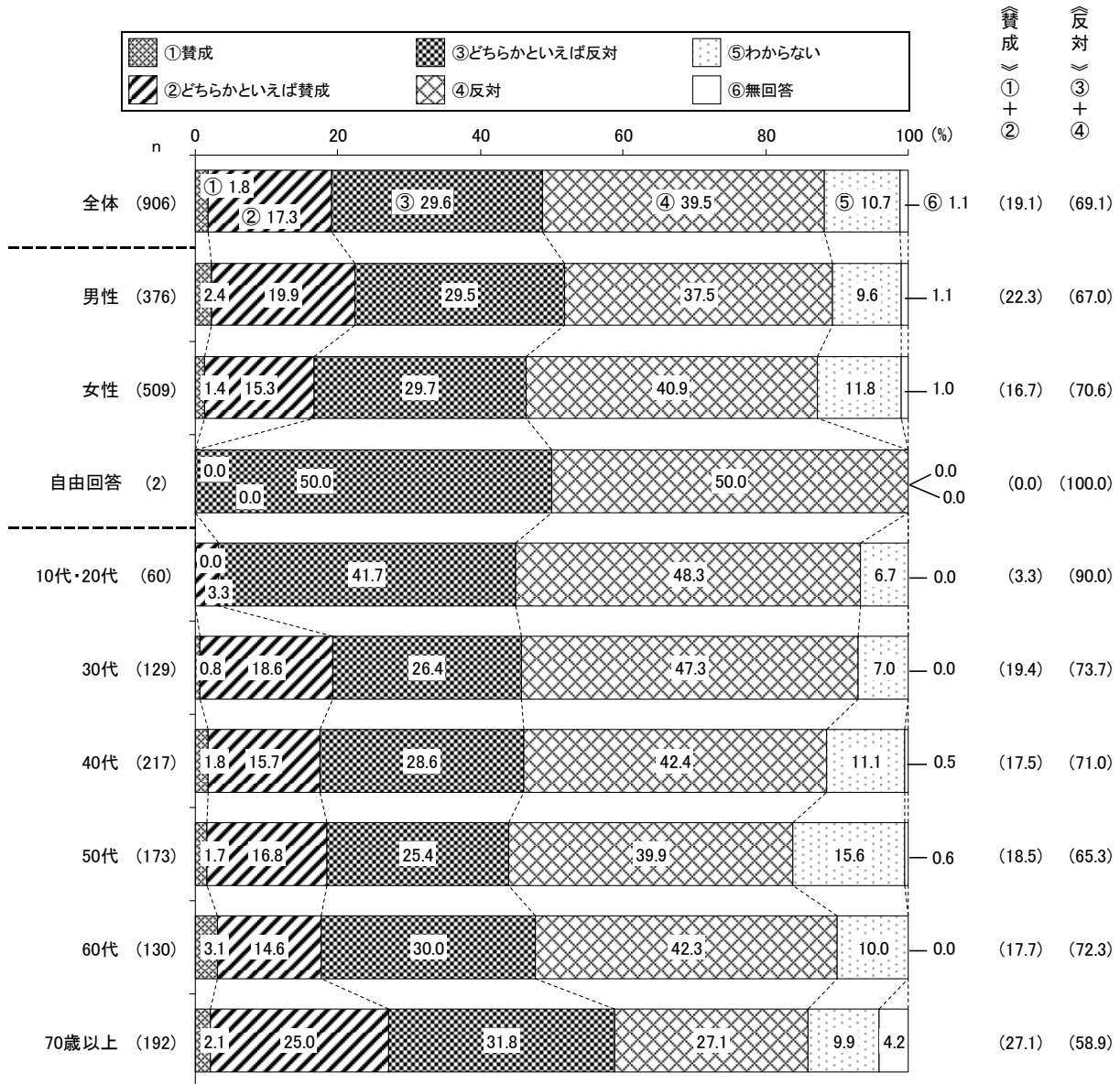
Ⅱ 調査の結果（テーマ4 男女共同参画に関する意識について）

図4-5-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
（経年推移）



過去5年間の経年推移をみると、《反対》の割合が平成30年度から令和2年度にかけて年々高くなり、令和3年度（64.8%）は令和2年度（66.3%）から1.5ポイント低くなったものの、令和4年度（69.1%）は令和3年度（64.8%）より4.3ポイント高くなっている。（図4-5-2）

図4-5-3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
(性別・年代別)



性別で見ると、《賛成》は、男性（22.3%）が2割強と、女性（16.7%）を5.6ポイント上回っている。

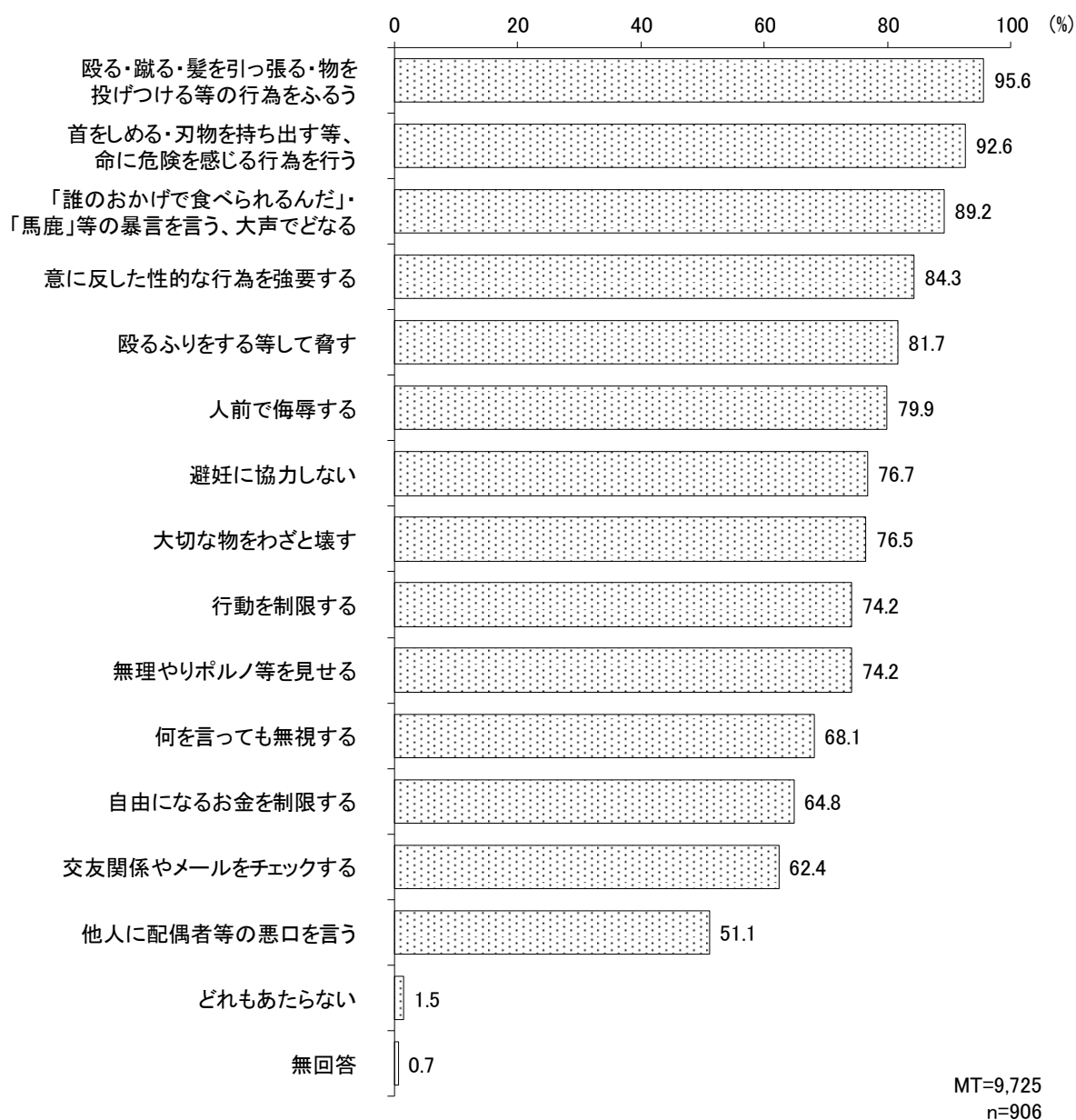
年代別で見ると、《賛成》は70歳以上（27.1%）が2割台半ばを超え、全体（19.1%）を8.0ポイント上回っている。（図4-5-3）

（6）DVだと思ふ行為について

◎「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」が9割台半ば

問18 ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力。以下、「DV」という）について、DVだと思ふ行為は次のうちどれですか。 （あてはまるものにいくつでも○をつけてください）		(n=906)
1	何を言っても無視する	68.1%
2	行動を制限する	74.2
3	交友関係やメールをチェックする	62.4
4	「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる	89.2
5	人前で侮辱する	79.9
6	他人に配偶者等の悪口を言う	51.1
7	大切な物をわざと壊す	76.5
8	殴るふりをする等して脅す	81.7
9	殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう	95.6
10	首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う	92.6
11	自由になるお金を制限する	64.8
12	意に反した性的な行為を強要する	84.3
13	無理やりポルノ等を見せる	74.2
14	避妊に協力しない	76.7
15	どれもあたらない	1.5
	無回答	0.7

図4-6-1 DVだと思う行為について

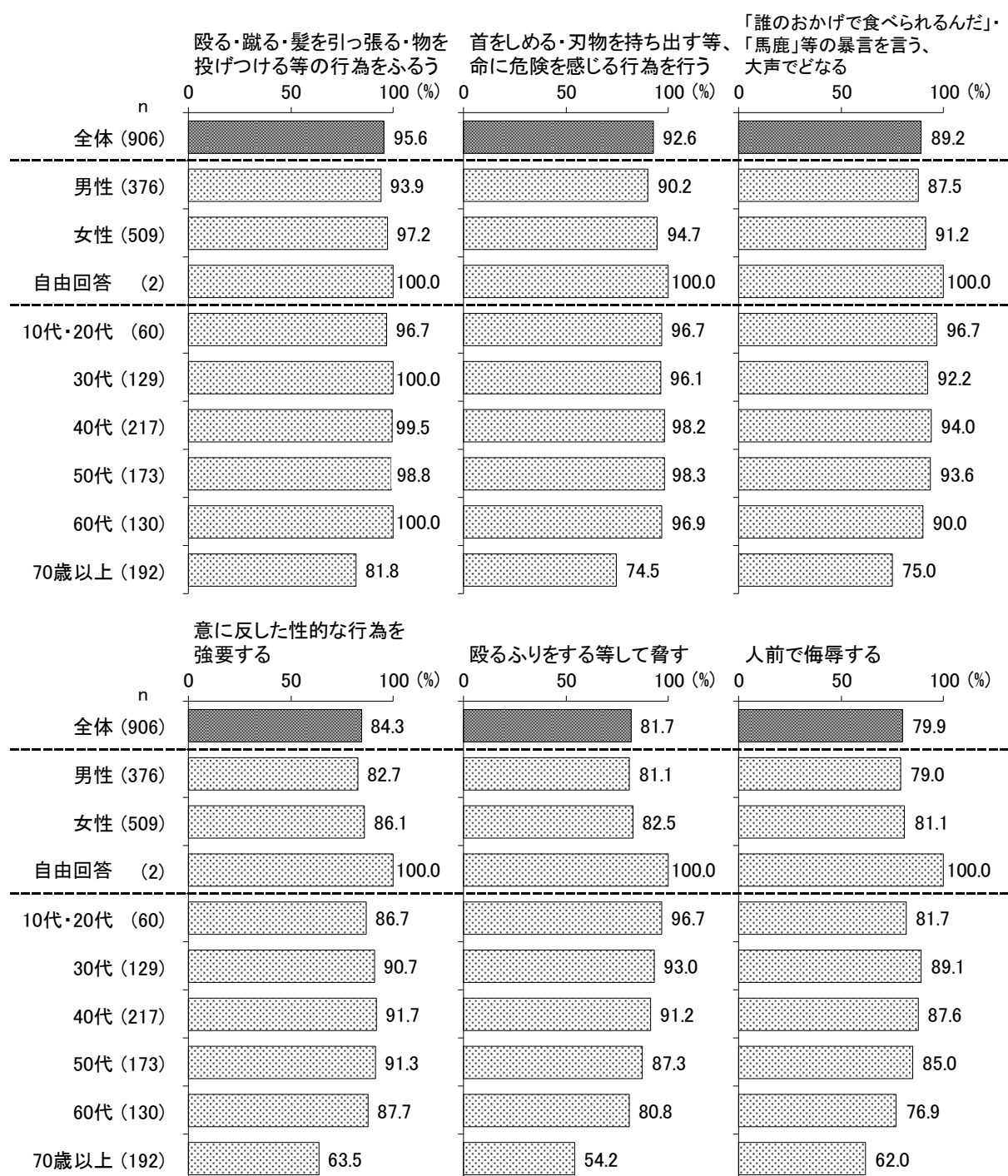


DVだと思う行為については、「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」(95.6%)が9割台半ばで最も高く、次いで「首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う」(92.6%)が9割強、「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる」(89.2%)が9割弱、「意に反した性的な行為を強要する」(84.3%)が8割台半ば近く、「殴るふりをする等して脅す」(81.7%)が8割強と続いている。

全体で最も低い「他人に配偶者等の悪口を言う」(51.1%)は5割強となっている。

(図4-6-1)

図4-6-2 DVだと思う行為について
（性別・年代別）上位6項目



上位6項目について、性別でみると、「首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う」は女性（94.7%）が9割台半ば近くと、男性（90.2%）を4.5ポイント上回っている。

年代別でみると、すべての項目で70歳以上が最も低い割合となっており、特に「殴るふりをする等して脅す」（54.2%）が5割台半ば近くと、全体（81.7%）を27.5ポイント下回っている。

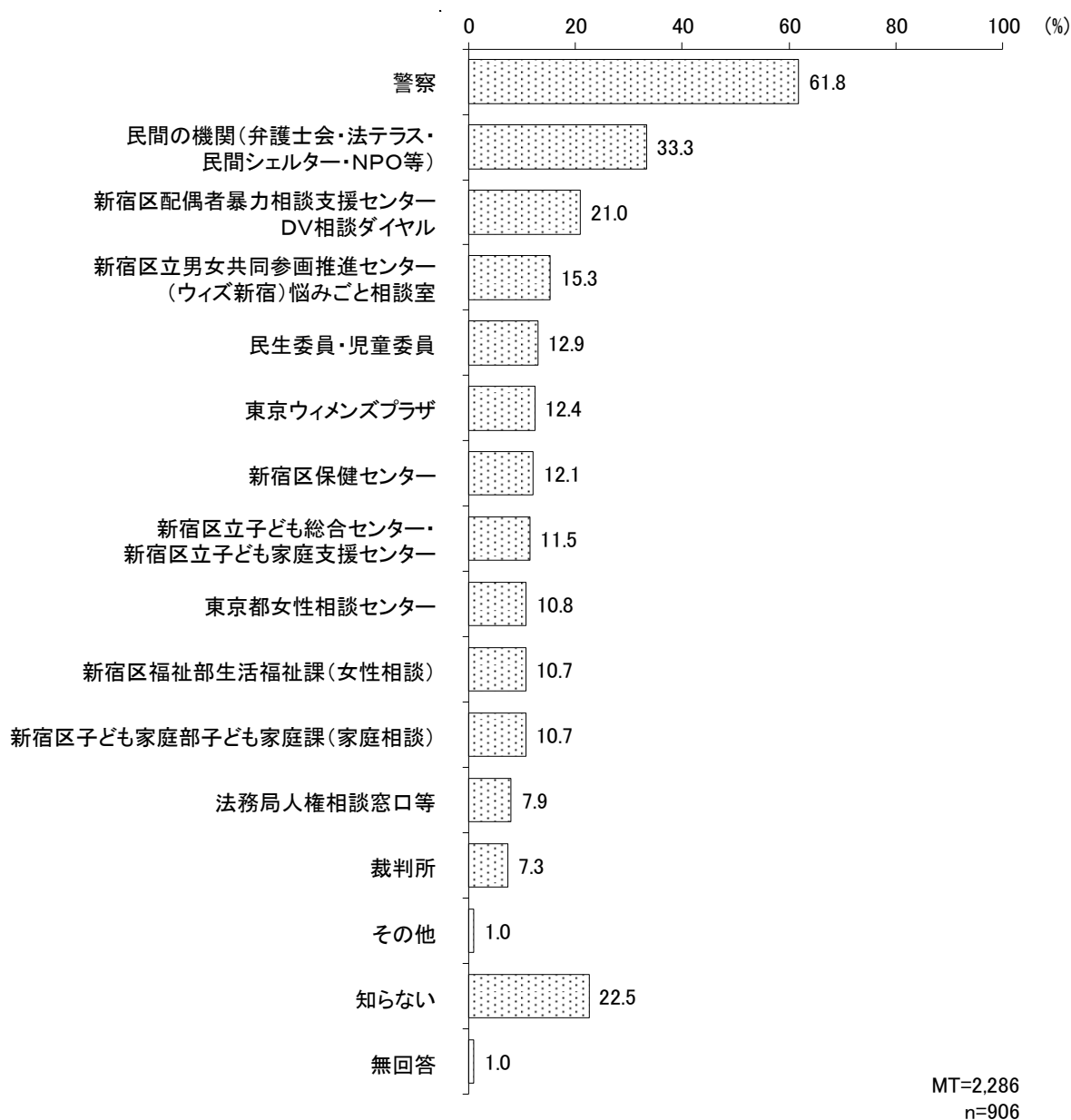
（図4-6-2）

(7) DVについての相談機関の窓口について

◎「警察」が6割強

問19 DVについての相談機関の窓口を知っていますか。		(n=906)
(あてはまるものいくつかでも○をつけてください)		
1	新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル	21.0%
2	新宿区立男女共同参画推進センター(ウィズ新宿)悩みごと相談室	15.3
3	新宿区福祉部生活福祉課(女性相談)	10.7
4	新宿区子ども家庭部子ども家庭課(家庭相談)	10.7
5	新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター	11.5
6	新宿区保健センター	12.1
7	東京都女性相談センター	10.8
8	東京ウィメンズプラザ	12.4
9	警察	61.8
10	法務局人権相談窓口等	7.9
11	裁判所	7.3
12	民間の機関(弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等)	33.3
13	民生委員・児童委員	12.9
14	その他	1.0
15	知らない	22.5
	無回答	1.0

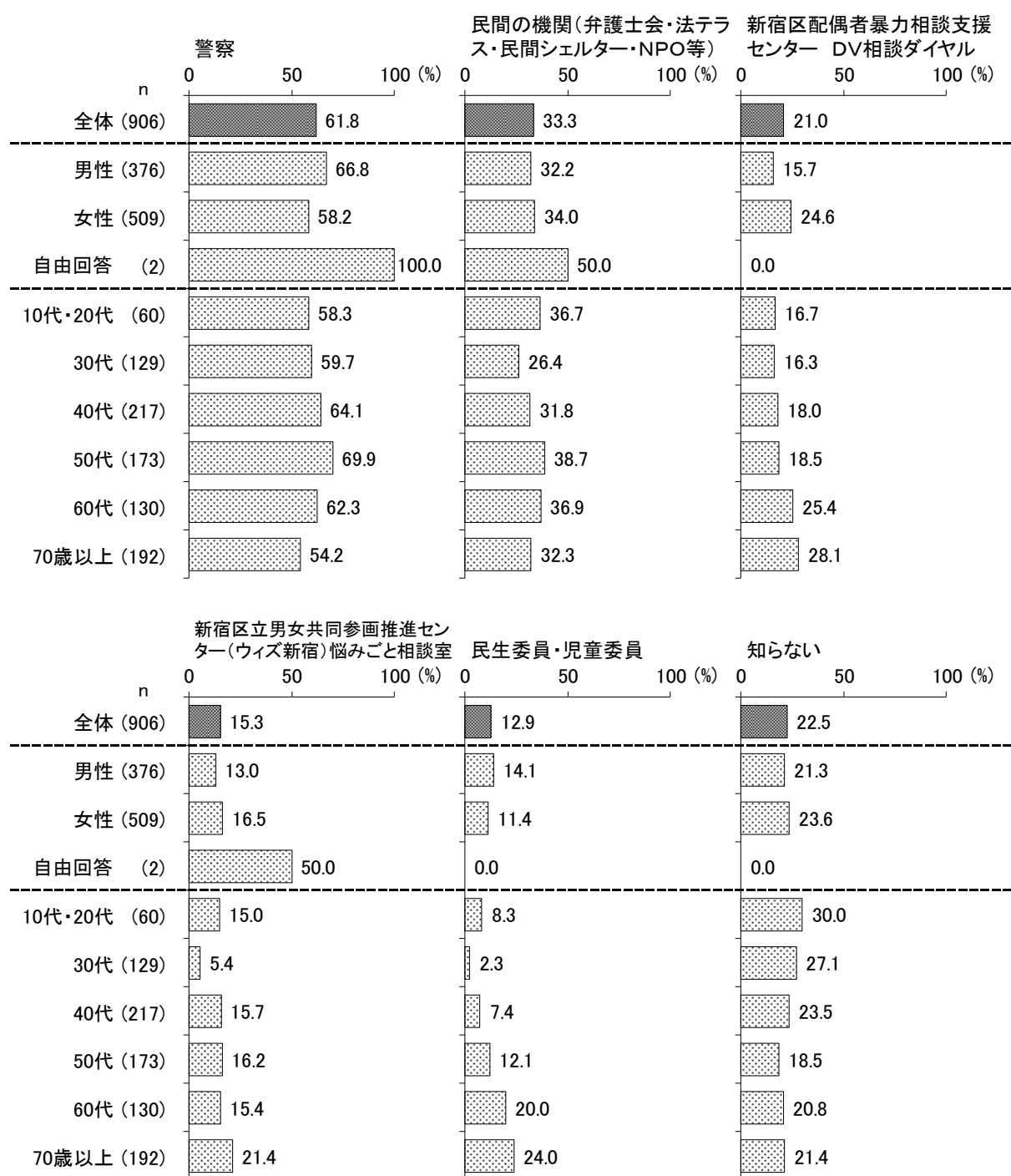
図4-7-1 DVについての相談機関の窓口について



DVについての相談機関の窓口について、「警察」(61.8%)が6割強で最も高く、次いで「民間の機関(弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等)」(33.3%)が3割台半ば近く、「新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル」(21.0%)が2割強と続いている。

一方、「知らない」(22.5%)が2割強となっている。(図4-7-1)

図4-7-2 DVについての相談機関の窓口について
(性別・年代別) 上位5項目+「知らない」



上位5項目と「知らない」について、性別でみると、「新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル」は女性(24.6%)が2割台半ば近くと、男性(15.7%)を8.9ポイント上回っている。

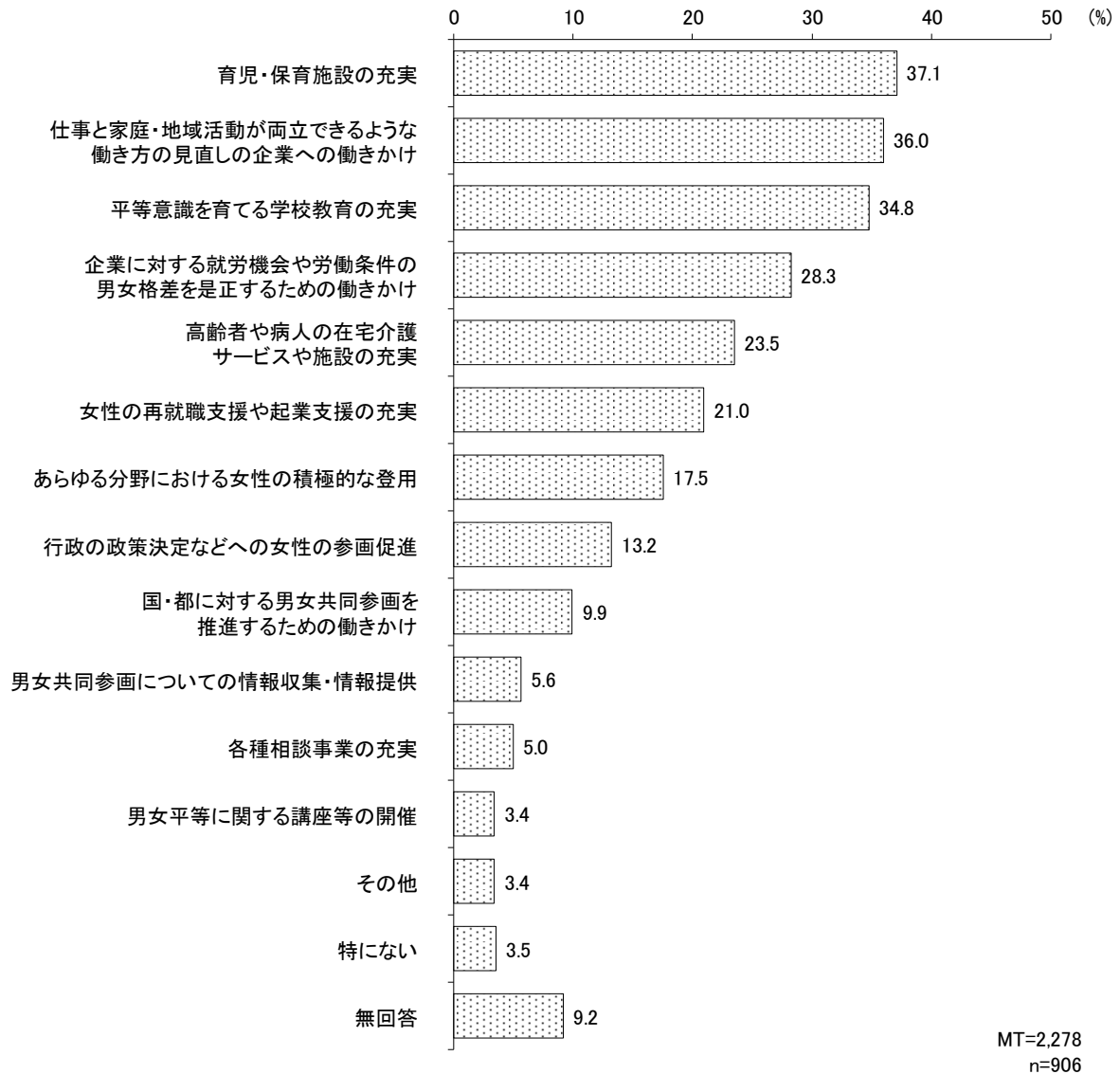
年代別でみると、「民生委員・児童委員」は70歳以上(24.0%)が2割台半ば近くと、全体(12.9%)を11.1ポイント上回っている。(図4-7-2)

（8）男女共同参画を推進するために必要なことについて

◎「育児・保育施設の充実」と「仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ」が3割台半ばを超え

問20 今後、男女共同参画を進めるために、区にどのようなことを期待しますか。 (あてはまるものに3つまで○をつけてください)		(n=906)
1	平等意識を育てる学校教育の充実	34.8%
2	男女平等に関する講座等の開催	3.4
3	女性の再就職支援や起業支援の充実	21.0
4	企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ	28.3
5	仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ	36.0
6	育児・保育施設の充実	37.1
7	あらゆる分野における女性の積極的な登用	17.5
8	行政の政策決定などへの女性の参画促進	13.2
9	高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実	23.5
10	各種相談事業の充実	5.0
11	男女共同参画についての情報収集・情報提供	5.6
12	国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ	9.9
13	その他	3.4
14	特にない	3.5
	無回答	9.2

図4-8 男女共同参画を推進するために必要なことについて



男女共同参画を推進するために必要なことについて、「育児・保育施設の充実」(37.1%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ」(36.0%)が3割台半ばを超え、「平等意識を育てる学校教育の充実」(34.8%)が3割台半ば近く、「企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」(28.3%)が3割近くと続いている。(図4-8)

Ⅲ 資料（調査票）

令和4年度 新宿区区政モニターアンケート 第1回

- テーマ1 震災に備えて
- テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて
- テーマ3 がん検診について
- テーマ4 男女共同参画に関する意識について

アンケートご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**あてはまる番号に○印**をつけてください。設問によって、**1つだけの場合や、あてはまるもの全てに○印をつけていただく場合**などがあります。問いの最後に“(○は1つ)”などと記載してありますので、確認のうえご記入をお願いいたします。
2. **前問の回答によって、次に答える設問が変わる場合があります。**
(例：問1で、「1」に○をした方におたずねします、など)
問いの前文や、回答欄の矢印等の指示に従ってお進みください。
3. 「その他」を選んだ場合には、() 内に具体的な回答をご記入ください。

全てご記入頂けましたら、同封の返信用封筒にて

整理票を取り外さず、

令和4年8月9日（火）までにご返送ください。

※整理票は、ご協力のお礼を発送するために必要なものです。開封後直ちに調査票から切り離しますので、調査票によって個人が特定されることは一切ございません。

問合せ先 新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係
電話 03-5273-4065（直通）
FAX 03-5272-5500



ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

テーマ1 震災に備えて

地震は、いつどこで発生するかわかりません。地震を防ぐことはできませんが、その被害を抑えることはできます。そのためには、自宅の耐震化や家具転倒防止対策をしておくなど、日頃からの備えが大切です。区では、皆様の住宅の耐震化と家具転倒防止対策についておたずねし、今後の取組の参考にしたいと考えています。

問1 あなたがお住まいの建物について、教えてください。(〇は1つ)

- 1 昭和55年（1980年）以前に建てられた木造住宅
- 2 昭和56年（1981年）以降に建てられた木造住宅
- 3 昭和55年（1980年）以前に建てられた非木造住宅
- 4 昭和56年（1981年）以降に建てられた非木造住宅
- 5 知らない

問2 区では、下記★印の「建築物等耐震化支援事業」を行っています。
あなたはこの事業を知っていますか。(〇は1つ)

【昭和55年（1980年）以前に建った建物に住んでいる方】

- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが、よく知らない
- 3 知らない

【昭和56年（1981年）以降に建った建物に住んでいる方】

- 4 知っている
- 5 聞いたことはあるが、よく知らない
- 6 知らない

★区では、「建築物等耐震化支援事業」として次の事業を行っています。

《 木造建物（住宅系）への支援事業 》	《 非木造建物への支援事業 》
<ul style="list-style-type: none">・ 【無料】耐震診断（予備耐震診断・詳細耐震診断）技術者派遣・ 詳細耐震診断・補強設計への助成・ 耐震改修工事、工事監理への助成	<ul style="list-style-type: none">・ 【無料】耐震アドバイザーの派遣、簡易耐震診断技術者派遣・ 耐震診断、補強設計への助成・ 耐震改修工事への助成

問3 あなたは、お住まいの建物について、耐震診断を受けたいと思いますか。(〇は1つ)

1 すでに受けた

2 受けたいが、まだ受けていない

3 受ける必要はない

4 わからない

→ 問3-1へ

問3-1 問3で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

耐震診断を受けていない理由は何ですか。

(あてはまるものいくつかでも○をつけてください)

- 1 現在受けていないが、今後受ける予定だから
- 2 制度について知らなかったから
- 3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから
- 4 建物の所有者が自分ではないから
- 5 昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから
- 6 多額の費用がかかるから
- 7 倒壊しないと思うから
- 8 信頼できる業者がないから
- 9 相談したいがどこにいったらよいかわからないから
- 10 面倒だから
- 11 その他（)

問4 お住まいの建物が耐震診断の結果で耐震補強が必要な場合、あなたは補強工事を行いたいと思いますか。(○は1つ)

1 すでに補強工事を行った

2 行いたい、まだ行っていない

3 行う必要はない

4 わからない

→ 問4-1へ

問4-1 問4で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

耐震補強工事を行っていない理由は何ですか。

(あてはまるものいくつかでも○をつけてください)

- 1 現在行っていないが、今後行う予定だから
- 2 制度について知らなかったから
- 3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから
- 4 建物の所有者が自分ではないから
- 5 昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから
- 6 多額の費用がかかるから
- 7 倒壊しないと思うから
- 8 信頼できる業者がないから
- 9 相談したいがどこにいったらよいかわからないから
- 10 自分の家屋を補強しても周辺の家屋も補強しないと意味がないと思うから
- 11 面倒だから
- 12 その他（)

問5 あなたは家具転倒防止器具を取り付けたいと思いますか。(〇は1つ)

1	すでに取り付けている	
2	取り付けたいが、まだ取り付けていない	→ 問5-1へ
3	取り付ける必要はない	
4	わからない	

問5-1 問5で、「2」または「3」に〇をした方にお伺いします。

家具転倒防止器具を取り付けていない理由は何ですか。

(あてはまるものにいくつでも〇をつけてください)

1	現在取り付けていないが、今後取り付ける予定だから
2	どのような器具を取り付ければよいかわからないから
3	家具や家屋に傷をつけるから
4	取付け作業が難しそうだから
5	お金がかかるから
6	倒れても危険ではないので、効果がないと思うから
7	面倒だから
8	転倒防止が必要な家具がないから
9	その他 ()

問6 あなたは、区が行っている家具転倒防止器具取付け事業(調査費・取付け費無料)を知っていますか。(〇は1つ)

1	知っている	2	知らない
---	-------	---	------

テーマ2 ごみの減量とリサイクルについて

新宿区は、「環境への負荷を少なくし、未来の環境を創るまち」の実現に向け、資源循環型社会の構築を目指しています。

ごみの発生抑制（リデュース：Reduce）、再使用（リユース：Reuse）、再生利用（リサイクル：Recycle）による「3R活動」の推進が重要になり、ごみとして処分する場合も、適正に分別する必要があります。

3R活動や食品ロス（※）の削減、資源・ごみの分別状況などをおたずねし、今後の普及啓発活動の向上に役立てていきたいと思えます。

（※）食品ロスとは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことで、例えば、消費期限・賞味期限切れの食品や食べ残し、調理の際に過剰に除去した食べられる部分などを指します。

問7 以下の活動（「3R活動」）の中であなたが実際に行っているものはありますか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

【リデュース】	1 必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する 2 買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする 3 食品ロスを出さないような取組を行っている 4 使い捨てになるものは、なるべく購入しない
【リユース】	5 詰め替え用商品を買う 6 リサイクルショップ・フリーマーケットを利用する 7 リース・レンタルを活用する 8 修理、リフォームして使う
【リサイクル】	9 ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す 10 トイレtpペーパーなどは、再生品を選んで購入する
	11 その他（ ） 12 特にしていない

問8 「食品ロス削減に向けた取組」について、あなたの状況を教えてください。

(ア～ケそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)

	すでに取り組んでいる	今後取り組みたい 現在取り組んでいないが、	現在取り組んでおらず、 今後もし取り組む予定はない
ア 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する	1	2	3
イ 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する	1	2	3
ウ 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する	1	2	3
エ 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする	1	2	3
オ 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす	1	2	3
カ 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する	1	2	3
キ 外食時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ	1	2	3
ク フードドライブ（※1）として食品を提供する	1	2	3
ケ フードシェアリングサービス（※2）を活用する	1	2	3

(※1) フードドライブとは、家庭等での未利用の食品（賞味期限内であるなど一定の条件があります）を回収し、食品を必要とする施設や家庭に配布することです。

(※2) フードシェアリングサービスとは、そのままでは廃棄されてしまう食品と購入希望者のマッチングを行う、スマートフォンアプリ等でのサービスのことです。

問9 「プラスチック使用削減やプラスチックごみ削減に向けた取組」について、あなたの状況を教えてください。

(ア～カそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)

	すでに取り組んでいる	現在取り組んでいないが、今後取り組みたい	現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない
ア マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない	1	2	3
イ マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器（ペットボトル等）をできる限り使用しない	1	2	3
ウ プラスチック製の食器（スプーン・フォーク等）、ストロー、おしぼり、アメニティグッズ、雨天時の傘袋等をできる限り受け取らない	1	2	3
エ 区の資源回収を利用し、容器包装プラスチック・ペットボトル等を資源として排出する	1	2	3
オ スーパーマーケット等での店頭回収を利用し、白色トレイ・ペットボトル等を資源として排出する	1	2	3
カ リサイクル材や、植物を原料としたプラスチック（バイオマプラスチック）などを使った製品を積極的に選ぶ	1	2	3

問10 新宿区では、古紙（新聞・雑誌・段ボール等）、容器包装プラスチック、びん、缶、ペットボトル、スプレー缶・カセットボンベ、乾電池を「資源・ごみ集積所」で回収しています。また、地域や集合住宅における集団回収のほか、販売店等でも一部の品目を回収しています。あなたは下記の品目をどのように出していますか。

（ア～ケそれぞれで、あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

	燃やすごみ (週2回)	金属・陶器・ガラス ごみ	資源 (週1回)	地域の 集団回収	販売店等による回収(※)
ア 新聞・チラシ	1	2	3	4	5
イ 雑誌・段ボール	1	2	3	4	5
ウ 雑がみ(菓子箱・包装紙等)	1	2	3	4	5
エ 容器包装プラスチック	1	2	3	—	5
オ びん	1	2	3	4	5
カ 缶	1	2	3	4	5
キ ペットボトル	1	2	3	4	5
ク スプレー缶・カセットボンベ	1	2	3	—	—
ケ 乾電池	1	2	3	—	5

(※) 販売店等による回収とは、スーパーマーケット等での缶、トレイ、ペットボトルの店頭回収のほか、新聞販売店等による新聞紙の回収、生協等による宅配時の容器回収などを含みます。

問10-1 問10の(ウ)雑がみ(菓子箱・包装紙等)で、「3」または「4」に○をした方にお伺いします。

雑がみのうち、資源(古紙)の日または地域の集団回収に出しているのはどれですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

- | |
|---|
| 1 菓子やティッシュの箱(ビニール等を取る)など
2 包装紙、紙袋など
3 はがき、封筒(窓空のビニール等を取る)など
4 ノート、コピー用紙、カレンダーなど
5 トイレtpペーパーの芯(つぶす、または開く)
6 名刺、レシート(感熱紙でないもの)
7 その他()
8 特にない |
|---|

テーマ3 がん検診について

がんは2人に1人がかかる身近な病気です。がん検診の受診による早期発見・早期治療が大切です。区民の方のがん検診の状況を把握し、区のがん検診事業の参考にしていきたいと考えています。

問11 新宿区では、がん検診を実施しています。区でがん検診を実施していることを知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っている } → 問11-1へ
2 知らない

問11-1 問11で、「1 知っている」に〇をした方にお伺いします。
区で実施しているがん検診を知っていますか。
(あてはまるものにいくつでも〇をつけてください)

- 1 胃がん検診
2 大腸がん検診
3 肺がん検診
4 子宮頸がん検診
5 乳がん検診
6 前立腺がん検診)

問12 区の実施するがん検診以外で、がん検診を受診する機会がありますか。(例：職場、自費での人間ドック)(〇は1つ)

- 1 ある
2 ない } → 問12-1へ

問12-1 問12で、「2 ない」に〇をした方にお伺いします。
区のがん検診を過去3年以内に受診したことがありますか。(〇は1つ)

- 1 ある
2 ない } → 問12-2へ

問12-2 問12-1で、「2 ない」に〇をした方にお伺いします。
受診しなかった理由は何ですか。(〇は1つ)

- 1 いそがしく時間がないから
2 通院中だから
3 がんが見つかるのが怖いから
4 自分には関係がないから
5 その他 ()

テーマ4 男女共同参画に関する意識について

男女共同参画とは、男女が社会の対等な構成員として性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮し、責任を分かち合いながら、ともにあらゆる分野に参画することをいいます。

皆様から日常生活のなかでの男女共同参画に関する意識や実情をおたずねし、今後の取組の参考とさせていただきます。

問13 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。

(ア～クそれぞれで、1～5に1つだけ○をつけてください)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている
ア 家庭生活で	1	2	3	4	5
イ 職場で	1	2	3	4	5
ウ 学校教育の場で	1	2	3	4	5
エ 政治の場で	1	2	3	4	5
オ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5
カ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
キ 地域活動の場で	1	2	3	4	5
ク 社会全体として	1	2	3	4	5

問14 男女共同参画に関する以下の言葉について知っていますか。

(ア～オそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)

	知っている	言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	知らない
ア 性別役割分担 ※性別によって男女で固定的な役割を分担すること	1	2	3
イ DV (ドメスティック・バイオレンス) ※配偶者やパートナーからの暴力	1	2	3
ウ デートDV ※恋人など親密な関係にある相手からの暴力	1	2	3
エ 性的マイノリティ (LGBT等)	1	2	3
オ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3

問15 働いているすべての方にお伺いします。

あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 たいへん満足している | 3 あまり満足していない |
| 2 ほぼ満足している | 4 まったく満足していない |

問16 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- | |
|------------------------------|
| 1 男女ともに労働時間の短縮をはかること |
| 2 男女ともに家事・育児・介護に参加すること |
| 3 男女ともに仕事に対する責任感をより高めること |
| 4 男女ともに技術・能力を高めること |
| 5 職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にする |
| 6 職場でのハラスメント対策が取られていること |
| 7 出産後などに職場復帰できる制度が整備・充実されること |
| 8 育児・介護休業制度が整備・充実されること |
| 9 その他 () |
| 10 特に重要だと思うことはない |

問17 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担の考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 3 どちらかといえば反対 |
| 2 どちらかといえば賛成 | 4 反対 |
| | 5 わからない |

問18 ドメスティック・バイオレンス(配偶者等からの暴力。以下、「DV」という)について、DVだと思う行為は次のうちどれですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- | |
|-------------------------------------|
| 1 何を言っても無視する |
| 2 行動を制限する |
| 3 交友関係やメールをチェックする |
| 4 「誰のおかげで食べられるんだ」「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる |
| 5 人前で侮辱する |
| 6 他人に配偶者等の悪口を言う |
| 7 大切な物をわざと壊す |
| 8 殴るふりをする等して脅す |
| 9 殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう |
| 10 首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う |
| 11 自由になるお金を制限する |
| 12 意に反した性的な行為を強要する |
| 13 無理やりポルノ等を見せる |
| 14 避妊に協力しない |
| 15 どれもあたらない |

問19 DVについての相談機関の窓口を知っていますか。

(あてはまるものいくつかでも○をつけてください)

- 1 新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル
- 2 新宿区立男女共同参画推進センター (ウィズ新宿) 悩みごと相談室
- 3 新宿区福祉部生活福祉課 (女性相談)
- 4 新宿区子ども家庭部子ども家庭課 (家庭相談)
- 5 新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター
- 6 新宿区保健センター
- 7 東京都女性相談センター
- 8 東京ウィメンズプラザ
- 9 警察
- 10 法務局人権相談窓口等
- 11 裁判所
- 12 民間の機関 (弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等)
- 13 民生委員・児童委員
- 14 その他 ()
- 15 知らない

問20 今後、男女共同参画を進めるために、区にどのようなことを期待しますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- 1 平等意識を育てる学校教育の充実
- 2 男女平等に関する講座等の開催
- 3 女性の再就職支援や起業支援の充実
- 4 企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ
- 5 仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ
- 6 育児・保育施設の充実
- 7 あらゆる分野における女性の積極的な登用
- 8 行政の政策決定などへの女性の参画促進
- 9 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実
- 10 各種相談事業の充実
- 11 男女共同参画についての情報収集・情報提供
- 12 国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ
- 13 その他 ()
- 14 特にない

—— 引き続き、回答者の属性のご記入をお願いします ——

※調査結果を統計処理する際に必要ですので、次ページ以降の回答者の属性もご記入ください。

※調査票についている「整理票」は、ご協力のお礼をお送りするために必要ですので、取り外さずにそのままご返送ください。区に到着後、整理票は調査票から取り外して保管しますので、調査票から個人が特定されることはございません。

回答者の属性

問ア あなたのお住まいの地域（所管する特別出張所の地域）をお選びください。（〇は1つ）

- | | |
|-------|-----------|
| 1 四谷 | 6 戸塚 |
| 2 簗笥町 | 7 落合第一 |
| 3 榎町 | 8 落合第二 |
| 4 若松町 | 9 柏木 |
| 5 大久保 | 10 角筈・区役所 |

問イ 性別をお答えください。（〇は1つ）

- | | | |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 () |
|------|------|-------|

問ウ あなたの年齢（満年齢）を、次の中からお選びください。（〇は1つ）

- | | |
|----------|-----------|
| 1 18～19歳 | 8 50～54歳 |
| 2 20～24歳 | 9 55～59歳 |
| 3 25～29歳 | 10 60～64歳 |
| 4 30～34歳 | 11 65～69歳 |
| 5 35～39歳 | 12 70～74歳 |
| 6 40～44歳 | 13 75～79歳 |
| 7 45～49歳 | 14 80歳以上 |

問エ あなたのご職業を、次の中からお選びください。（〇は1つ）

- | | |
|------------------------------|---------|
| 1 会社員・団体職員 | → 問エー1へ |
| 2 会社役員・団体役員 | |
| 3 パート・アルバイト、非常勤、嘱託、派遣など | |
| 4 自営業、自由業（開業医、弁護士、司法書士なども含む） | |
| 5 学生 | |
| 6 専業主婦・主夫 | |
| 7 無職 | |
| 8 その他 () | |

問エー1 問エで、「1」～「5」に〇をした方にお伺いします。現在のあなたの職場・学校はどこにありますか。（〇は1つ）

- | | |
|--------|--------|
| 1 新宿区内 | 2 新宿区外 |
|--------|--------|

問オ 現在、あなたは誰かと同居していますか。同居している場合は、あなたからみた続柄で、同居している方すべてに○をしてください。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

<ul style="list-style-type: none">1 子2 妻または夫3 親4 祖父母5 孫6 兄弟姉妹7 その他 ()8 ひとり暮らし	1～7の方は、 → 問オ-1～問オ-2へ
---	-------------------------

問オ-1 問オで、「1」～「7」に○をした方にお伺いします。同居している人は、あなたを除いて全員で何人ですか。

(【 】の中に人数を記入してください。)

同居している人は、あなた+【 】人

問オ-2 問オで、「1 子」に○をした方にお伺いします。同居している子の就学状況は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

1 一番上の子が小学校入学前	3 一番上の子が高・大学生
2 一番上の子が小・中学生	4 一番上の子が学校を卒業

問カ あなたは新宿区に住んで何年になりますか。(○は1つ)

1 1年未満	5 10年以上20年未満
2 1年以上3年未満	6 20年以上30年未満
3 3年以上5年未満	7 30年以上
4 5年以上10年未満	

問キ 現在のあなたの住宅の形態は、次のうちどれですか。(〇は1つ)

一戸建て	集合住宅
1 持ち家の一戸建て	5 分譲マンション・アパート (自己所有のものを含む)
2 賃貸の一戸建て	6 賃貸マンション・アパート
3 社宅・公務員官舎の一戸建て	7 賃貸のUR都市機構(旧公団) ・公社のマンション・アパート
4 その他 ()	8 賃貸の都営・区営住宅
	9 社宅・公務員官舎
	10 その他 ()

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

お手数をおかけしますが、同封の返信用封筒にて、

整理票を取り外さず、

8月9日(火) までにご返送ください。

(返送・問合せ先)

〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1

新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係

電話 03-5273-4065 (直通)

FAX 03-5272-5500

令和4年度第1回新宿区区政モニターアンケート

令和4年11月発行

編集・発行

新宿区総合政策部区政情報課広聴係

東京都新宿区歌舞伎町1-4-1

電話(03)5273-4065(直通)

印刷物作成番号

2022-16-2106

この印刷物は、業者委託により320部印刷製本しています。その経費として、1部あたり288円(税込み)がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。

